岡山大学構内遺跡調査研究年報16

１９９８年度

２０００年１月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

岡山大学構内遺跡調査研究年報16

１９９８年度

２０００年１月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

1998年度における当センターの事業は，あいつぐ発掘調査への対応で追われることとなりました。鹿田地区では，前年度から継続している医学部校舎（基礎医学棟）新営地の調査のほかに，医学部附属病院のＲＩ治療室新営と2000平方メートルをこえる面積の病棟新営に伴う発掘調査を実施しました。津島地区では，コラボレーションセンター新営と環境理工学部校舎第２期工事に伴う調査が続きました。

鹿田地区医学部校舎の調査では，現在の鹿田地域一帯の地割り方位にそって東西・南北にのびる中世の大溝を確認し，この溝で囲まれた一面には井戸や建物の柱跡が密集する集落がひろがっていました。大溝からは，猿回しの猿をかたどり顔や烏帽子に朱を施した木製品が出土し，稀少資料として学会やマスコミの注目をあびたところです。ちょうど鎌倉時代の『吾妻鏡』には美作で手に入れた猿に烏帽子装束を着けて舞わせたという記事があり，この種技芸の歴史をたどるうえで貴重な資料となりそうです。

また，病棟新営地の調査でも中世の溝・建物柱穴・井戸・木棺墓などを確認しており，木の幹の一面を削りだしてまじないの文字を書きつけた呪符木簡など，貴重な遺物の発見もありました。本年度は，とりわけ中世の鹿田遺跡を考えるうえで特筆すべき成果を得た年といえるかもしれません。

一方，発掘現場に追われて室内作業が停滞したことは遺憾でありました。予定していた報告書の刊行を先伸ばしにせざるをえなかったわけですが，今後早い時期に遅れを取り戻すよう努めたいと思っています。

ともあれ，数多くの発掘調査を大過なく終えることができたのは，事務局及び関係部局の真摯な協力によるところが多く，各機関・各位にあらためてお礼を申し上げる次第です。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長
稲　田　孝　司

例　　言

1　本報告は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1998年４月１日から1999年３月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存，および活動成果をまとめたものである。

2　大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては，設定基準を次のように定めた。

1）津島地区では，国土座標第Ⅴ座標系（X＝－144,500m，Y＝－37,000m）を起点とし，真北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形区画である。また，同地区では調査の便宜上，大きく津島北地区と同南地区に二分する（図37）。

2）鹿田地区では，国土座標第Ⅴ座標系（X＝－149,800m，Y＝－37,400m）を起点とし，座標軸をN－15°－Eに振ったものを基軸とした構内座標を設定した。

3）本文中で用いる方位は，津島地区・鹿田地区は真北を，他は磁北を用いている。

4）地区割については，任意の場合もある。

3　岡山大学構内の遺跡の名称は，周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。津島地区構内については，全域を「津島岡大遺跡」と総称する。三朝地区の発掘調査地点は小字名をとり「福呂遺跡」と呼称する。他地区は任意の名称で仮称する。

4　調査名称は，「発掘調査」に分類したものについては，各遺跡毎に調査順に従って次数番号で呼称し，「試掘調査」「立会調査」に分類したものは，任意の名称を用いる。

5　「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり，詳細は正式報告に依って頂きたい。「試掘調査」については，本年報での記述を正式報告にかえる。

6　表に記載した所属部は，原則として各学部の頭文字を略号として用いている。また，表中で使用している距離の単位は「m（メートル）」に統一している。

7　本号より，附表２－（２）に掲載する調査一覧については，中世以前のみとし，その他については除外した。未掲載のデータについては，当センターにおいて管理している。

8　本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表１と一致する。

9　本文は調査員が分担執筆し，執筆者名を末尾に記した。

10　編集は稲田孝司センター長の指導のもとに，小林青樹が担当した。

11　本年報に掲載の地形図は，すべて国土地理院発行の１/25000「岡山北部」・「倉敷」を複写したものである。

岡山大学構内遺跡調査研究年報16　1998年度

目　次

第１章　1998年度岡山大学構内遺跡調査報告

第１節　調査の概要 …… 1

第２節　発掘調査 …… 1

1　津島地区 …… 1

（１）津島岡大遺跡第18次調査〈福利施設（南）ポンプ槽〉 …… 1

（２）津島岡大遺跡第19次調査〈コラボレーションセンター〉 …… 3

（３）津島岡大遺跡第20次調査〈環境理工学部校舎（Ⅰ期）ポンプ槽〉 …… 8

（４）津島岡大遺跡第21次調査〈工学部エレベーター〉 …… 10

（５）津島岡大遺跡第22次調査〈環境理工学部校舎（Ⅱ期)〉 …… 13

2　鹿田地区 …… 15

（１）鹿田遺跡第７次調査〈医学部校舎〉 …… 16

（２）鹿田遺跡第８次調査〈医学部附属病院ＲＩ治療室〉 …… 18

（３）鹿田遺跡第９次調査〈医学部附属病院病棟〉 …… 19

第３節　試掘調査 …… 23

1　津島地区 …… 23

（１）コラボレーションセンター新営に伴う試掘調査 …… 23

（２）環境理工学部校舎（Ⅱ期）新営に伴う試掘調査 …… 25

（３）工学部システム工学科校舎新営に伴う試掘調査 …… 27

（４）津島キャンパス東北隅地域試掘調査 …… 28

2　鹿田地区 …… 32

（１）医学部附属病院病棟新営に伴う試掘調査 …… 32

3　倉敷地区 …… 34

（１）資源生物研究所バイオ実験棟新営工事関連試掘調査 …… 34

第４節　立会調査 …… 35

1　津島地区 …… 35

2　鹿田地区 …… 36

3　東山地区 …… 36

第２章　1998年度普及・研究・資料整理活動 …… 43
1　資料整理 …… 43
2　刊行物 …… 43
3　調査員の活動 …… 43
4　日誌抄 …… 45
5　1998年度までの遺物保管状況 …… 46
6　遺物の保存処理 …… 46
第３章　岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項 …… 50
第１節　岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程 …… 50
1　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程 …… 50
2　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規程 …… 51
3　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程 …… 52
4　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程 …… 53
第２節　1998年度埋蔵文化財調査研究センター組織 …… 54
1　センター組織一覧 …… 54
2　管理委員会 …… 54
3　運営委員会 …… 55
第４章　1998年度活動報告のまとめ …… 56
附表 …… 58

挿　図　目　次

図１　津島岡大遺跡第18次調査地点位置図 …… 2
図２　土層柱状図 …… 2
図３　津島岡大遺跡第19次調査地点位置図 …… 4
図４　土層断面模式図と断面の位置 …… 5
図５　古墳時代検出遺構平面図 …… 6
図６　縄文時代後期検出遺構平面図 …… 7
図７　津島岡大遺跡第20次調査地点 …… 8
図８　各層の検出遺構平面図と土層断面図 …… 9
図９　津島岡大遺跡第21次調査地点と周辺の状況 …… 10
図10　北壁・西壁断面図 …… 11

図11　縄文時代後期の石庖丁状石器 …… 12
図12　津島岡大遺跡第22次調査地点位置図 …… 13
図13　近世面検出遺構平面図 …… 14
図14　1998年度鹿田地区発掘調査地点位置図 …… 15
図15　鹿田遺跡第７次調査土層柱状図 …… 16
図16　中世面検出遺構平面図 …… 17
図17　古墳時代前期面検出遺構平面図 …… 18
図18　土層柱状図 …… 19
図19　中世面検出遺構平面図（Ａ区） …… 19
図20　鹿田遺跡第９次調査２・３層検出遺構平面図（Ａ区） …… 21
図21　鹿田遺跡第９次調査２・３層検出遺構平面図（Ｂ区） …… 21
図22　鹿田遺跡第９次調査４・５層検出遺構平面図（Ａ区） …… 22
図23　鹿田遺跡第９次調査４・５層検出遺構平面図（Ｂ区） …… 22
図24　コラボレーションセンター試掘調査地点 …… 23
図25　土層断面模式図 …… 24
図26　環境理工Ⅱ期試掘調査地点位置図 …… 26
図27　土層断面図 …… 26
図28　システム工学科調査地点位置図 …… 27
図29　土層断面図 …… 28
図30　馬場周辺調査地点位置図 …… 29
図31　土層断面図 …… 30
図32　医学部病棟調査地点位置図 …… 32
図33　土層柱状模式図 …… 33
図34　資生研バイオ実験棟試掘調査地点位置図 …… 35
図35　試掘調査地点 …… 35
図36　土層柱状図 …… 35
図37　津島地区全体図 …… 38
図38　今年度の調査【１】津島地区 …… 39
図39　今年度の調査【２】鹿田地区 …… 41
図40　今年度の調査【３】東山地区 …… 42
図41　1998年度までの調査地点【１】津島地区 …… 67
図42　1998年度までの調査地点【２】鹿田地区 …… 69

図43　1998年度までの調査地点【３】三朝地区 …… 70

表　目　次

表１　1998年度調査一覧 …… 37
表２　埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物一覧 …… 47
附表１　1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）…… 58
附表２　1998年度以前の構内主要調査（1983～1998年度）…… 59
附表２－（１）発掘調査 …… 59
附表２－（２）試掘調査 …… 60
附表２－（３）立会調査 …… 62
附表３　埋蔵文化財調査室刊行物 …… 65
附表４　埋蔵文化財調査研究センター刊行物 …… 65

第１章　1998年度岡山大学構内遺跡調査報告

第１節　調査の概要

当センターにおいては大学構内における掘削を伴う工事に際し，事務局施設部企画課を通じて事務手続きを行ったうえで，発掘調査・試掘調査・立会調査にわけて調査を実施している。

これまでのところ，その調査の対象は津島地区と鹿田地区とが中心になっており，特に鹿田地区は周知の遺跡（鹿田遺跡）として，掘削を伴う工事に際し，届出を提出した上で対応を行っている。また，津島地区においても，新たな遺跡の確認が進んでいることから，遺跡名称を「津島岡大遺跡」と総称し，届出の有無にかかわらず，立会調査等を実施している。昨年度は三朝地区で新規に遺跡を発見し，発掘調査を実施した。遺跡の名称は小字名をとって「福呂遺跡」としている。今年度は，これらに加えて倉敷地区の資源生物研究所において試掘調査を行っている。

1998年度は，発掘調査８件（津島地区５件・鹿田地区３件），試掘調査６件（津島地区４件・鹿田地区６件・倉敷地区１件），立会調査41件（津島地区34件，鹿田地区６件，東山地区１件）を実施した。そのうち発掘調査・試掘調査については本章でその概要を述べ，立会調査の詳細については表１に記す。

第２節　発掘調査

１　津島地区

（１）津島岡大遺跡第18次調査〈福利厚生施設（南棟）新営に伴うポンプ槽取設工事に伴う調査　津島南BB11区〉

ａ．調査にいたる経緯

福利厚生施設南棟の建設に伴い，ポンプ槽の埋設工事が実施されることになった。工事に伴う掘削面積は16㎡，深さ2.4mと小規模なものであった。本調査地点（図１）の東側に隣接する第10次調査地点や付近での立会調査では，遺構密度が高く遺物も多数出土した。西側の第14次調査地点では，良好な微高地が本調査地点に向かって広がってくることが予想できる状況であった。本調査地点は掘削範囲・深度は大きくないが，こうした周辺での調査成果から，良好な包含層が存在する可能性があると判断し，発掘調査を実施することとした。

調査期間は，４月６日～10日ののべ４日間であり，調査員１名が調査にあたった。

ｂ．調査の成果

①　層序と地形（図２）

現地表は標高4.05～4.1mである。1層は1907～1908年にかけて行われた旧陸軍屯営地建設に伴う造成土である。

2層は明治期の耕作土である。青灰色の粘質土層で，大きさが5㎜前後の小礫を多く含む。

3～6層は近世段階の土層と考えられる。3層は淡灰色の砂質土で，鉄分の沈着が顕著である。この層は調査区の東半部分でのみ確認できた。4層は淡黄褐色の砂質土である。5層は淡茶灰色の砂質土で，土層は4層に似ているが鉄分を多く含む点で4層とは区別した。5層は下層の6層を削平して堆積していることが，西壁の観察から分かった。6層は淡黄灰色砂質土である。上面で溝状の遺構を1条検出した。どの層からも遺物はほとんど出土しておらず，時期決定は周辺の調査状況を参考にした。

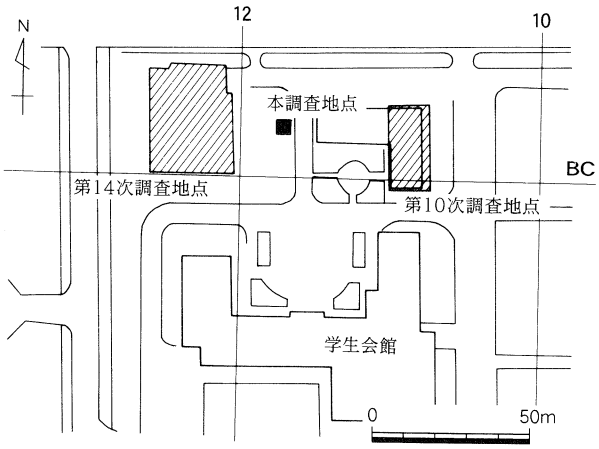


図1　第18次調査地点位置図（縮尺1/2,500）

7層は灰色の砂質土で，比較的固くしまりがよかった。調査区の東半部でのみ確認できた。土層が形成された時期は，時期決定ができる遺物が少ないためはっきりしないが，中世の段階

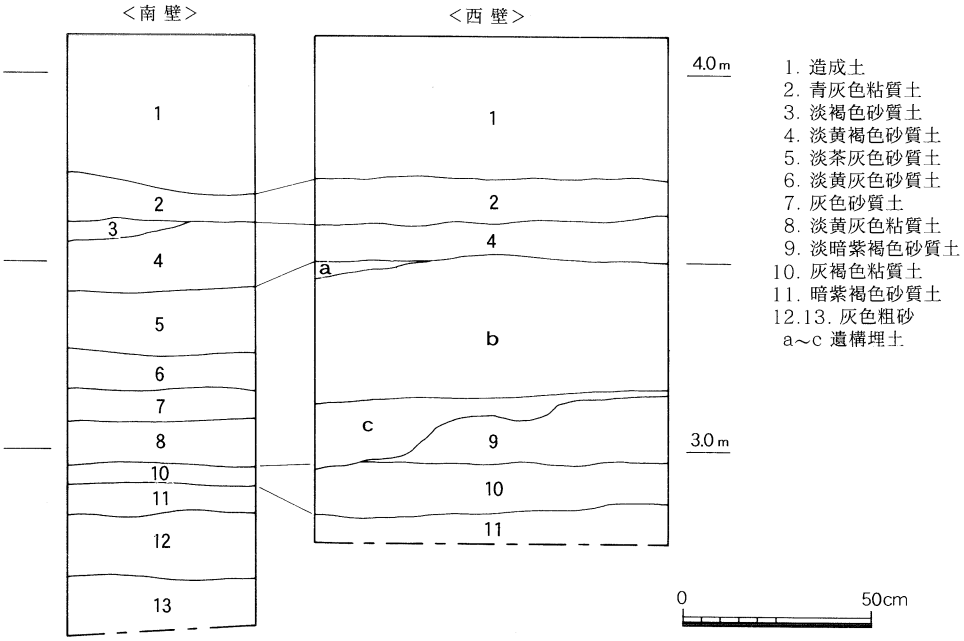


図2　土層柱状図（縮尺1/20）

と考えている。

8層は淡黄灰色砂質土で，鉄分の影響で黄色に近い色調を呈している。上面では，古代の土器片を少量含む溝状遺構を1条検出した。土層の形成時期は，古代以前であろう。

9層は淡暗紫褐色の砂質土である。本層は調査区の北半部にのみ存在していた。南側を8層で検出した溝状遺構によって削平されており，本来はどこまで広がっていたか明確にできなかった。土層断面では西壁でのみ確認しており，東壁では見られないことから，本調査区付近で終息すると考えられる。第14次調査地点の11層に土質や堆積状況が酷似している。9層がこの層と対応するならば，本層の時期は古墳時代中期頃になるであろう。

10層は灰褐色の粘質土である。西に向かうにしたがい粘質が強くなる。

11層は暗紫褐色砂質土層で，マンガンの沈着が顕著である。しまりがよくて固い。西，つまり第14次調査地点のほうに向かうにしたがって，マンガンの沈着量が減少する。津島一帯に広がる弥生時代早期～前期に形成される「黒色土」に対応する層だと考えられる。

12，13層は灰褐色砂層で，基盤層である。縄文時代の包含層は確認できなかった。

本調査地点は，第14次調査地点からのびる微高地から若干下がった場所に位置していると推定される。それでも地形的には高所に位置していたらしく，「黒色土」は認められなかった。

② 遺構と遺物

遺構は古代の溝状遺構1条と近世の溝状遺構1条を検出している。古代の溝は，8層の上面で検出した。溝は北東から南西方向に向かって走っており，ほぼ地形に沿って掘られたようである。この溝の最下層では，摩滅した土器の小片が少量出土している。近世では，溝状の遺構を検出したが，調査区が狭いためこの遺構の大半は調査区外にある。

c．まとめ

本調査地点は第10次調査地点と第14次調査地点のほぼ中間に位置しており，この付近での古地形の状況が概ね明らかになった。第14次調査地点の南東部からのびる微高地が，少なくとも第10次調査地点あたりまでは広がっているようである。本調査地点では遺構や遺物は希薄であったが，井戸や多数の土坑が見つかった第10次調査地点，溝を検出した第14次調査地点の成果をあわせれば弥生時代後期や古墳時代後期の集落のあり方が復元できよう。　（横田美香）

（2）津島岡大遺跡第19次調査〈コラボレーションセンター新営工事に伴う調査　津島北AZ 09・10区〉

a．調査にいたる経緯

当調査地点は岡山大学津島北地区に所在する理学部棟の南東に位置し（図3），調査前には駐車場として利用されていた。今回，コラボレーションセンターが新営されることとなり，

1998年５月18，19日に試掘調査を行った（詳細は第１章第３節参照）。

試掘調査の結果，建物建設予定地の中央を河道ないしかなり幅広の溝が通ることが予想される一方，調査区の南半と北辺には黒色土の堆積がみられ，微高地状を呈していることが予測された。

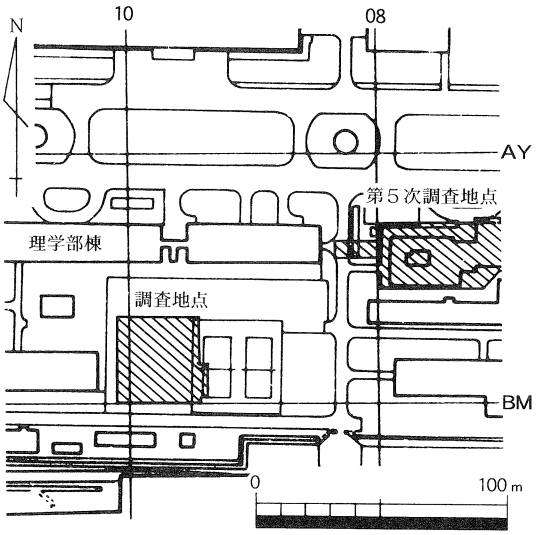


図３　第19次調査地点位置図（縮尺1/3,000）

ｂ．調査の経過

以上のような試掘調査の成果をうけて1998年７月27日～1999年２月18日の期間で発掘調査を実施した。

造成土の掘削は1998年７月17日から開始した。機械による造成土掘削は５日で終了し，７月27日から本格的な発掘調査に入った。以後，調査員３名で12月まで明治，近世，中世，古代，古墳，弥生時代層を，1999年１月からは縄文時代層の調査を調査員２名で行った。

なお，1999年１月30日に一般の現地説明会，２月１日には理学部関係者を対象とした説明会を開催した。いずれも多くの参加者を得ることができた。

ｃ．調査の成果

①　層序（図４）

現地表面の標高は約4.8mであり，地表下約1.2～1.3mが近代以降の造成土（１層）である。２層は暗灰色～暗青灰色を呈する粘質土で，明治期の耕作土である。３～５層は黄褐色～暗灰褐色の砂質～弱粘質土で近世に比定される。近世以降はほぼ水平に堆積し，調査区全体で認められる。５層より下位については，調査区南東部が微高地状に高まるため，調査区全体の堆積は一様ではない。６層は灰褐色粘質土である。７層は灰褐色～暗青灰褐色粘質土である。６，７層は中世に比定される。８層は灰褐色砂質土である。古代に比定されると考える。９層は暗灰褐色砂質土である。10層は黄灰褐色粘質土である。11層は暗褐色砂質土である。この暗褐色砂質土は津島地区で「黒色土」と呼称している弥生時代前期に比定される鍵層である。12層は明黄褐色砂質土である。縄文時代後期の基盤層と考えられる。13層以下は調査区南側で確認できた。13層は明茶褐色砂質土である。調査区南東の微高地上では12層が堆積しておらず，上面で縄文時代後期の遺構を確認した。さらに下位の14層は茶褐色砂礫層である。15層は暗茶褐色砂質土である。14，15層では遺構・遺物は確認できなかった。

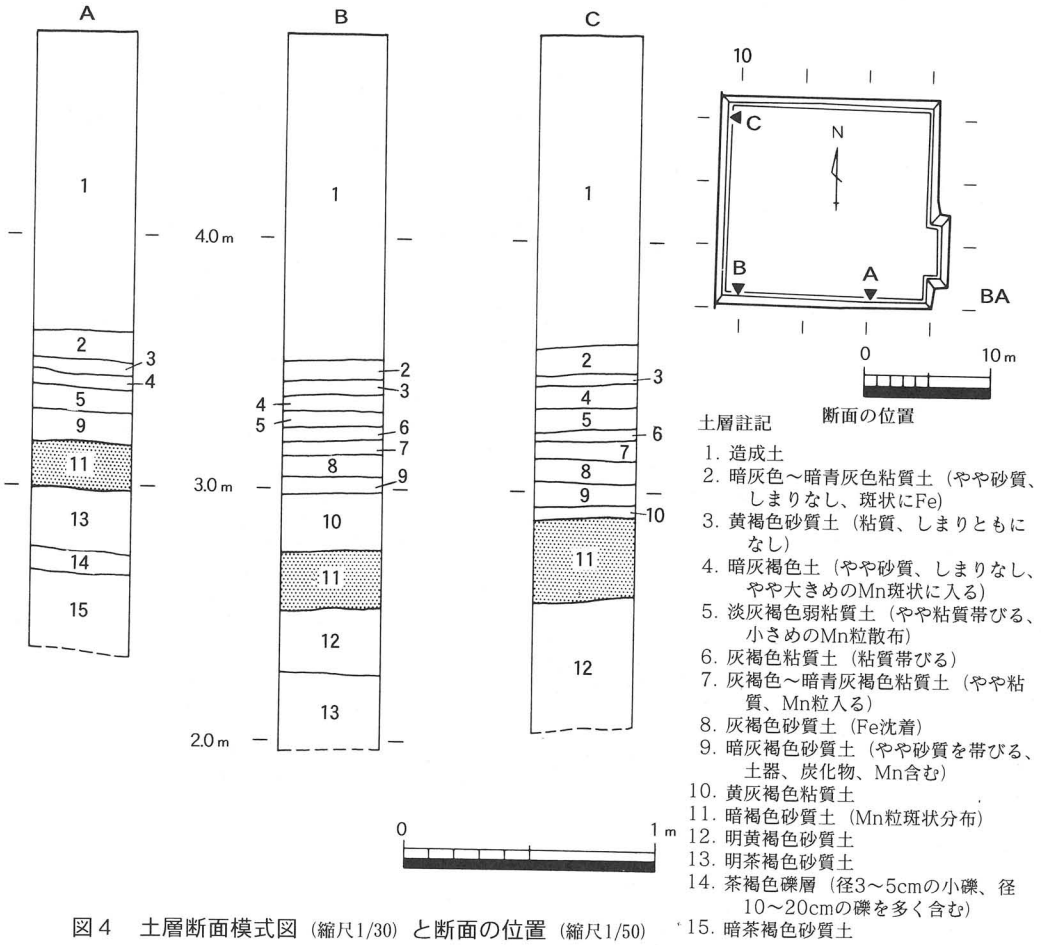


図４　土層断面模式図（縮尺1/30）と断面の位置（縮尺1/50）

② 遺構・遺物

調査によって確認した遺構には，明治から近世の耕地・道路・溝，中世の溝群と水田，古代の溝群，古墳時代から弥生時代後期の溝群・土坑，弥生時代前期の水田と貯蔵穴，河道と導水施設状の遺構，縄文時代後期の炉跡や土坑などがある。

近世では正方位に合わせた南北方向に延びる道路を確認した。この道路は約４ｍの幅員を有する。両側には幅約1.5ｍの側溝が掘削されている。しかし，この道路は地籍図等に残された津島周辺の土地の境界には合致しない。今後の調査でその理由を解明していく必要があろう。

中世では幅約１～3.5ｍの６条の溝を検出した。これらの溝には杭を打ち込んだ痕跡や，水口などが確認されたものもあり，水利調節を行ったものと考えられる。

古代では幅の狭い溝を数条確認したが，そのうちの１条には多数の小穴がほぼ等間隔に掘削

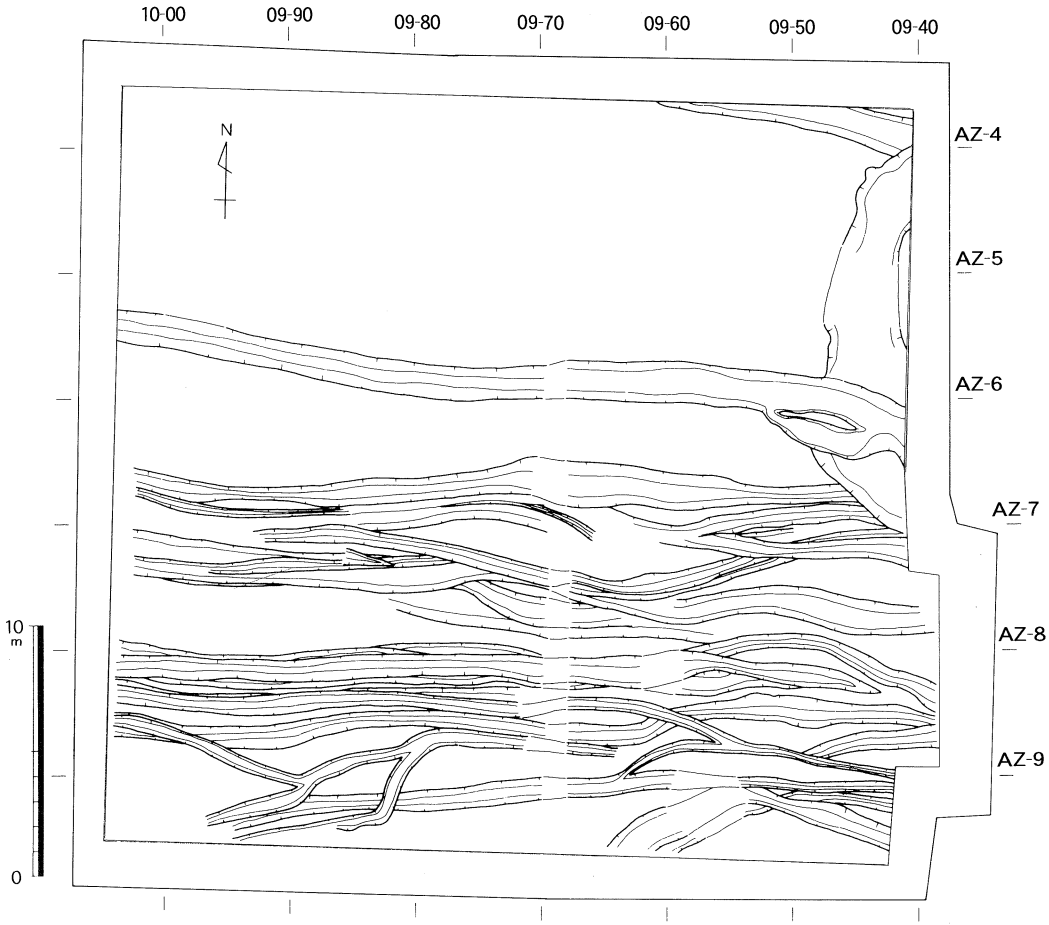


図５　古墳時代検出遺構平面図（縮尺1/300）

される。杭などを打った痕跡とも考えられる。

古墳時代から弥生時代後期では東から西へ流れる溝が多数重複して掘削された状況を確認した（図５）。これらの溝からは鉄製の鍬先や須恵器などの土器，弥生時代の大型の石鏃が出土している。

弥生時代前期では水田，貯蔵穴，河道と河道に向かって南北に延びる導水施設状の遺構を確認した。河道は幅約10～13mあり，河道の底からは弥生時代前期の土器が出土している。この河道はほぼ東西に流れているが，東側では少し北側に振れている。北東に位置する第５次調査地点では縄文時代後期の河道を確認している。この河道は弥生時代前期には低湿地化しており，今回調査した河道は新しい段階になって流路がつけ変わったものとも考えられよう。

河道の南岸では貯蔵穴７基を確認した。いずれの貯蔵穴からも堅果類などは確認されなかった。貯蔵穴の下には南から北に延び，河道に向かって掘り込まれたと思われる導水施設状の遺

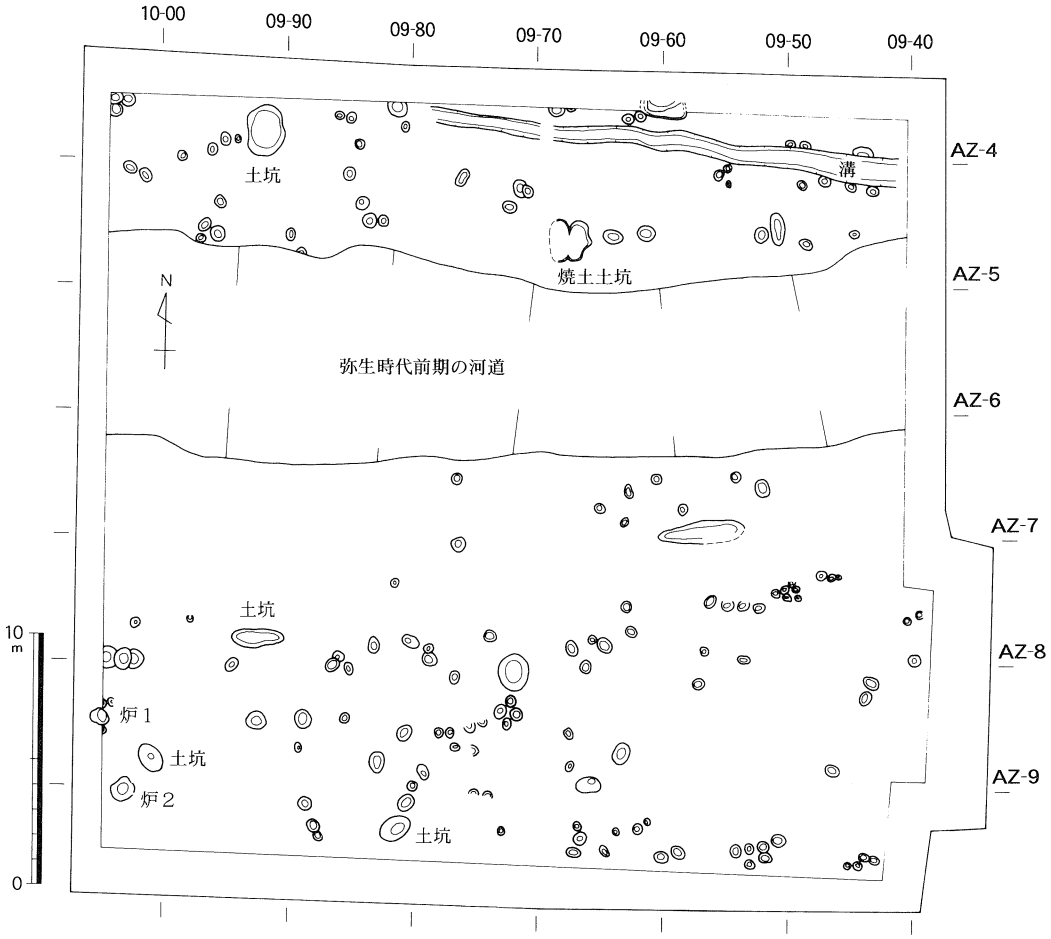


図６　縄文時代後期検出遺構平面図（縮尺1/300）

構がある。この遺構のはっきりとした性格は現在のところ不明であり，今後の調査で明らかにしていく必要がある。

縄文時代後期では数基の炉跡や多数の土坑，小穴群を確認した（図６）。遺物は縄文土器のほか，石錘，石皿，叩石，石鏃などが出土した。

ｄ．まとめ

今回の調査では津島地区におけるこれまでの調査成果を再確認することができただけでなく，新たな認識も得られた。

まず，近世の道路遺構について，津島地区で確実に道路遺構と考えられる初めてのものである。また，南北方向の区画はこれまではっきりと認識できたものは少ない。溝による区画は東西方向のものが主体であり，今回南北方向の区画を検出できたことは重要な成果といえる。ただし，この道路は地籍図等の記録には認められない。この理由の解明は今後の調査に課題とし

て残された。

また，河道は弥生時代前期には縄文時代の流路と大きく変わらない，あるいは堆積が進み低湿地化すると考えられていたが，今回検出した河道は最下層に弥生時代前期の遺物を包含し，縄文土器を全く含んでいない。したがって，弥生時代前期に形成された河道である可能性が高いといえよう。このことは弥生時代前期においても未だ安定的な流路が形成されていなかったことを示している。

縄文時代後期以前に形成された調査区南東の微高地については，礫層（14層）以下では遺物等を確認することができなかった。そのため，微高地の形成された年代についての手掛かりは得られなかった。しかし，津島地区北東に位置する朝寝鼻貝塚の成果を参考にすると，今後津島地区において縄文時代後期以前に形成された微高地を調査する場合には少なくとも縄文時代前期までを視野に入れて調査する必要性が生じてきたといえる。

以上が本調査の現時点での成果と課題である。なお，本調査は現在整理途上にあり，本報告の内容は暫定的なものであることを断っておきたい。（野崎）

註（1）富岡直人ほか　1998　『岡山市津島東３丁目　朝寝鼻貝塚発掘調査概報』加計学園埋蔵文化財調査室発掘調査報告書２

（３）津島岡大遺跡第20次調査〈環境理工学部校舎（Ｉ期）新営に伴うポンプ槽取設工事に伴う調査　津島北AW02・03区〉

ａ．調査にいたる経緯

調査地点は，大学院自然科学研究科棟の北側門前の地点に位置する（図７）。南側に位置する大学院自然科学研究科棟の地点は，1988年に調査を行った津島岡大遺跡第５次調査地点である。今回はこの北側の部分に，環境理工学部新営建物の第Ｉ期工事に伴うポンプ槽が取設されることになり，調査を行った。第５次調査地点では縄文期の河道が検出されており，今回はこの河道に関係する微高地，もしくは河道に接続する支流等の存在が推測された。

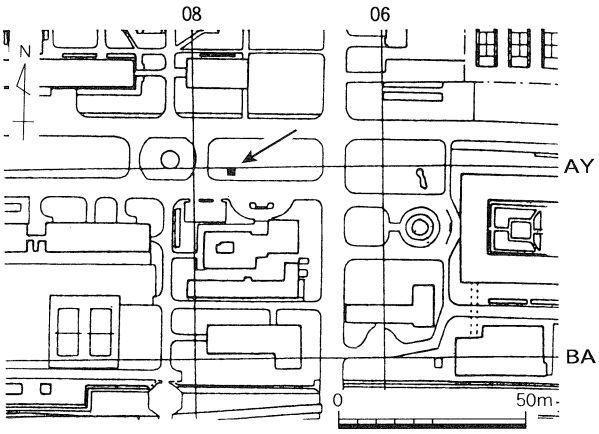


図７　第20次調査地点（縮尺1/2,000）

ｂ．調査の経過

調査は，矢板を打ち込んだ後，内側の４ｍ四方を掘り下げた。調査は中世，黒色土上面，黒色土下の３面の調査を行った。期間は1998年10月

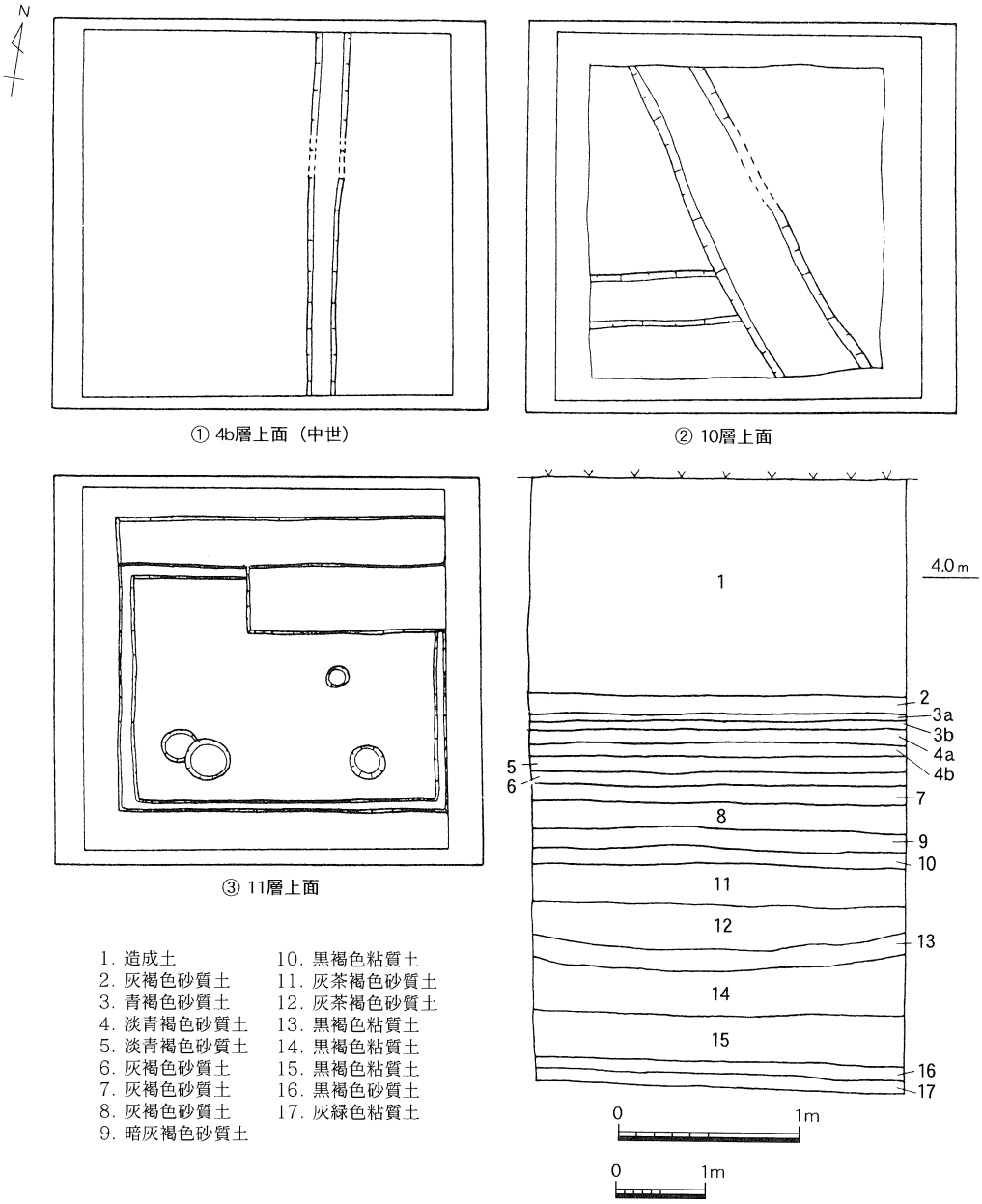


図８　各層の検出遺構平面図と土層断面図（平面図縮尺1/80・断面図縮尺1/40）

19～28日まで実施し，調査員１名がこれを担当した。

ｃ．調査の概要

① 層序

調査区内の土層堆積状態について以下に概要を示す（図８右下）。基本土層の堆積状況は，10層とした黒色層１までは通常の地点と変わらない状況を示している。しかし，10層の黒色層

1以下は，12・13層のおそらく縄文後期段階の層を挟んで，13層以下で黒色層2が厚く堆積しており河道の可能性が高い。

② 遺構と遺物

以下で，中世（4b層）上面，黒色土1（10層）上面，11層上面において検出した遺構について述べる。

中世（4b層）上面では，溝を1基検出した。南北方向に走る細い小溝である（図8—①）。黒色土1（10層）上面では，溝を2基検出した。北西隅から南西隅に斜めに流れる中型溝と，東西に走る小溝があり，前者が後者を切っている（図8—②）。11層上面では，小型のピットを4基検出した（図8—③）。

d．まとめ

今回，発掘調査を行った地点は，黒色土1までは通常の地点と同様な堆積状況を呈しているが，縄文後期の層以下で旧河道の存在を明らかにできた。おそらく，調査地点の南側の津島岡大遺跡第5次調査で検出された縄文後期の河道が形成される以前に，今回の地点にその本流の方向が振っていた可能性を推測できる。津島岡大遺跡では，縄文後期以降に急激に遺跡数が増加するが，今回の結果は，調査地点付近において縄文後期以前の河道が存在し，やや低地の広がる地形であったことが判明した点に成果がある。（小林）

（4）津島岡大遺跡第21次調査〈工学部エレベーター新設工事に伴う調査　津島北AX09区〉

a．調査にいたる経緯

工学部本館の南玄関脇に，身体障害者用エレベーターの建設が計画された。周辺では第11～13・19次調査などを実施している。これらの調査では，近世から縄文時代の包含層や遺構を確認しており，該地も同様の状況をしめすものと想定し，発掘調査を行うこととした。調査面積は30.2㎡である。

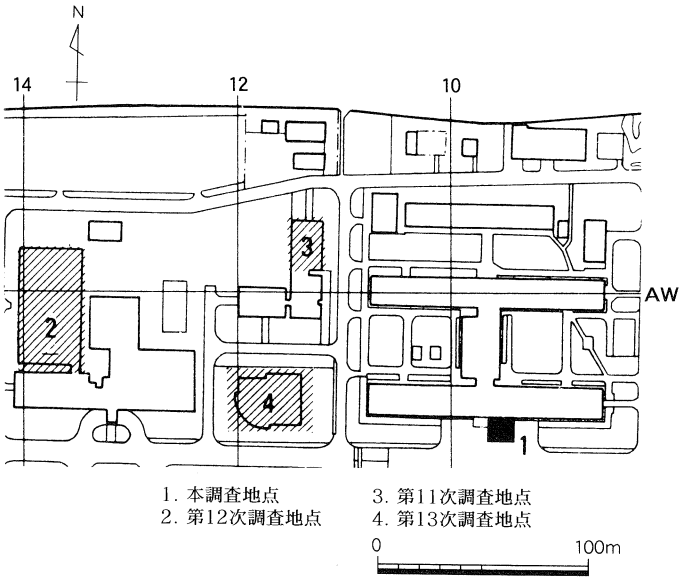


図9　第21次調査地点と周辺の状況（縮尺1/3,500）

b．調査の経過

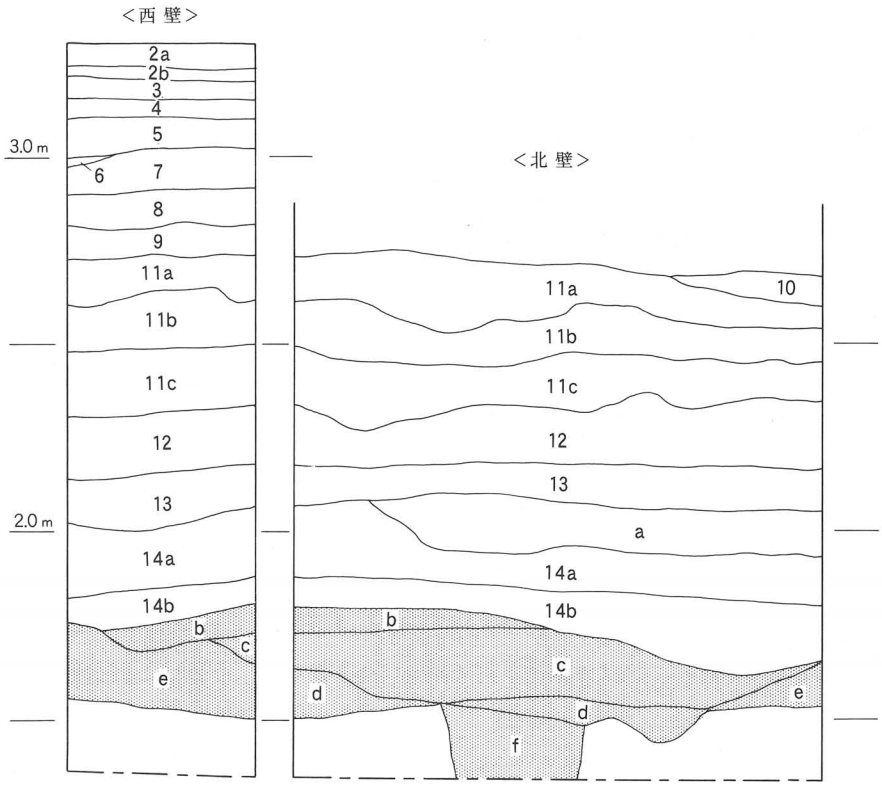
1998年11月２日，４日と造成土の除去を行い，11月６日から調査員１名で調査を開始した。当初，弥生時代早期から縄文時代の包含層は，それ程ないと考えていた。しかし，調査が進行するにつれ，縄文時代中期の遺構を確認するなど，予想以上に包含層が厚いことが分かった。そのため，途中で調査期間を若干修正した。調査は1998年11月24日にすべてを終了した。

c．調査の成果

① 層序（図10）

現在の地表の標高は，4.6m前後である。１層は，1907年から1908年にかけて行われた旧陸軍屯営地建設に伴う造成土である。造成土の厚さは1.3mを測る。

２ａ，２ｂ層は小礫を含む青灰色から緑灰色の砂質土である。上面は削平をうけていたが，



2a. 青灰色砂質土（1～3mmの小礫多）
2b. 緑灰色砂質土（1mmの小礫）
3. 黄緑灰色砂質土（Fe,白色微砂）
4. 灰色砂質土（Fe多）
5. 灰褐色砂質土（Fe・Mn多）
6. 淡灰褐色粘質土（Fe）
7. 淡灰褐色粘質土（微砂）
8. 灰褐色粘質土
9. 暗灰色粘土
10. 黄灰色砂質土
11a.~11c. 灰色砂層
12. 黒褐色粘質土
13. 黒褐色粘質土（微砂少）
14a. 茶褐色砂質土（Fe多）
14b. 淡茶灰色砂質土

a. 縄文時代後期遺構埋土
b.~f. 縄文時代中期遺構埋土

0　1m

図10　北壁・西壁断面図（縮尺1/30）

他地点での調査から，近代の耕作土と考えられる。３層は黄緑灰色の砂質土，４層は灰色砂質土，５層は灰褐色砂質土で，いずれも近世の耕作土であろう。

６～８層は灰褐色系の粘質土で，中世に形成されたものと考えられる。ここまでは，地形は北から南に向かって若干下がっていくものの，概ね水平に堆積している。

９層は灰色の粘質土である。遺物が出土していないため，時期の特定は難しいが，従来の調査成果から古代と考えられよう。11ａ～11ｃ層は灰色砂層である。厚さ40cmにわたって堆積しており，洪水砂か古代の大溝の埋土の一部であろう。

12層は黒褐色の粘質土である。津島地区一帯で特徴的に認められる，いわゆる「黒色土」で，弥生時代前期までに形成された土層である。

13層は12層と類似しているが，縄文時代後期前半頃の土器を多く含んでおり，該期の層と考えられる。14ａ，ｂ層は黄褐色の砂質土で，縄文時代後期の基盤層である。さらに，この下層で縄文時代中期後半の土器が出土した遺構を確認した。

②　地形

縄文時代中期から弥生時代にかけて，地形は北が高く，南に向かって傾斜している。縄文中期の遺構は，地形の高い北側に形成される。本調査地点は，ちょうど微高地から低位部に移行する部分，微高地の端部に位置していたと考えられる。

ｄ．まとめ

縄文時代中期後半の遺構としては，土坑を１基検出した。土坑は大半が調査区外にあり，全容を明らかにすることができなかった。調査区の壁で，土坑の底部に柱穴状の遺構を確認しており，住居址の可能性もある。底付近で，土器が多く出土した。縄文時代後期の遺構は，小規模な土坑を２基確認した。調査区の北壁でも，埋土内に炭や土器片を含む小規模な土坑を確認できた。遺物では，縄文後期の石庖丁状石器が注目される（図11）

弥生時代早期から前期に形成された遺構は，３条の溝である。平面的には１条を確認したのみであるが，断面で３条認識することができた。これらの溝は，概ね南西から北東方向に形成される。溝は，最終的に弥生時代中期後半頃に埋没したようであり，埋土最上層から該期の土器が出土した。また，溝の底からは弥生時代早期から前期にかけての土器や石製品が多量に出土している。

古代に属すると考えられる遺構は，方形の土坑１基と東西方向の溝1条がある。

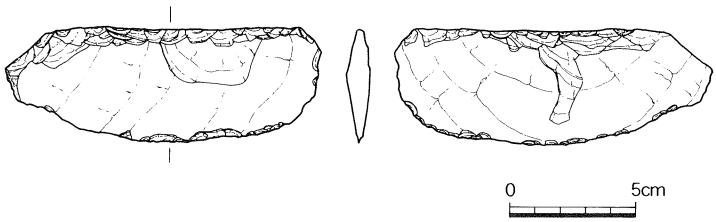


図11　縄文時代後期の石庖丁状石器（縮尺1/3）

この調査では，津島岡大遺跡に縄文時代中期の遺構があることが初めて確認できた。微高地が北にのびると考えられるので，縄文中期の遺構の多くは，調査区北の工学部本館側に広がっていると推定できる。今後，この周辺を発掘調査する際は，縄文時代中期の遺構があることに留意しなければなるまい。（横田）

（5）津島岡大遺跡第22次調査〈環境理工学部校舎（Ⅱ期）新営工事に伴う調査　津島北AV・AW02—03区〉

a．調査にいたる経緯

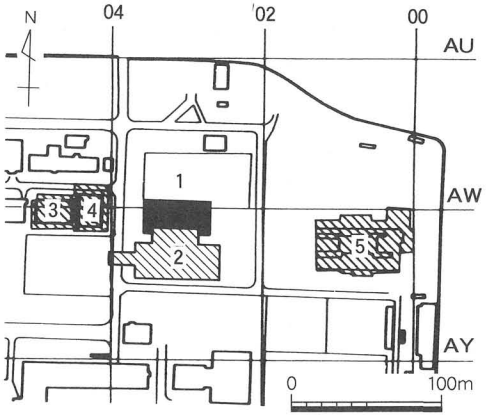
1998年度に，環境理工学部校舎Ⅱ期工事の計画が具体化した。建築予定地は1997年度に発掘調査を実施したⅠ期工事の北側に隣接した地点である（図12）。計画の具体化を受け，まず1998年6月に試掘調査を実施した（詳細は第1章第2節参照）。試掘調査及び周辺の調査結果では，調査区の西側から北東部にかけて，縄文後期の河道がかかる可能性が高く，南側は微高地上にあたることが予測された。そのほか試掘調査では検出されなかったが，調査予定地内を東西方向の古代溝が存在することも想定された。

発掘調査面積は773.5㎡で，通常調査員2名が対応する規模であった。しかし，同時に調査面積の広大な鹿田遺跡第9次調査，同10次調査が進行中であり，3—4月は調査員1名，5月からは調査員4名が担当するという異例の対応をとることとなった。

b．調査の経過

1999年2月19日より，造成土の除去を開始した。9次調査・17次調査と，隣接地点で状況が判明していることと，調査期間の短縮も考慮して，造成土及び明治層を重機で掘削することとした。重機による作業は入試による中止日をはさんで，2月26日に終了した。

発掘調査の開始は3月1日からである。近世層である3層上面の精査から始め，3月24日までに3層上面検出遺構を完掘した。さらに4層を除去し，3月31日までに5層上面遺構の調査を終了し，1998年度の発掘調査を終了した。



1. 本調査地点　2. 環境理工学部棟Ⅰ期工事
3. 生物応用工学科　4. 生体機能応用工学科棟
5. サテライト・ベンチャービジネス・ラボラトリーズ

図12　第22次調査地点位置図（縮尺1/5,000）

c．調査の成果

① 層序

現地表は，標高5.1m前後である。1層は1907～1908年にかけて旧陸軍により行われた

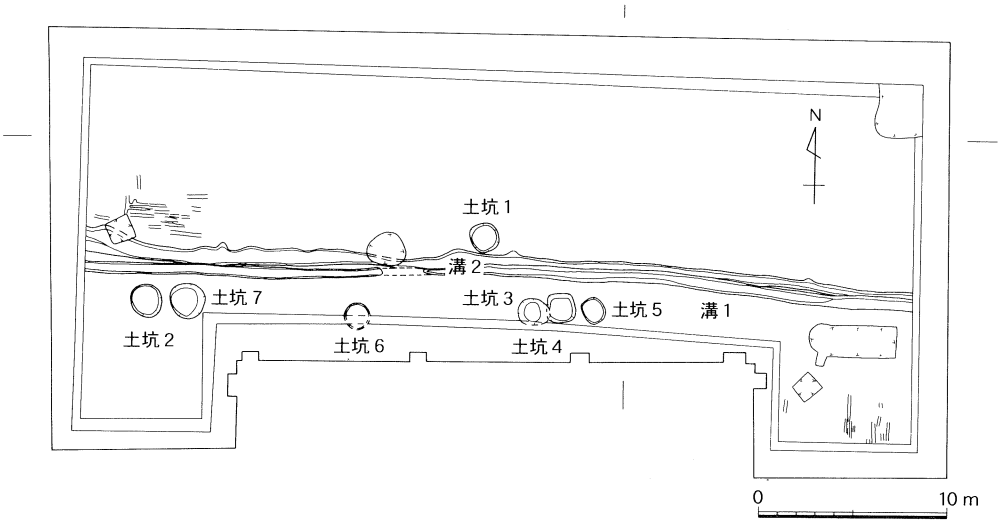


図13　近世面検出遺構平面図（縮尺1/400）

屯営地建設の際の造成土である。

2層は近代の耕作土と考えられる土層で，淡青灰色砂質土である。2層の下面までを重機により除去したため，2層上面の遺構は断面でのみ確認した。2層上面では東西方向の畝痕及び東西方向の溝が認められた。

3～5層は出土遺物から近世の耕作土と考えられる。3層は淡黄緑灰色砂質土，4層は暗灰褐色砂質土，5層は淡黄褐色砂質土層である。いずれもほぼ水平に堆積しており，鉄分の沈着が数カ所で認められる。

6・7層は出土遺物から中世に帰属すると考えられる。6層以下については，1999年度の調査対象となるため，詳細な内容，図面については次号に掲載する。

d．1998年度調査のまとめ（図13）

1998年度は，近世面で検出した耕作関連遺構の検出が主要な調査成果である。検出した遺構は溝2条・土坑7基・耕作痕である。

3層では溝1条（溝1），土坑7基を検出した。溝1は幅約1m，深さ0.2mで，ほぼ東西に走行する。土坑はいずれも径1.8～2.0m，深さ0.9m前後で，ほぼ円形をなす。調査区の南東部で南北方向，西側の一部で東西方向の細く浅い溝群を検出している。耕作痕と考えられる。

5層上面では上述の溝1のやや北側で，溝2を検出した。幅1.0～1.5mで深さ0.2mである。

溝1，2の位置には，断面のみの確認であったが，近代溝も作られており，この部分は中世以降ずっと用水路として使用されてきたことが窺える。

4月以降は，中世面の調査に続いて，大きな溝や水田畦畔等，古代の遺構の調査に入った。さらに古墳時代～弥生時代の調査を終え，最終的に縄文時代後期の遺構面の調査を行って，7

月12日にすべての作業を終了した。４～７月の詳細については次回の年報で報告する。（岩崎）

2　鹿田地区

今年度，鹿田地区では３件の発掘調査を行った。昨年度から継続調査の鹿田遺跡第７次調査を終了後鹿田遺跡第８次調査が続いた。11月からは大規模な鹿田遺跡第９次調査が始まり，次年度にまで継続している。各調査区の位置は，図14の通りである。これらの地点は，鹿田地区のほぼ南側に近接して位置しており，それぞれの調査区の関係性が今後の検討により明らかになるだろう。各調査区ともほぼ近世から弥生時代までの遺構・遺物を検出しており，特に中世溝等のような遺構について，調査地点間の関係が今後注目される。

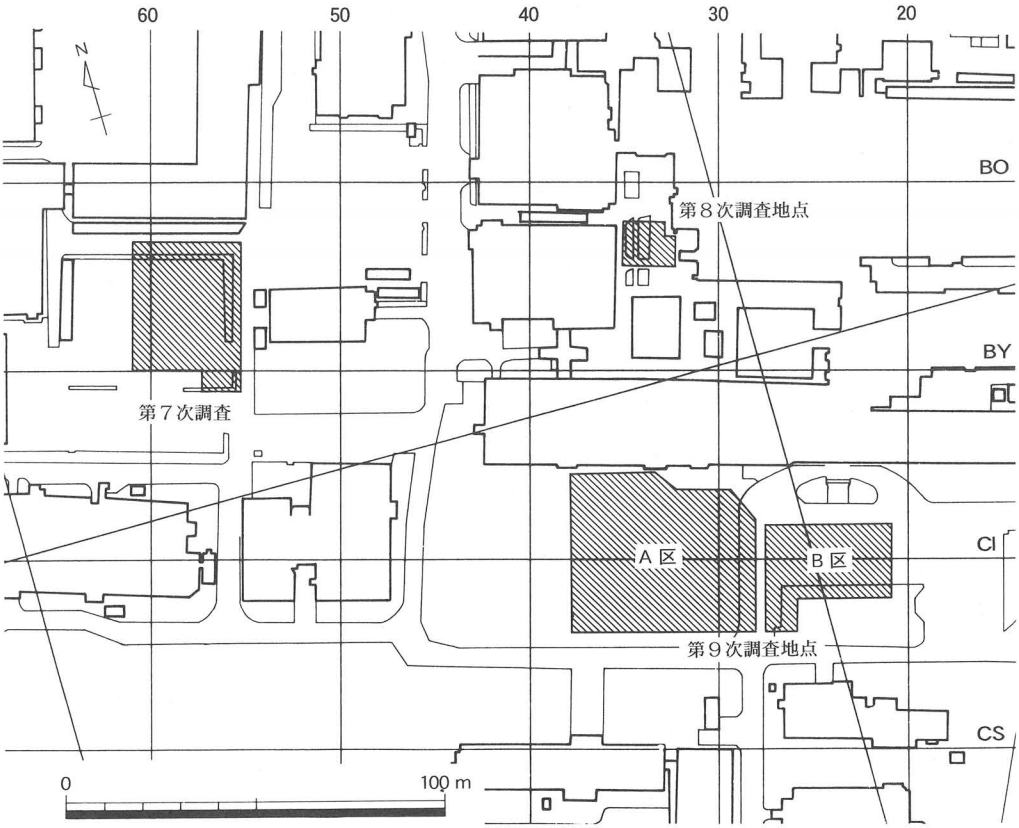


図14　1998年度鹿田地区発掘調査地点位置図

（1）**鹿田遺跡第7次調査**〈医学部校舎新営工事に伴う発掘調査　鹿田BR55～BX61・BY56～57区〉

a．調査にいたる経緯

1998年度刊行の年報15に掲載済みのためここでは省略したい。

b．調査の経過

1998年2月16日から，調査員2名で調査期間約5ヶ月間の予定で開始した発掘調査は，1997年度中に近世～近代の調査を終え，1998年度には中世層以下の調査を行った。

1998年度は4月8日から調査を開始した。近世の掘り残し遺構を記録した後，中世遺構面と判断した二面の遺構面をそれぞれ調査した後，古墳時代前期の遺構面へと掘り下げを進めた。同遺構面の調査がほぼ終了した段階で，7月25日には現地説明会を実施した。8月3日に調査を一応終了し，その後，調査中に残した旧建物の基礎下を調査するため，機械を導入して基礎の撤去を行った。基礎下に遺存していた住居址あるいは溝の一部を追加調査し，8月6日にすべてを終了した。

c．調査の成果

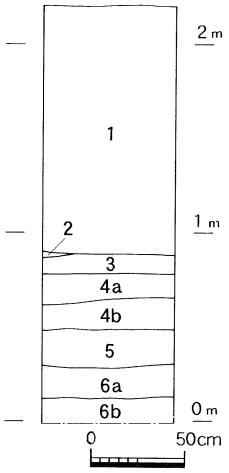
①　層序（図15）

現在の地表から深さ約1mまでの1層は医学校敷地造成（大正6年）以前の盛り土である。その直下に堆積した調査区全域を厚く覆う2層は，淡灰色粘土や暗灰色粘土，そして灰色砂などがブロック状あるいはラミナ状に堆積する層で，大規模な洪水に関連した土層の可能性が強い。3層は淡灰色の水田層で，近世末～近代の堆積であろう。4層は緑灰色の締まった土層で，中世（鎌倉～室町時代）の包含層である。同層は二層に細分され，a層は淡緑灰色砂質土，b層は暗緑灰色土を呈する。いずれも炭化物や遺物を多く含む。5層は褐色を強めた砂質土で古墳時代前期前半の時期にあたる。6層は黄褐色土で基盤層をなす。

②　概要（図16・17）

検出した遺構の時期は，古墳時代前期前半と中世の二時期に大別される。

中世の遺構は，溝約10条，200基以上の柱穴，井戸2基，大形土坑1基があげられる（図16）。所属時期は13世紀代と14世紀代とに二分される。両時期とも，建物や井戸の分布状況は溝を境に明瞭な差を見せており，規模の大小差はあるにしても，調査区内をL字形に走る溝とそれに囲まれる位置に建物群と井戸が配され



1. 造成土
2. 暗灰色粘質土
3. 灰色粘質土
4a. 灰褐色粘質土
4b. 暗灰褐色粘質土
5. 灰色粘質土（Fe多）
6a. 灰橙色土（Fe多）
6b. 灰橙色粘質土（Fe多）

図15　土層柱状図（縮尺1/40）

る。西側に隣接する6次調査地点（1988年発掘調査実施）の結果も考えあわせると，建物や井戸という生活域を溝で囲った屋敷地の存在が想定される。

L字形に走る溝は新段階には幅5m，深さ1.5m以上という大規模なものに拡大し，近現代まで踏襲されている点から，主要な溝であることはいうまでもないが，その機能に関するより具体的な解明が遺跡の理解を深める上で重要といえよう。

遺物の中で特筆されるのは猿の形を刻んだ木製品である。14世紀代と考えられる溝から出土した。烏帽子をかぶった装束は猿回しの猿をかたどったもので，全国的にも出土例は聞かれず，芸能史研究の面からも注目される。

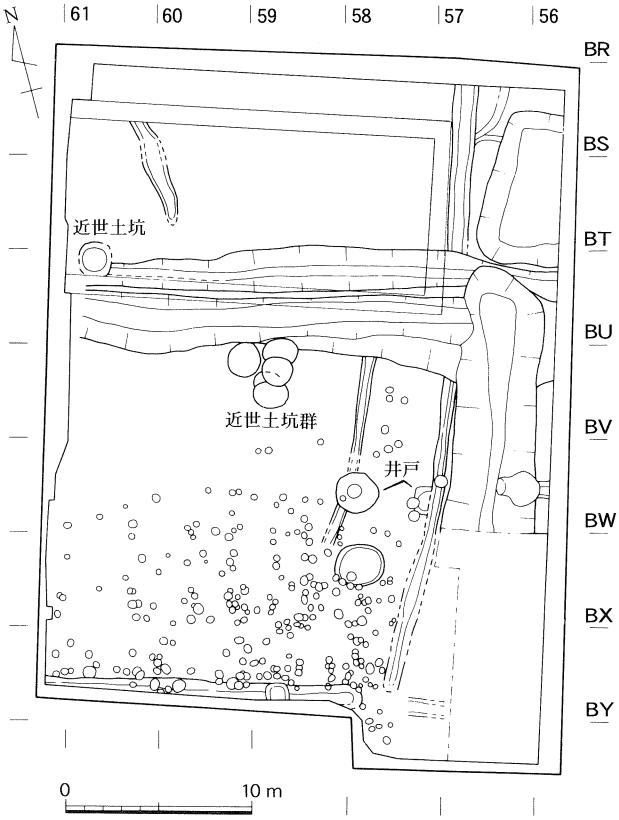


図16　中世面検出遺構平面図

古墳時代前期前半に属する遺構としては竪穴住居4棟と掘立柱建物3棟，井戸1基，溝数条，柱穴・土坑約70基が挙げられる（図17）。竪穴住居は重複や撹乱による破壊で全容がわかるものは2棟である。円形の平面形を呈し4カ所に柱穴をもつ1棟と，方形の平面形に2本の柱穴を有するものである。建物は2×1間の規模で，そのうち2棟は棟をそろえて並ぶと考えられる。柱穴の掘り方はいずれも規模が大きく，布掘り状を示すものもある。

d．まとめ

今回の調査から，鹿田遺跡南西部における状況がかなり判明してきた。従来，鹿田遺跡では，中世段階において遺物が多い割には遺構の状況が不明瞭であった。そうしたなかで，本調査では6次調査成果とあわせて，中世集落の一つのまとまりを明らかにできる良好なデータを得ることができた。また，古墳時代前期においても，1次・5次調査地点あるいは2次調査地点という，かなり限定された範囲で確認されるに過ぎなかった集落の広がりが，本地点にまで及んでいたという新たな事実は，弥生時代～古墳時代前期に展開する鹿田集落の実態解明にとって貴重な資料と評価される。

なお，当遺跡は現在整理中であり，各資料の時期決定など詳細に関しては今後の評価にゆだねたい。

（山本）

（２）鹿田遺跡第８次調査〈医学部附属病院ＲＩ治療室新営工事に伴う調査　鹿田BP～BS30～32区〉

ａ．調査にいたる経緯

ＲＩ治療室の新営が，中央診療棟の西側に計画され，埋蔵文化財の調査対象となる可能性が提示された。これをうけて検討した結果，過去に中央診療棟南側で行った立会調査のデータから，本調査地点にも中世の良好な包含層が存在することが推定できた。そこで，調査員が常時１名の体制で，調査期間約1.5ヶ月の予定で発掘調査を行うこととした。調査面積は156㎡である。

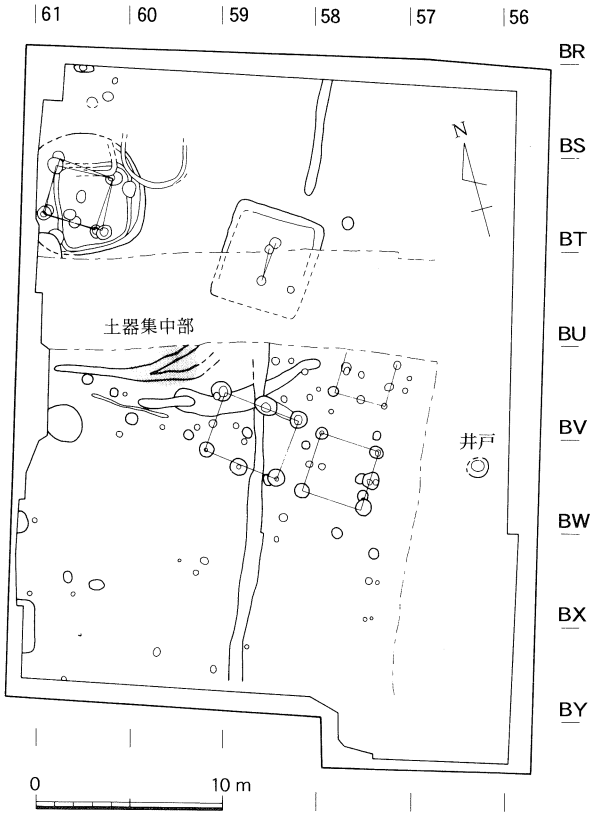


図17　古墳時代前期面検出遺構平面図

ｂ．調査の経過

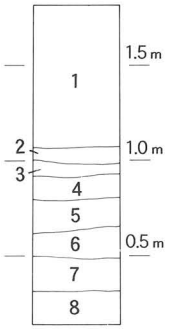
1998年７月27日から造成土の除去を開始した。調査地点は，かつて重機によって建造物が撤去されており，造成土を除去したところ調査区の半分近くが基盤層まで破壊されているという状況であった。そのため，調査期間は，当初予定の1.5ヶ月から約１ヶ月に短縮した。

調査は，近世および中世の遺構面と古墳時代の遺構面を中心に行った。発掘調査は1998年９月１日にすべてを終了した。

ｃ．調査の成果

①　層序（図18）

１層は，1917年（大正６年）医学校敷地造成以前の盛り土である。２層は灰褐色から黄灰色砂質土であり，調査区内で部分的に認められた。残存状況から旧建物を撤去する際に削平されたと推測できる。３層は暗褐色砂質土で，近世から近代にかけて堆積した層であろう。４層は灰褐色砂質土で，炭化物を少量含む。中世段階の包含層と考えられる。５層は暗灰褐色粘質土層で，中世の包含層である。６層は暗灰色粘質土で，古墳時代前期の包含層である。７層は褐



1. 造成土
2. 灰褐色～黄灰色砂質土
3. 暗褐色砂質土
4. 灰褐色砂質土
5. 暗灰褐色粘質土
6. 暗灰色粘質土
7. 褐灰色粘質土

図18　土層柱状図（縮尺1/40）

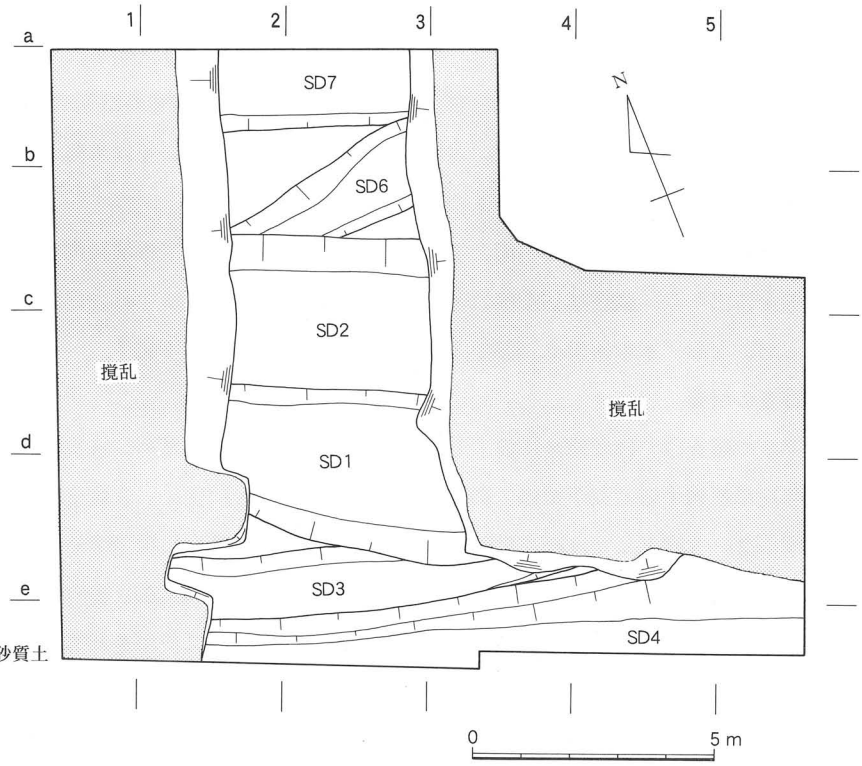


図19　中世面検出遺構平面図（A 区）

灰色粘質土で，基盤層である。

d．まとめ（図19）

古墳時代前期の遺構としては，溝１条（SD７）を検出した。この溝の最下層では，土師器の甕や鉢の破片が多数出土した。古墳時代後期の遺構には，溝１条（SD６）がある。

中世の遺構には，５条の溝（SD１～５）と柱穴３基がある。SD１では溝が埋没する最終段階の埋土では，炭化物とともに土製品や多量の土器が出土した。出土遺物からみると，遺構の時期は中世の前半期であろう。

本調査地点では，中世から古墳時代にかけて，井戸や柱穴または住居址といった生活に関わる遺構は見つからなかった。したがって，当該地点は，集落の縁辺部にあたると想定できる。

（３）鹿田遺跡第９次調査〈医学部附属病院病棟新営工事に伴う調査　鹿田CE39・33，CG28，CK21，CL26・37区〉

a．調査にいたる経緯

老朽化の進む医学部附属病院東西病棟の改築と病棟の新営が，現在の東西病棟の南側駐車場

周辺に計画されたのを受けて試掘調査を実施した結果，埋蔵文化財の調査対象範囲となり発掘調査をすることになった。調査区は，現在使用中の共同溝により区切られており，調査ではこの共同溝を境に西側をＡ区，東側をＢ区とした（図14）。試掘調査の結果から，近世・中世２面，古代の各面の存在が想定され，古墳時代から弥生時代については希薄であると予想した。

ｂ．調査の経緯

調査の結果，近世から古代の溝と柱穴群，さらに下層において古墳時代から弥生時代の水田畦畔等を検出した。調査は1998年11月27日から1999年５月11日まで行い，調査員４名がこれにあたった。なお，本年報では1999年３月31日までの概要について記す。

ｃ．調査の概要

今年度の調査は，ほぼ完全に終了したのは中世層までであるため，古代～弥生時代については来年度に報告する。以下では，調査時における層位区分に従い，５層までについて触れる。

まず，２～３層としたほぼ室町時代以降（15～16世紀以降）に相当する層について述べる。この層では，ますＡ区の西側で，南北方向の大溝を検出した（図20）。室町時代から近代に至るまで，数度の掘り返しにより，ほぼ同一箇所において継続的に使用されていた可能性が高い。その他，東西方向の小溝と水口，井戸を数基検出した。

次は４層であり，ほぼ鎌倉時代（13～14世紀）に相当する層である（図22）。Ａ区では，大小の溝が南側に位置し，北側には建物の柱穴群が集中する。その他，井戸，木棺墓等を検出した。遺物は，木棺墓から出土した青磁・白磁他，井戸の壁に打ち込まれた墨書のある杭が１点，その他土器多数が出土している。このうち，木棺墓では木棺の組み合わせ方法や，釘の位置，さらに人骨の埋葬姿勢など，細かい状況について記録を残している。また，井戸の壁に打ち込まれていた木簡については，何らかの供養に使用した可能性を示す文言が確認されており，中世の在地信仰を検討する上で重要である。

次の５層は，ほぼ平安時代末（11～12世紀）頃に相当する層である（図22）。この層では，Ａ区の南西側で，大規模に掘削された入り江状の遺構を検出した（図22のトーン部分）。この入り江状遺構は，継続的に中世前半（13世紀）までは使用された可能性が高い。この他入り江状遺構には南側において大溝が接続する。入り江状遺構から出土した遺物には，呪符木簡などがある。この木簡は，墨書が薄く，文字の判読が難しいが，今のところ木簡の上部に呪符に関わる記号が確認されている。

ｄ．まとめ

今回の鹿田遺跡第９次調査によって，入り江状の遺構や大規模な水路などから，古代から中世にいたる土地利用変遷の全体像の復元がかなり明らかになりつつある。

遺物においても，中世墓の豪華な副葬品をはじめ，呪符木簡など文字資料の発見は，土器な

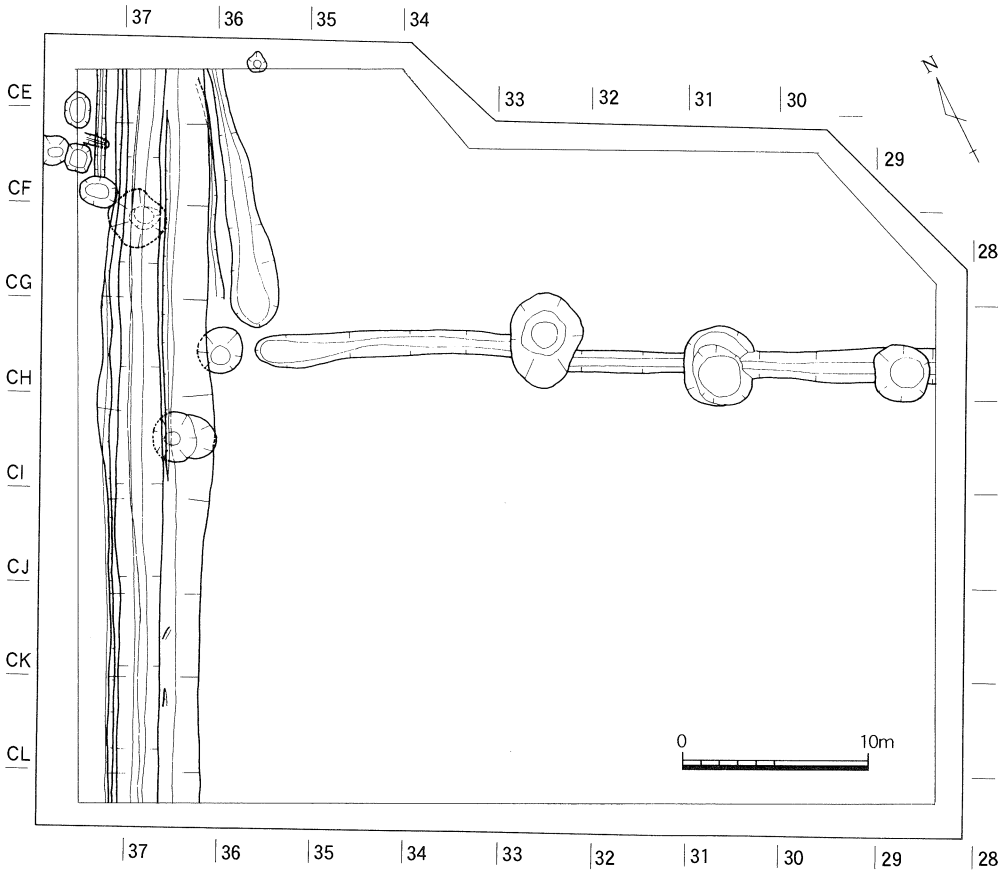


図20　2・3層検出遺構平面図（A 区）

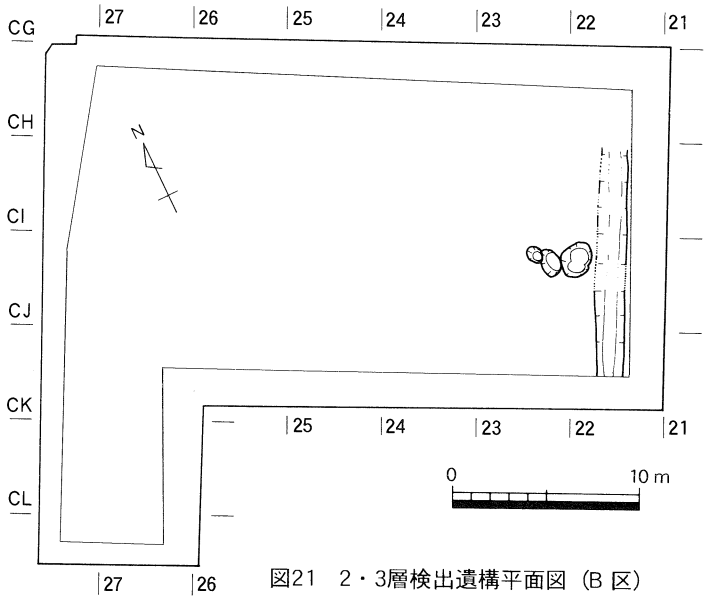


図21　2・3層検出遺構平面図（B 区）

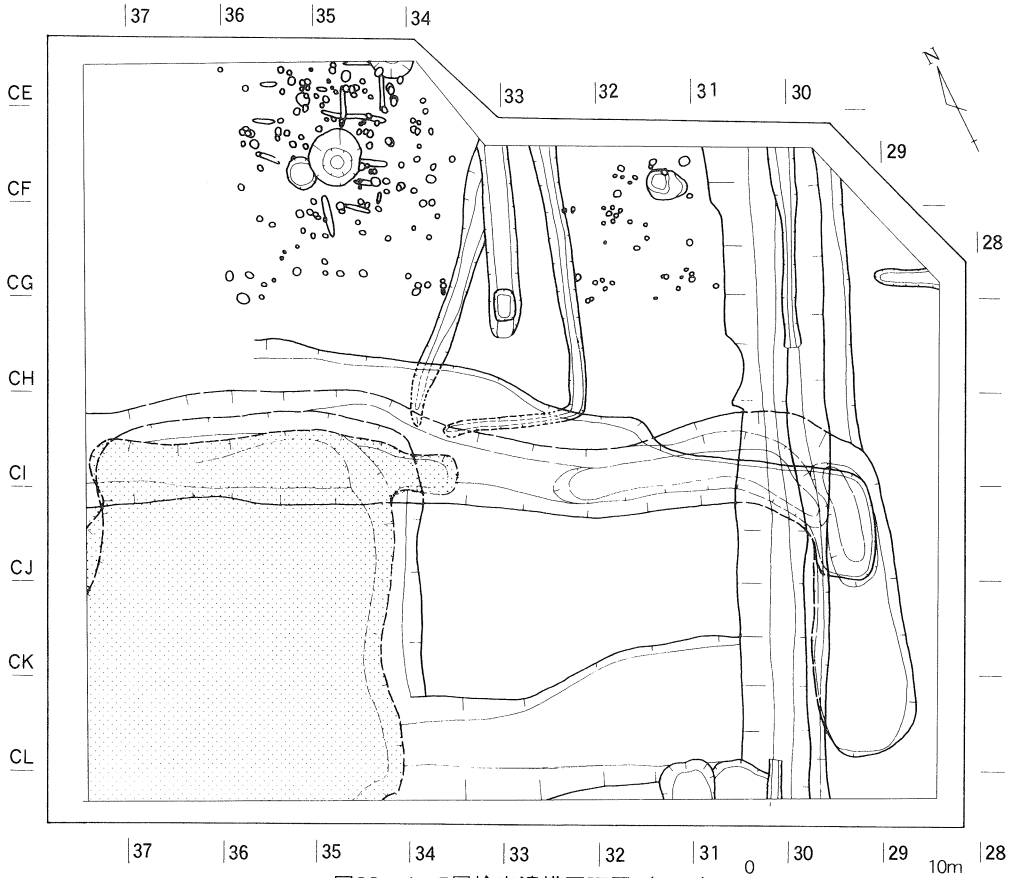


図22　4・5層検出遺構平面図（A 区）

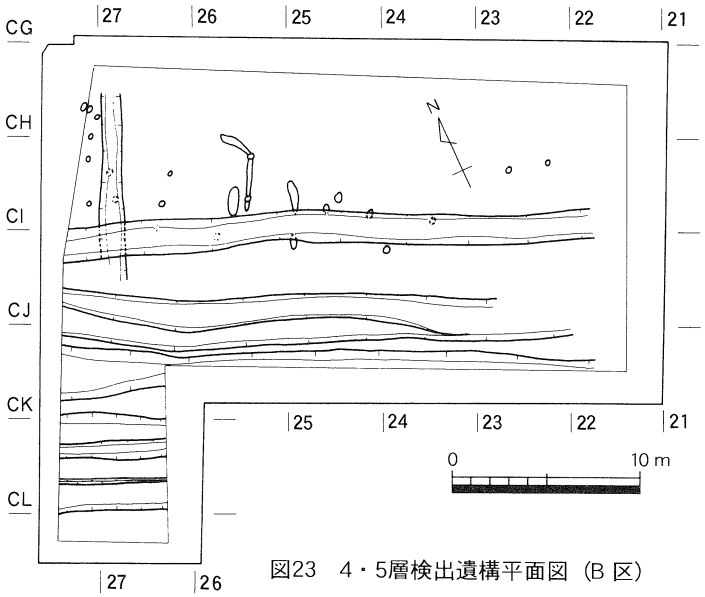


図23　4・5層検出遺構平面図（B 区）

どからだけではわからない歴史の復元に重要な役割をもつ。今後，各時代の成果を多角的に進め，特に全国的にみても著名な荘園であった「鹿田庄」の全体像の復元をめざして，引き続き綿密な調査を行っていきたい。

付記　木簡類の調査において，本学日本史研究室の，狩野久・久野修義・今津勝紀の各氏にご協力及びご教示をいただいた。

第３節　試掘調査

本年度は，津島地区において３件，鹿田地区において２件，倉敷地区において１件の試掘調査を実施した。また，津島地区では，津島北地区の北西側の馬場周辺において，本学でははじめて遺跡保存区の設置に関わる調査を行った。以下に概要を記す。

１　津島地区

（１）コラボレーションセンター新営に伴う試掘調査

ａ．調査に至る経緯

1998年５月，津島北地区に所在する理学部棟の南東の駐車場にコラボレーションセンターを建設する可能性が生じた。建設予定地の周辺でこれまで実施された発掘・試掘調査は，予定地の北東の第５次調査，北側のエレベーター設置に伴う試掘調査の２件である。これらの調査成果を参考にすると，第５次調査地点で確認した縄文時代の河道が予定地を通る可能性があり，その場合は縄文時代後期の遺構が当調査地点まで連続していると予想された。しかし，この地区は上記２件のほかは基盤層まで達する掘削が行われた調査はなく，不確定な要素が多く残るため試掘調査を行うこととした。

ｂ．調査の経過

調査は駐車場の南東と北西の２カ所に試掘坑を設けて行った（図24）。試掘坑は南東をTP１（調査規模2.5×2.5m），北西をTP２（４×４m）と呼称している。調査は1998年５月18，19日に実施し，調査員１名がこれを担当した。

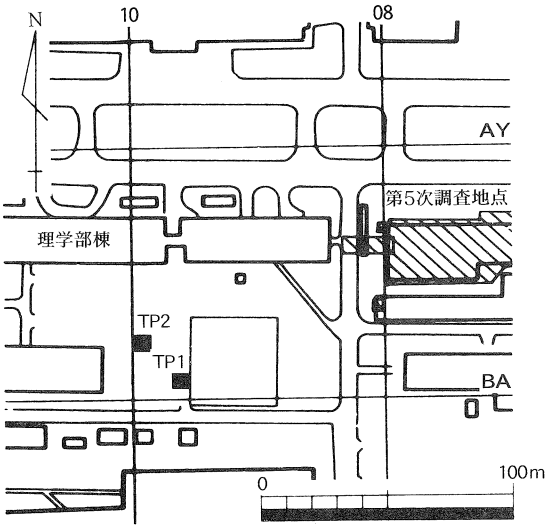


図24　コラボレーションセンター試堀調査地点
（縮尺1/3,000）

ｃ．調査の成果（図25）

①　TP１

TP１は建設予定地の南東に設定した。現地表面の標高は約4.8mであり，地表下

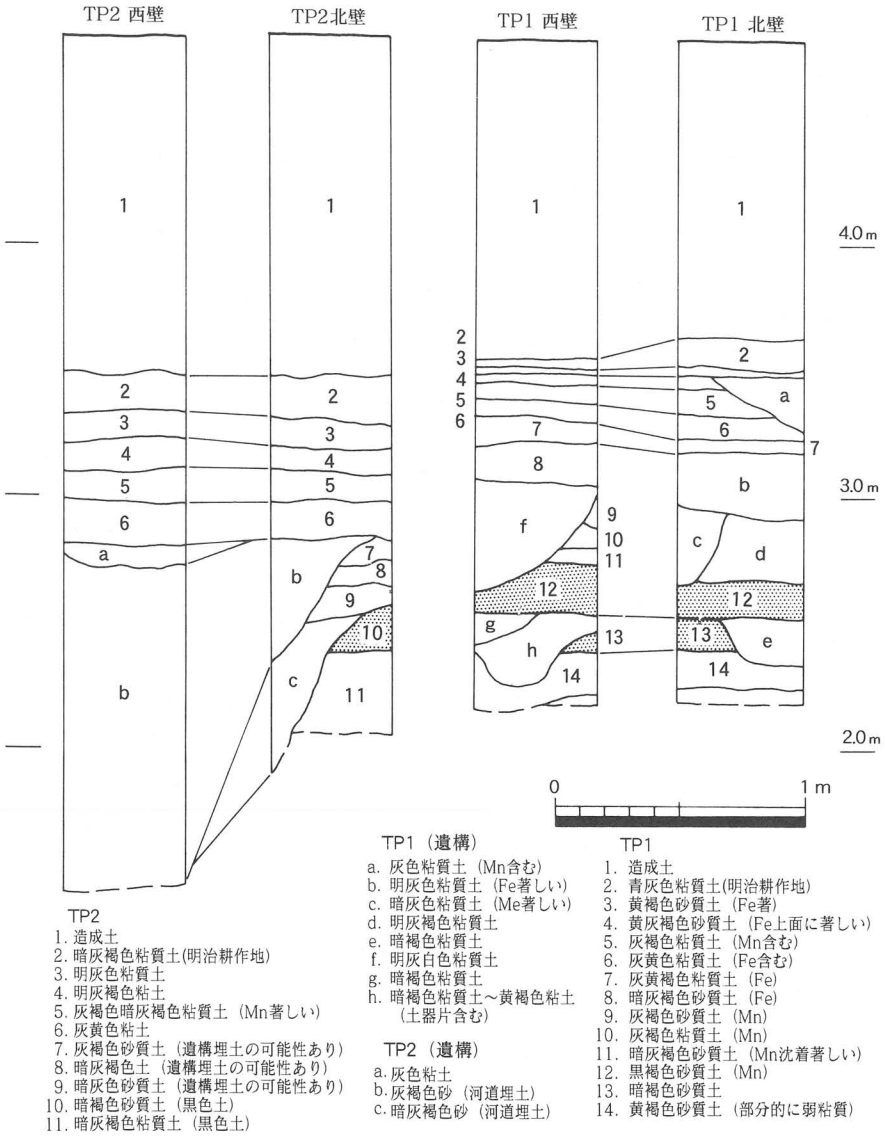


図25　土層断面模式図

約1.2～1.3mが近代以降の造成土である。２層は暗青灰色を呈する明治期の耕作土，３～５層の明黄褐色の砂質土は近世に比定される。６層は灰褐色粘質土である。さらに黄褐色粘質土（７層）が堆積するが，この７層では灰褐色粘質土の中に灰白色粗砂が厚く堆積した溝を検出している。６，７層は中世に比定される。その下には暗灰褐色砂質土（８層）が堆積する。８層は古代に比定されると考えるが，遺物等の出土がなく特定はできない。さらに下位には灰褐色～暗灰褐色土（９～11層）が堆積するが，この層では多くの遺構を確認できた。それらの埋土はいずれも砂質を帯びており，溝と考えられる。９～11層は弥生～古墳時代の層と考えられ

る。9～11層の下位には暗褐色砂質土（12，13層）が堆積している。この暗褐色砂質土は津島地区で黒色土と呼称している弥生時代前期に比定される鍵層である。TP１では，この黒色土を掘り込む遺構を確認しており，その埋土の状況から弥生時代あるいは古墳時代の遺構が存在すると考えられる。さらに黒色土の下位には明黄褐色砂質土（14層）が堆積しているが，これは縄文時代後期の基盤層に比定される。この基盤層にも黒色土の落ち込みが認められ，弥生時代前期以前の遺構が存在することが明らかとなった。

② TP２

TP２は建設予定地の北西に設定した。現地表面の標高は約4.8mであり，地表下約1.3～1.4mが近代以降の造成土である。２層は明治期の耕作土，３層は近世の耕作土に比定される。４層は中世層に比定される。５層は灰褐色砂質土，６層は灰黄色粘土であり，弥生時代中期以降，古代までの層と考えられるが，遺物等は確認できず，特定できない。

７～９層は溝ないしは河道と考えられる遺構ｂに切られている。北壁では12層が７層上面と同レベルで確認されており，埋土の可能性も考えられるが，狭い範囲での観察であり，断定はできない。

12層は津島地区で黒色土と呼称している弥生前期に比定される鍵層，14層は明黄褐色を呈する縄文時代後期に比定される基盤層である。

溝ないし河道と考えられる遺構ｂは砂礫層までの深度が遺構上面から約1.4mあり，その幅は試掘抗の幅に収まらず，４m以上の大規模なものであることが判明した。

ｄ．まとめ

以上の調査結果から，建設予定地の中央を河道ないしかなり幅広の溝が通ることが予想される一方，調査区の南半と北辺は黒色土の堆積がみられ，微高地状を呈することが予測される。

遺構は古代以降が比較的少ないが，古墳時代以前にはTP１で多くの落ち込みを確認しており，予定地南半では遺構密度が高いものと考えられる。

河道ないし溝と考えられる幅広の落ち込みからの遺物等の出土はないが，その位置と方向からは第５次調査で確認した縄文時代後期の河道に連接する可能性も十分に考えられる。その場合，貯蔵穴等が河道に沿って検出される可能性もある。ただし，今回試掘を行った新営予定地北側におけるエレベーター設置に伴う試掘調査の結果を考慮すると，河道の本流は予定地の北側であった可能性も残る。いずれにせよ発掘調査によって確認する必要がある。　（野崎）

（２）環境理工学部校舎（Ⅱ期）新営に伴う試掘調査

ａ．調査の経緯

調査地点は現在，建設中の環境理工学部新営建物の北側に接する地点に位置する（図26）。南

側の建設中の場所は，1996年度に調査を行った津島岡大遺跡第17次調査地点であり，今回はこの北側に予定されている環境理工学部新営建物の第Ⅱ期工事にかかる範囲内の試掘調査である。本地点の西側では，かつて第９次と６次調査が行われ古代の大溝と縄文期の河道が検出されている。先に行った南側の第17次調査地点ではこの古代の大溝と縄文期の河道は検出されておらず，さらに北側に続くことが推測された。しかし，縄文期の河道については流れの方向がかならずしも推測通りにいくとは限らないという懸念があり，掘削深度等の情報を得るべく，今回の試掘調査の実施に至った。

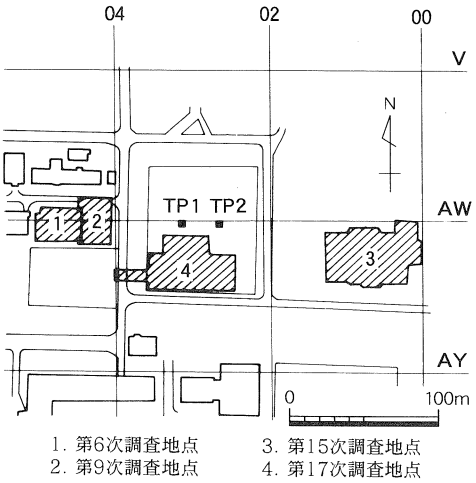


図26　調査地点位置図（縮尺1/5,000）

ｂ．調査の経過

調査は，現在の馬場南の東西に２カ所４ｍ四方の試掘坑を設けておこなった。東側を試掘坑１（TP01），西側を試掘坑２（TP02）と呼称する。調査は1998年６月23・24の両日に実施し，調査員１名がこれを担当した。

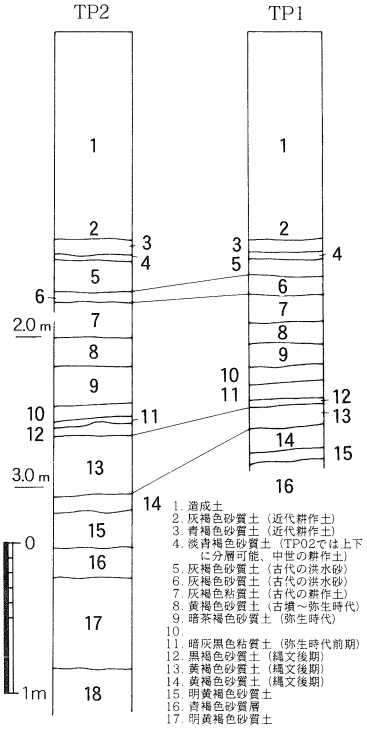


図27　土層断面図（縮尺1/50）

ｃ．調査の成果

２箇所の試掘坑の土層堆積状態について以下に概要を示す（図27）。両地点ともに基本層序は変わらないので，合わせて説明する。基本土層の堆積状況は，第17次調査に近い様相を示している。しかし，黒色土である第11層から第12層について第17次調査と比較してみると，層の下端レベルにおいてTP１でマイナス30～40cm，TP２でマイナス１ｍと黒色層以下の地形が急激に下降していることが判明した。また，TP２では黒色土の厚さが60cmとかなり厚く，北側に向かって地形が下がるとともに堆積厚が増加していることが理解できる。この結果は，北側に河道が存在していることを示しており，西側に隣接する第９次調査で検出された河道に続くと推測される。また，TP１ではやや地形が下がるものの，まだ河道への落ち際に近い地点の可能性

が高く，TP２では地形がかなり下がっており半ば河道にかかっている可能性がある。

ｄ．まとめ

今回，試掘調査を行った地点は，西側試掘坑（TP２）において河道の一部がかかり，東側試掘坑（TP１）においてはさらに北側に河道の流れを推測できる。したがって，調査地点の西側の津島岡大遺跡第９次調査で検出された縄文後期の河道は，第17次調査地点の北側に位置する今回の試掘調査地点の西側試掘坑付近をかすめて北東方向に流れていることが推測できた。縄文後期に相当する黒色層は厚く良好に残存しており，該期の遺構・遺物を包含していることが考えられる。（小林）

（３）工学部システム工学科校舎新営に伴う試掘調査

ａ．調査の経緯

調査地点は，工学部生体機能応用工学科棟の南側に接し，テニスコートの南西隅に位置する（図28）。北側は，1991年度に調査を行った津島岡大遺跡第９次調査地点にあたり，さらに東側は津島岡大遺跡第17次調査地点にあたる。環境理工学部新営建物の第１期工事に伴う共同溝の発掘調査部分が今回のテニスコートの東側部分に延びている。北側の第９次調査と６次調査では，古代の大溝と縄文期の河道が検出されており，また東側の第17次調査地点ではこの古代の大溝と縄文期の河道は検出されておらず，緩やかに傾斜が下がった，たわみ状の地形が推測されている。システム工学科棟の予定地は，このうち河道の脇の微高地なのか，また，たわみ状の地形なのかの判断が難しく，これまでの推測通りにいくとは限らないという懸念があり，掘削深度等の情報を得るべく今回の試掘調査の実施に至った。

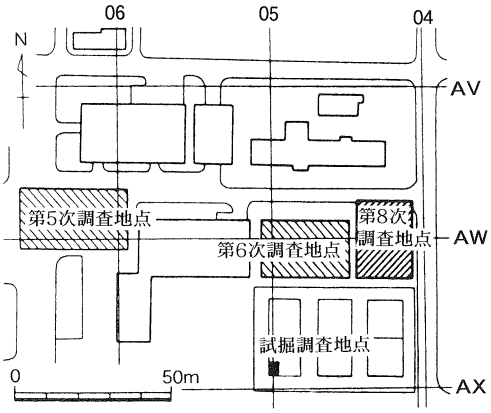


図28　システム工学科調査地点位置図
（縮尺1/2,500）

ｂ．調査の経過

調査は，下場で２ｍ四方となるように試掘坑を１カ所設けた。調査は1998年11月５日に実施し，調査員１名がこれを担当した。

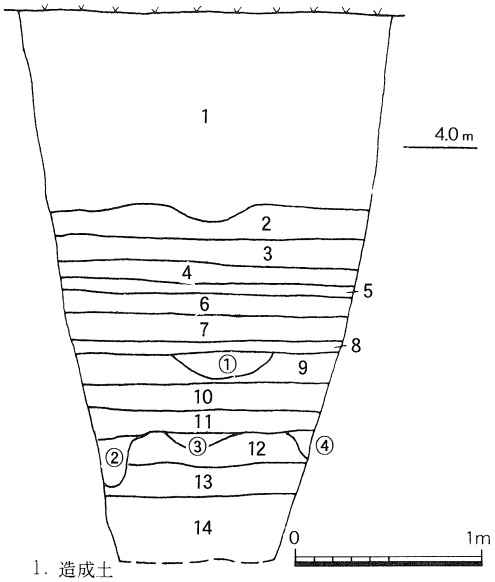
ｃ．調査の成果

基本土層の堆積状況は，黒色土のレベルなどからみて第17次調査の微高地部分に近い様相を示している（図29）。また，11層下面の縄文後期遺構面では，ピットが３基断面で見られるので，縄文時代後期段階での微高地上集落の存在の可能性がある。

黒色土より上層では，中世～古代の層が厚く堆積しており，第９次調査地点での条里区画溝の一つと考えられている古代溝の脇であることから，造成による改変がかなり加えられている可能性もある。

ｄ．まとめ

今回，試掘調査を行った地点は，周辺の調査が多く，微高地かたわみ状の地形が想定されていたが，今回の試掘調査からは第17次調査地点の微高地部分と変わらない結果を得た。北側に接する津島岡大遺跡第９次調査地点の縄文後期の河道からは，多数の低湿地型の貯蔵穴や，東側の第17次調査地点では住居跡をはじめ縄文の溝も検出されている。同様に今回の調査地点でも，縄文後期に相当する層は厚く良好に残存しており，該期の遺構・遺物を包含していることが考えられる。（小林）



1. 造成土
2. 暗灰褐色砂質土（近代耕作土）
3. 暗灰褐色粘質土（近代耕作土）
4. 灰褐色粘質土（中世の耕作土）
5. 灰褐色粘質土（古代～古代？）
6. 灰褐色粘質土（古代）
7. 灰褐色粘質土（古墳～弥生時代）
8. 灰褐色粘質土（弥生時代？）
9. 黒褐色粘質土（黒色土）
10. 黒褐色粘質土（黒色土）
11. 灰黒褐色粘質土（縄文後期）
12. 灰褐色粘質土（以下、地山）
13. 灰褐色粘質土
14. 灰褐色粘質土

①～④ 遺構埋土

図29　土層断面図（縮尺1/40）

（４）津島キャンパス東北隅地域の試掘調査

ａ．調査の経緯

1981年の津島岡大遺跡第１次調査を嚆矢として，1999年度までに津島岡大遺跡の発掘調査は22次を数える。これまでの調査の成果から，岡山大学津島地区における遺跡の分布状況が判明してきた。中でも特に東北隅地域においては，第３・15次調査（男子学生寮・サテライトベンチャービジネスラボラトリー），第６・９次調査（工学部生物応用工学科・生体機能応用工学科），第17次調査（環境理工学部Ｉ期工事）等の調査が行われ，縄文時代後期の集落関連遺構，弥生時代前期からの水田遺構等の様相が明らかとなり，東北隅地域が構内でも特に遺跡密度の高い地点にあたることがわかってきた。

こうした状況を踏まえて，1998年度の後半から当該地域に遺跡保護区を設置する動きが出て，まずは馬場周辺の旧地形・土層堆積状況の確認を目的とした試掘調査を５カ所の地点で行

うこととした（図30）。

b．調査の経過

調査は１月27日に１カ所，３月16～18日に４カ所の地点で実施し，調査員１名があたった。

c．調査の成果

各調査地点に１カ所ずつ試掘坑を設定し，重機で掘り下げた後，断面観察を行い，記録した。以下に試掘坑毎に記述する（図31）。

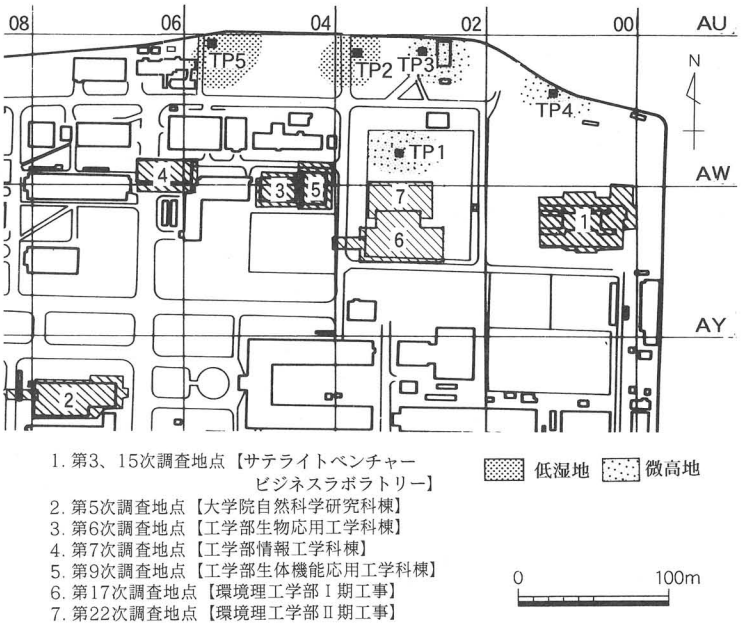


図30　馬場周辺調査地点位置図（縮尺1/5,000）

① TP１

環境理工学部棟の北側（現在の馬場の中央部）に位置する。現地表面の高さ標高4.95m。出土遺物はなく，各層の時期ははっきりとしない。造成土以下，２～９層までは厚さ５～10cm程で，ほぼ水平に堆積する。８層上面で溝状遺構の存在が認められた。10層は地山への漸移層と考えられ，11層以下は基盤層である。11層上面の高さは3.2mで，全体として微高地にあたり，いわゆる黒色土は形成されていない。

② TP２

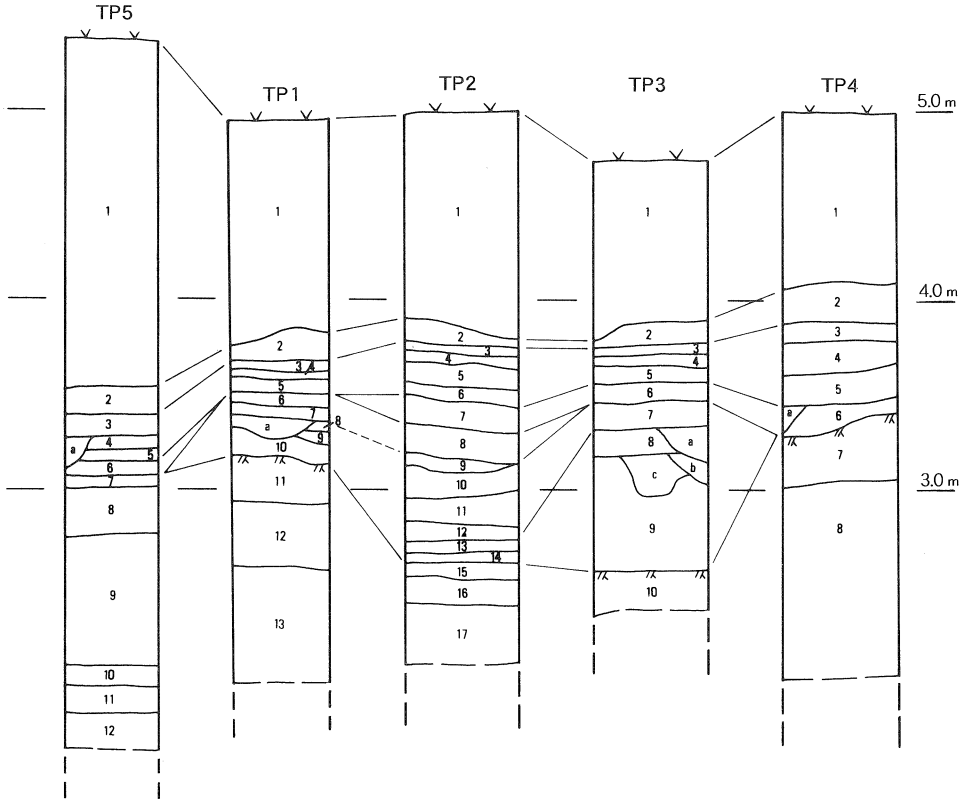
環境理工学部棟の北側駐車場西端部に位置する。

現地表面の高さは標高5.0m。造成土以下２～８層までは各層の厚さ５～15cm程で，ほぼ水平堆積である。出土遺物はないが，７層は中世耕作層，８層古代耕作層と考えられる。遺構としては２層上面で，明治期の畝を確認した。また９～12層は遺構埋土の可能性が考えられる。13層はいわゆる「黒色土」にあたり，上面の高さ2.7mである。15層以下灰色砂質土，灰白色砂，黒色粘土層が続き，谷上の地形となっていることがわかる。

③ TP３

環境理工学部北側駐車場の東端，倉庫の西側に位置する。

現地表面の高さは4.8m。造成土以下２～８層まではほぼ水平堆積である。遺物は出土していない。遺構としては，２層上面で明治期の畝，８層上面で溝状遺構，９層上面でピット状遺構を確認した。８層がいわゆる「黒色土」にあたり，上面の高さ3.3mである。９層以下，基盤



TP5
1. 造成土
2. 青灰色粘質土（明治耕作土）
3. 緑灰色粘質土（近世耕作土）
4. 淡緑灰色粘質土（近世耕作土）
5. 黄灰色粘質土（中～近世か）
6. 灰黄色粘質土（中世）
7. 灰褐色粘質土（以下低湿地状）
8. 淡灰褐色粘質土
9. 灰褐色粘土
10. 灰黒色粘土
11. 暗灰色粘土
12. 黒灰色粘土
a. 溝状遺構

TP1
1. 造成土
2. 青灰色粘質土（明治耕作土）
3. 淡青灰色粘質土（近世耕作土）
4. 淡青灰色粘質土（近世耕作土）
5. 淡灰色粘質土（中～近世か）
6. 淡紫灰色砂質土（古代～古墳か）
7. 淡紫灰色粘質土（古代～古墳か）
8. 茶褐色砂質土（弥生か）
9. 暗茶褐色砂質土（弥生か）
10. 黄灰色砂質土
11. 明黄灰色砂質土（基盤層）
12. 黄茶灰色砂
13. 明黄褐色砂
a. 溝状遺構

TP2
1. 造成土
2. 青灰色粘質土（明治耕作土）
3.～5. 褐色砂質土（近世耕作土）
6. 淡褐色砂質土（中～近世）
7. 淡褐灰色砂質土（中世か）
8. 灰褐色粘質土（古代か）
9. 灰褐色砂質土（遺構埋土か）
10. 淡茶灰色粘質土
11. 灰茶色粘質土
12. 灰茶色砂質土
13. 茶黒色砂質土（黒色土に類似）
14. 明茶褐色砂質土
15. 灰色砂質土
16. 灰白色砂
17. 黒色粘土

TP3
1. 造成土
2. 青灰色粘質土（明治耕作土）
3.～5. 淡緑灰色粘質土（近世耕作土）
6. 淡緑灰色粘質土（中世か）
7. 淡褐色粘質土（弥生～古墳か）
8. 黒褐色粘質土（弥生前期）
9. 淡茶褐色砂質土
10. 茶褐色砂質土（基盤層）
a. 溝状遺構
b. 溝状遺構
c. ピット状遺構

TP4
1. 造成土
2. 青灰色砂質土（明治耕作土）
3. 黄灰色砂質土（近世）
4. 暗灰黄色砂質土（近世か）
5. 暗茶灰色砂質土（黒色土ブロック・小礫を多く含む）
6. 灰褐色砂質土（古代～中世か）
7. 黄褐色砂質土（基盤層）
8. 灰色砂
a. 溝状遺構

0　1m

図31　土層断面図（縮尺1/40）

層であり，この地点は微高地上に位置していることがわかる。

④　TP 4

自動車部の部室の西側に位置する。

地表面の高さは標高5.0m。造成土以下，2層明治期耕作土層，3・4層は近世耕作土層と考えられる。5層は黒色土ブロック・小礫を多く含む土層で，一般の堆積層とは考えにくい状況である。たとえば土砂くずれのような状況を想定することができる。6層は灰褐色砂質土で，古代～中世層と考えられるが，遺物の出土はなく，断定はできない。7層以下は基盤層である。遺構としては6層上面で溝状遺構を確認した。

全体として，かなり高い地点にあたることが判明した。

⑤　TP 5

地域学習センター北側の工学部駐車場北西隅に位置する。

現地表面の高さは5.4m。造成土の厚さが1.8mと非常に厚い。2層明治期耕作土層，3～5層は近世層，6層中世層と考えられる。遺物の出土はない。7層以下は灰色粘質土～黒灰色粘土へと続き，低湿地にあたっていることを示す。遺構としては4層上面で溝状遺構を確認した。

d．まとめ

今回の調査では，これまで不明であった津島キャンパス東北端部の土層堆積状況を確認し，この地域の遺跡の状況について有益な知見を得ることができた。5カ所の調査地点のうち，北東側のTP 5では中世層以前，TP 2では15層以下が低湿地状となっていることが判明した。これまでの調査により，津島キャンパス内の幾つかの地点で自然河道が確認されているが，今回確認できたものは津島キャンパスの最も北を流れる自然河道と考えられる。またその他の3カ所ではいずれも微高地状をなしていた。なかでもTP 4は北側に朝寝鼻貝塚が存在しているが，試掘調査結果により，朝寝鼻貝塚が立地する丘陵に続く微高地である可能性が考えられる。津島岡大遺跡第3・15・17次調査で検出されている縄文時代後期の遺跡の内容も考え併せると，当地域の遺跡密度はかなり高いものと想定される。　（岩崎）

註（1）岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　1992　『津島岡大遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊

同　1996　「3津島岡大遺跡第15次調査」『岡山大学構内遺跡調査研究年報13』

（2）同　1995　『津島岡大遺跡6』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊

同　1998　『津島岡大遺跡10』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊

（3）同　1997　「2津島岡大遺跡第17次調査」『岡山大学構内遺跡調査研究年報14』

2　鹿田地区

（1）医学部附属病院病棟新営に伴う試掘調査

a．調査の経緯

老朽化の進む医学部東西病棟の改築と病棟の親営が，現在の東西病棟の南側駐車場周辺に計画され，埋蔵文化財の調査対象範囲となる可能性が提示された。建物の規模も大きく，この周辺には今後，付属建物の建設や配管等が複雑に配置される予定であり，広い範囲での試掘調査を行うことになった。

b．調査の経過

以上を受けて実施した試掘調査結果からは，遺構密度の粗密はあるにしても，予定地周辺の基礎医学棟における調査結果とかわらず，中世包含層とやや希薄な状態を示す弥生から古墳時代の包含層が確認された。調査は，調査員１名があたり，４日間で終了した。

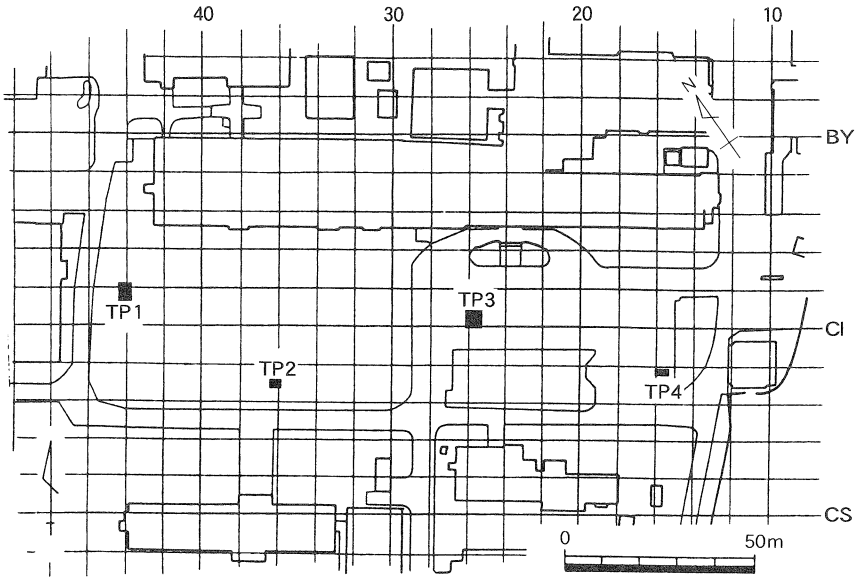


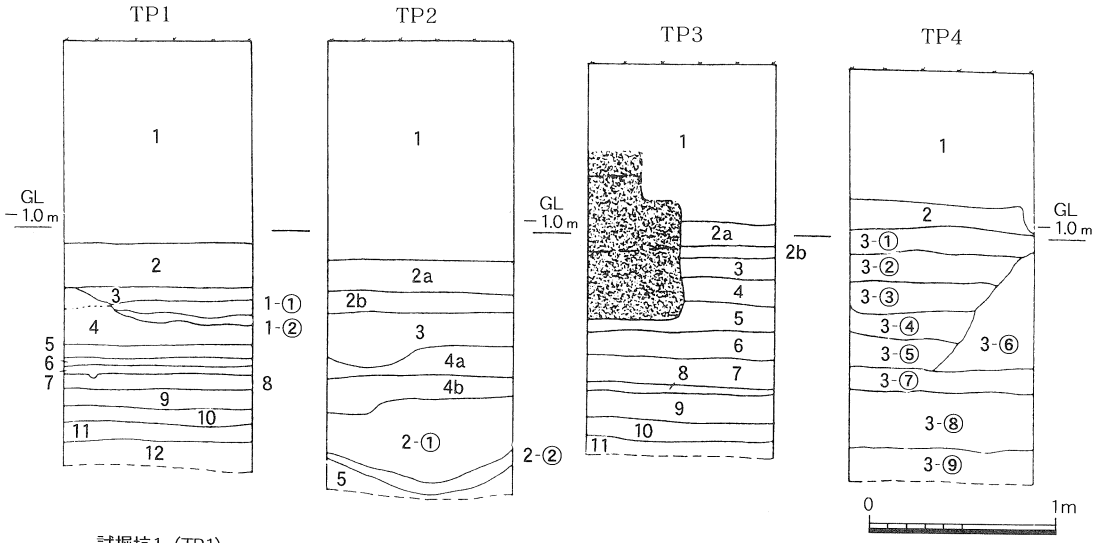
図32　医学部病棟調査地点位置図（縮尺1/2,000）

c．調査の成果

第９次調査予定地は，鹿田地区の南東側に位置し，現在の東西病棟の南側駐車場に相当する。試掘坑は予定地周辺の状態を検討すべく，計４カ所設定した（図32）。ここでは，各試掘坑それぞれを，西側からTP１・TP２・TP３・TP４と呼称する。

４カ所の試掘坑４カ所の試掘坑の土層堆積状態について，図33に概要を示す。なお，以下の記述で第７次調査について言及する場合，「７次」と省略して記述する。

４カ所に試掘坑をいれたが，試掘坑２（TP２）と試掘坑４（TP４）においては，いずれも中



試掘坑1（TP1）

1. 造成土
2. 暗灰色粘質土（7次の2層に相当、近世）
3. 暗青灰色粘質土（7次の3層に相当、中世）
4. 灰褐色粘質土（7次の4a・4b層に相当、中世）
5. 灰茶褐色粘質土（7次に相当層なし）
6. 暗灰黒褐色粘質土（7次の5層に相当、古墳時代）
7. 暗灰黒褐色粘質土（7次の5・6層に相当、古墳時代）
8. 暗灰褐色粘質土（本層以外は基盤層に相当）
9. 灰褐色粘質土
10. 灰黒褐色粘質土
11. 灰褐色砂質土
12. 灰黒褐色シルト

試掘坑2（TP2）

1. 造成土
2a. 暗灰色粘質土（7次の2層に相当、近世）
2b. 暗灰色粘質土（7次の2層に相当、近世）
3. 暗青灰色粘質土（7次の3層に相当、中世）
4a. 灰褐色粘質土（7次の4a・4b層に相当、中世もしくは溝の覆土の可能性あり）
4b. 灰褐色粘質土（7次の4a・4b層に相当、中世もしくは溝の覆土の可能性あり）
5. 灰茶褐色粘質土（7次に相当層なし）

溝覆土

1. 暗茶灰色粘質土
2. 暗茶灰色粘質土

試掘坑3（TP3）

1. 造成土
2. 暗灰色粘質土（7次の2層に相当、近世）
3. 暗灰色粘質土（7次の2層に相当、近世）
4. 暗褐色粘質土（7次の3層に相当、中世）
5. 灰粘質土（7次の4a層に相当、中世）
6. 灰茶褐色粘質土（7次の4b層に相当、中世）
7. 暗灰黒褐色粘質土（7次の5層に相当、古墳時代）
8. 暗灰色粘質土（7次の5・6層に相当、古墳時代）
9. 暗灰褐色粘質土（本層以外は基盤層に相当）
10. 灰褐色粘質土
11. 灰黒褐色砂質土
12. 暗灰色砂質土

試掘坑4（TP4）

1. 造成土
2. 暗灰色粘質土（7次の2層に相当、近世）

溝覆土

1. 灰黒色粘質土
2. 暗褐灰色粘質土
3. 暗灰褐色粘質土
4. 暗灰茶褐色粘質土
5. 灰茶褐色粘質土
6. 灰茶褐色粘質土
7. 灰茶褐色粘質土
8. 暗灰色粘土
9. 暗灰色粘土

図33　土層柱状模式図（縮尺1/40）

世段階と考えられる溝にあたり，基本土層の相対的な状態がわかりにくくなっているが，試掘坑１（TP１）と試掘坑３（TP３）において予定地周辺の状況を確認することができる。すなわち，土層の堆積状況については，基本的に第７次調査に近い様相を示しており，ほぼ対応すると考えてよいだろう。ただし，細かい点においては差異も認めることができる。第１に，西側の２カ所についてはほぼ同じような様相を示しそうであるが，最西端の試掘坑１（TP１）では

全体的に土層の粘質度が高い。この傾向は，試掘坑３（TP３）においても若干認められる。地形的には，西側の試掘坑１（TP１）・試掘坑２（TP２）から東側の試掘坑３（TP３）・試掘坑４（TP４）にかけて基盤が上がって高くなっていることが確認された。

包含層については，上層の近世層をはじめ，その下に中世段階の層が２面，そしてその下に中世か古代かは不明であるが１層分存在している可能性がある。さらにその下の古墳時代については，７次の状況と類似しており，若干この段階においては希薄である可能性もある。

遺構については，試掘坑２（TP２）と試掘坑４（TP４）において溝を検出したように，中世段階における溝等の遺構の状況は良好であろう。

ｄ．まとめ

４カ所の試掘調査の結果，基本的には第７次調査の結果と類似した状況であることを確認することができた。２カ所の試掘坑において溝を検出したように，特に中世段階の遺構は良好である可能性が高く，該期の遺構・遺物を包含していることが考えられた。

３　倉敷地区

（１）資源生物研究所バイオ実験棟新営工事関連試掘調査

ａ．調査の経緯

資源生物研究所（図34）にバイオ実験棟の設置が計画されたことに伴って，包含層の有無を確認する目的で試掘調査を行った。周辺では，1990年にＲＩ棟に西接する空き地で試掘調査を行っているが，近世の干拓地内に位置しており遺構等は確認されていない。今回の試掘地点も遺構等は希薄だと推定されたが，干拓前の段階の包含層が残されている可能性もあり，試掘調査を実施することとなった。

ｂ．調査の経過

調査は２×２ｍの調査区を設定（図35）して，重機で約1.5ｍ掘り下げた。その後，断面の精査・記録を行った。調査期間は1998年10月26日の１日間で，調査員１名が担当した。

ｃ．調査の成果（図36）

１層は造成土である。２層は暗灰褐色の砂層である。３層は，下層の４層（青灰色砂質土）と５層（黄灰褐色砂質土）がマーブル状に混じりあったような砂質土で，しまりがよい。造成土と推測される。４層は青灰色の砂質土で，５㎜前後の小礫を多く含む。３層堆積以前の水田層と考えられる。５層は黄灰褐色砂層で，やや粘性がある。鉄分を多く含む。６層は灰褐色砂層で上面と下面に鉄分が沈着する。炭をわずかに含む。中世段階の土器の小片が数点出土した。７層は黄灰色の砂層である。８層は灰色砂層，９層は淡灰色粗砂層で，しまりが悪い。下面にいくにしたがい小礫を含むようになる。10層は礫層で，１～３㎝の礫に粗砂が混じる。少

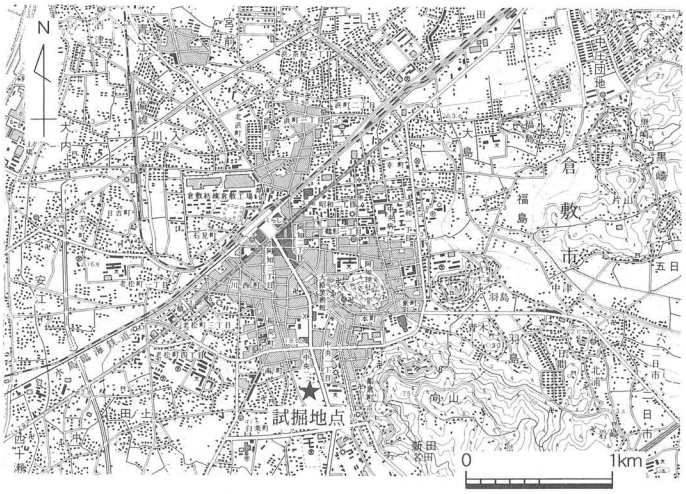


図34　試掘調査地点位置図（縮尺1/50,000）

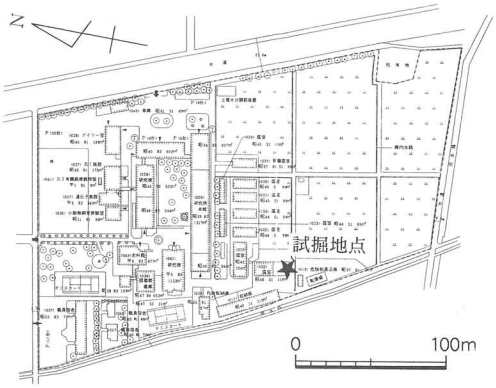
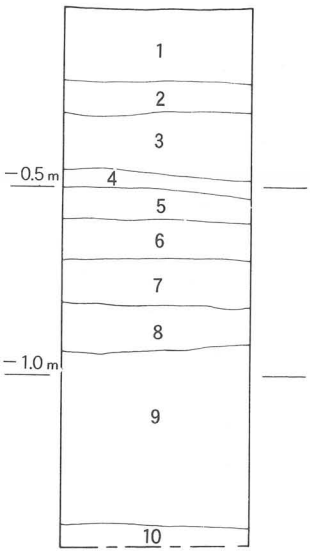


図35　試掘調査地点（縮尺1/5,000）



1. 造成土
2. 暗灰褐色砂層
3. 4.5層の混合層
4. 青灰色砂質土層
5. 黄灰褐色砂層（Fe多）
6. 灰褐色砂層
7. 黄灰色砂層（細砂、Fe、Mn）
8. 灰色砂層
9. 淡灰色砂層（細砂多）
10. 小礫層

0　1m

図36　土層柱状図（縮尺1/40）

ないが湧水も認められた。各層では遺構は確認できなかった。

d．まとめ

本試掘地点でも，前回の地点と同様に江戸時代初期の干拓地の中に位置しており，やはり遺構は確認されず，遺物も非常に希薄であった。

第4節　立会調査

1　津島地区

津島地区の立会は，事業別では34件，計94カ所で行った。大半は掘削深度が浅く，造成土内で終了した。ここでは特記すべき状況が確認された調査や，掘削深度の深かった調査について詳細を記す。なお，その他については表1に明記した。

調査15は津島地区全域における構内外灯設置工事に伴う立会調査である。15―①は理学部南

のテニスコートに隣接する地点である。掘削深度は約150cm，造成土厚は110cmであり，造成土の直下にはしまりが強く，混じりの多い黒色土が堆積している。黒色土中からは土器細片を採取したが，時期を決定しうるものではない。黒色土直下の地表下142cm以下では津島地区において縄文時代後期の基盤層としている暗灰黄褐色砂質土を確認した。このことから理学部南側には微高地が広がることが予測される。15—②は津島北地区北辺にある半田山山塊の残丘に隣接した地点である。この地点では地表下50cmまで造成土が堆積し，その直下は黄褐色バイラン土の地山となる状況を確認した。

調査35はNTT電柱移設工事に伴う立会調査である。地表下150cmまで掘削し，造成土厚は90cm，地表下90cm以下は褐色系粘質土が堆積する。本調査により，津島地区東側では他地点と堆積状況が異なることを確認した。

調査41は環境理工学部から理学部に至る実験排水管埋設工事に伴う立会調査である。この地点は大学院自然科学研究科棟の北側の緑地内にあり，津島岡大遺跡第20次調査地点の東に位置する。これら3地点は地表下約200～240cmまで掘削した。堆積状況は第20次調査地点とほぼ一致している。

調査42は津島地区の北側境界付近への馬場移設に伴う樹木の移植による立会調査である。42—①地点では地表下約180cmで，42—②地点では地表下約150cmで黒色土を確認した。さらに42—②地点では地表下170cmで縄文後期の基盤層である明茶褐色砂質土層を確認した。

調査44は環境理工学部新営に伴う外構工事である。この地点は環境理工学部第2期工事（津島岡大遺跡第22次調査）地点の北西に位置する。この地点では地表下197cmまで掘削した。地表下約170cmの暗灰褐色粘質土層では溝状の遺構を確認し，地表下188cmの暗灰褐色弱粘質土層では須恵器・土師器を採取した。

昨年度に引き続いて岡山市を事業主体とする工事が大学構内で行われた。工事地内の埋蔵文化財については岡山市文化課が調査を行い，大学が立ち会うというかたちをとった。今年度は掘削深度の大きい工事が多かったが，多くは掘削面積が小さいものや，壁面を観察できない工法で掘削したものであった。（野崎）

2　鹿田地区

今年度，鹿田地区において行われた立会調査は，事業別にみると2件，2箇所であり，いずれも造成土内で工事は終了した。

3　東山地区

今年度，東山地区で行われた立会調査は，事業別にみて1件で，造成土内で工事は終了した。

表１　1998年度調査一覧

番号	種類	調査地区	グリット	所属	調査名称	調査期間	掘削深度（m）	備考
1	発掘	鹿田	BR55～BX61・BY56～57	医	校舎新営工事に伴う調査	97.2.26～98.8.6	1.4	調査面積829㎡。造成土厚1.0，1.3で中世・1.5で古代，1.7で弥生〈鹿田遺跡第７次調査〉
2	発掘	津島南	BB11	事	福利施設（南）新営に伴うポンプ槽取設工事に伴う調査	98.4.7～4.10	1.5	調査面積16㎡。古代の溝状遺構〈津島岡大18次調査〉
3	発掘	津島北	AZ09・10	理	コラボレーションセンター新営に伴う調査	98.7.27～99.2.18	2.4～3.5	調査面積1019㎡。縄文後期遺構，弥生前期の河道，古墳時代の溝群，中近世溝群，近世道路遺構確認。〈津島岡大19次調査〉
4	発掘	鹿田	BP～BS30～32	医病	ＲＩ治療室新営工事に伴う調査	98.7.28～9.1	1.7	調査面積156㎡。造成土厚1.0，1.3で中世，1.7で弥生〈鹿田遺跡第８次調査〉
5	発掘	津島北	AW02・03	環	校舎（Ｉ期）新営に伴うポンプ槽取設工事に伴う調査	98.10.19～28	3.3	調査面積16㎡。造成土厚1.2,2.1で黒色土。〈津島岡大20次調査〉
6	発掘	津島北	AX09	工	エレベーター新設に伴う調査	98.11.6～24	3.1	調査面積30.2㎡。造成土厚1.2，2.1で黒色土。〈津島岡大21次調査〉
7	発掘	鹿田	CE39・33，CG28，CK21，CL26・37	医病	病棟新営工事に伴う調査	98.11.27～99.5.11	1.7	調査面積2088㎡。造成土厚1.0,1.3で中世・1.5で古代，1.7で弥生〈鹿田遺跡第９次調査〉
8	発掘	津島北	AV02・03,AW02・03	環	校舎（Ⅱ期）新営工事に伴う調査	99.3.1～3.31	3.5	調査面積773.5㎡。近世の溝・土坑を確認。〈津島岡大22次調査〉
9	試掘	津島北	AZ09	理	コラボレーションセンター新営に伴う試掘調査	98.5.18,19	2.7～3.4	標高2.7ｍで黒色土確認。弥生前期の河道，弥生時代以降の溝状遺構確認。
10	試掘	津島北	AW02・03	環	校舎（Ⅱ期）新営工事に伴う試掘調査	98.6.23,24	4.5	造成土厚1.2，2.1で黒色土。古代から古墳の溝を確認。
11	試掘	鹿田	BG・BH4・5，CK・CL6・7，BG・BH4・5，CL・CM4・5	医病	病棟新営工事関連試掘調査	98.10.5～10.14	2.0～2.4	造成土厚1.0，1.3で中世・1.5で古代，1.7で弥生（鹿田遺跡第７次調査）
12	試掘	倉敷		資生研	バイオ実験棟新営工事関連試掘調査	98.10.26	1.5	時期不明の水田層を確認。
13	試掘	津島北	AW04	工	システム工学科棟新営予定地試掘調査	98.11.5	2.8	造成土厚1.0，1.8で黒色土。縄文後期の遺構を確認。
14	試掘	津島北	AU02・03・06，AV03	事	遺跡保護地区整備に伴う馬場周辺試掘調査	98.1.27～3.18	2.4～3.8	TP1・TP3・TP5：明治～弥生，溝他確認。TP2：2.3で黒色土。明治～古代。TP4：明治～古代，溝等確認。
15	立会	津島	AV07，AX03，AY03・09・10・11,AZ03,BA09・10,BB10,BC10・12,BE12	事	構内外灯設置工事	98.4.1～4.27	1.0～1.47	14地点立会，①造成土厚1.0，-1.42まで黒色土，-1.47まで暗灰黄褐色砂質土,②造成土厚0.5，-1.0まで黄褐色バイラン土（地山）。
16	立会	津島南	BE18・19	農	道路敷設工事	98.4.3	0.55～0.7	1997年度から継続，造成土内。
17	立会	津島南	BB11，BB12	事	南福利排水管埋設工事	98.5.1,22,26	1.1～1.5	GL-1.0まで造成土，-1.1まで灰褐色砂質土（明治）。
18	立会	津島南	BB12	事	南福利樹木移植	98.5.21,22	0.7～0.9	造成土内。
19	立会	津島南	BB12	事	南福利ガス管埋設工事	5.22	0.7	造成土内。
20	立会	津島南	BC10	事	南福利電力・情報通信外線工事（保健管理センター）	6.12	0.8	近世層まで掘削。
21	立会	津島北	AV04	放送	放送大学看板設置工事	6.16	0.55	造成土内。
22	立会	津島北	AZ09，BA09	理	コラボレーションセンター支障配管布設替工事	6.22	1.4	GL-1.4で黒色土上面。
23	立会	鹿田	BP～BS30～32	医	ＲＩ治療棟新営工事に伴う支障配管布設替え工事	6.22	1.2	既設工事内
24	立会	津島南	BB12，BC12	事	南福利外灯設置工事	6.26	1.4	２地点立会，中世層まで掘削。
25	立会	鹿田	CL57	医	動物実験棟樹木移植	6.29	0.3	造成土内。
26	立会	津島南	BC14	事	排水管布設工事	7.1	0.5	造成土内。
27	立会	津島南	BB11	事	共済会建物基礎撤去工事	7.6	1.4	近世層まで掘削。
28	立会	津島南	BB11	事	南福利雨水桝設置工事	7.8,9	1.4	近世層まで掘削。
29	立会	津島南	BB11	事	南福利自転車置場設置工事	7.10	0.7	造成土厚0.6，明治層まで掘削。
30	立会	津島北	AZ09・10	理	コラボレーションセンター樹木移植	7.14	0.6	造成土内。
31	立会	津島北	AW03，AX03・04・05・06，AY06・07・08・09・10	環	Ⅱ期工事ガス管埋設工事	7.17～8.20	1.2～1.4	25地点立会，明治～中世層まで掘削。
32	立会	東山		教	砂場新設工事	7.21	0.7	造成土内。
33	立会	津島南	BC11	事	学生会館改修工事（雨水桝，生活排水桝設置工事）	8.27,28	0.6～1.05	既設工事内。
34	立会	津島南	BC10	事	学生会館改修工事（トラップ桝撤去工事）	9.2	2.2	GL-1.7まで灰褐色粘土層，GL-2.2まで青灰色粘土層。
35	立会	津島北	BA00	事	ＮＴＴ電柱移設工事	10.2	1.5	造成土以下は褐色系粘質土が堆積。
36	立会	鹿田	BV73・CN78	医	校舎関連仮説電柱工事	11.5	1.2	1.0で近世層，1.2で中世層確認。

番号	種類	調査地区	グリット	所属	調査名称	調査期間	掘削深度(m)	備考
37	立会	鹿田	CE39～33	医病	病棟新営工事関連樹木移植	11.12·13・16・20	1.0～1.2	造成土・撹乱内。
38	立会	鹿田	CM39～33·CK48, CN27	医病	病棟新営工事関連外灯工事	11.14·17・18・20	0.8～0.9	造成土内。
39	立会	鹿田	AE51,BP45·56, BF45・51	医	校舎ガス管埋設工事	11.22～12.18	0.6～0.95	造成土内。
40	立会	津島南	AZ05・06	事	学生部基礎撤去工事	11.30	0.6	造成土内。
41	立会	津島北	AW03, AX03·04·05・06, AY06・07, AZ08	環	実験排水管埋設工事	99.1.8～2.15	0.97～2.4	13地点立会，近世層から古墳時代層まで確認。
42	立会	津島北	AU02, AW02	環	馬場移設に伴う樹木移植	99.2.19～3.2	0.7～2.2	7地点立会，①2.0で弥生後期まで掘削,②2.2で縄文基盤層まで掘削。
43	立会	津島北	AV02・03	環	馬場移設に伴うバンケット，水濠，乾壕設置工事	99.2.26	0.4	造成土内。
44	立会	津島北	AV03, AW03	環	校舎新営に伴う生活排水桝設置工事	99.2.26	1.97	古墳時代層まで掘削，須恵器・土師器片採集。
45	立会	津島北	AV02	環	馬場移設に伴う審判棟移設工事	99.3.4	0.7	造成土内。
46	立会	津島北	AZ09	理	コラボレーションセンター工事用スロープ掘削	99.3.5	1.0	造成土内。
47	立会	津島南	BC13, BD13	事	門扉設置工事	99.3.8	0.95	明治層まで掘削。
48	立会	津島北	AW03	環	校舎新営に伴うガス管埋設工事	99.3.8	1.45	中世層まで掘削。
49	立会	津島北	AW03	環	校舎新営に伴う自転車置き場設置工事	99.3.8	0.8	造成土内。
50	立会	津島北	AU03	環	校舎新営に伴う排水管埋設工事	99.3.9	0.8	造成土内。
51	立会	津島北	AU03	環	校舎新営に伴う集水桝設置工事	99.3.9	1.0～1.1	明治層まで掘削。
52	立会	津島北	BA10	理	コラボレーションセンター南電柱設置工事	99.3.10	0.8	造成土内。
53	立会	津島北	AW03	環	校舎新営に伴う検水槽設置工事	99.3.16	1.62	近世層まで掘削。
54	立会	津島北	AU03	環	馬場移設に伴う仮設電柱設置工事	99.3.17	1.6	近世層まで掘削。
55	立会	津島北	AW02・03	環	校舎新営に伴う雨水桝設置工事	99.3.25	1.15	近世層まで掘削。

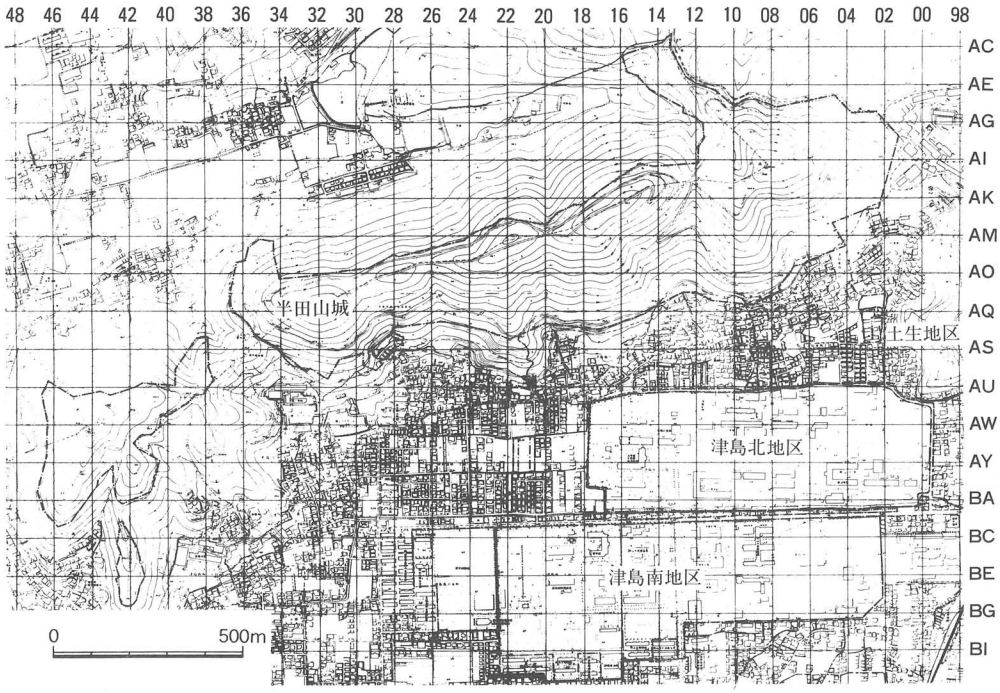


図37　津島地区全体図（縮尺1/20,000）

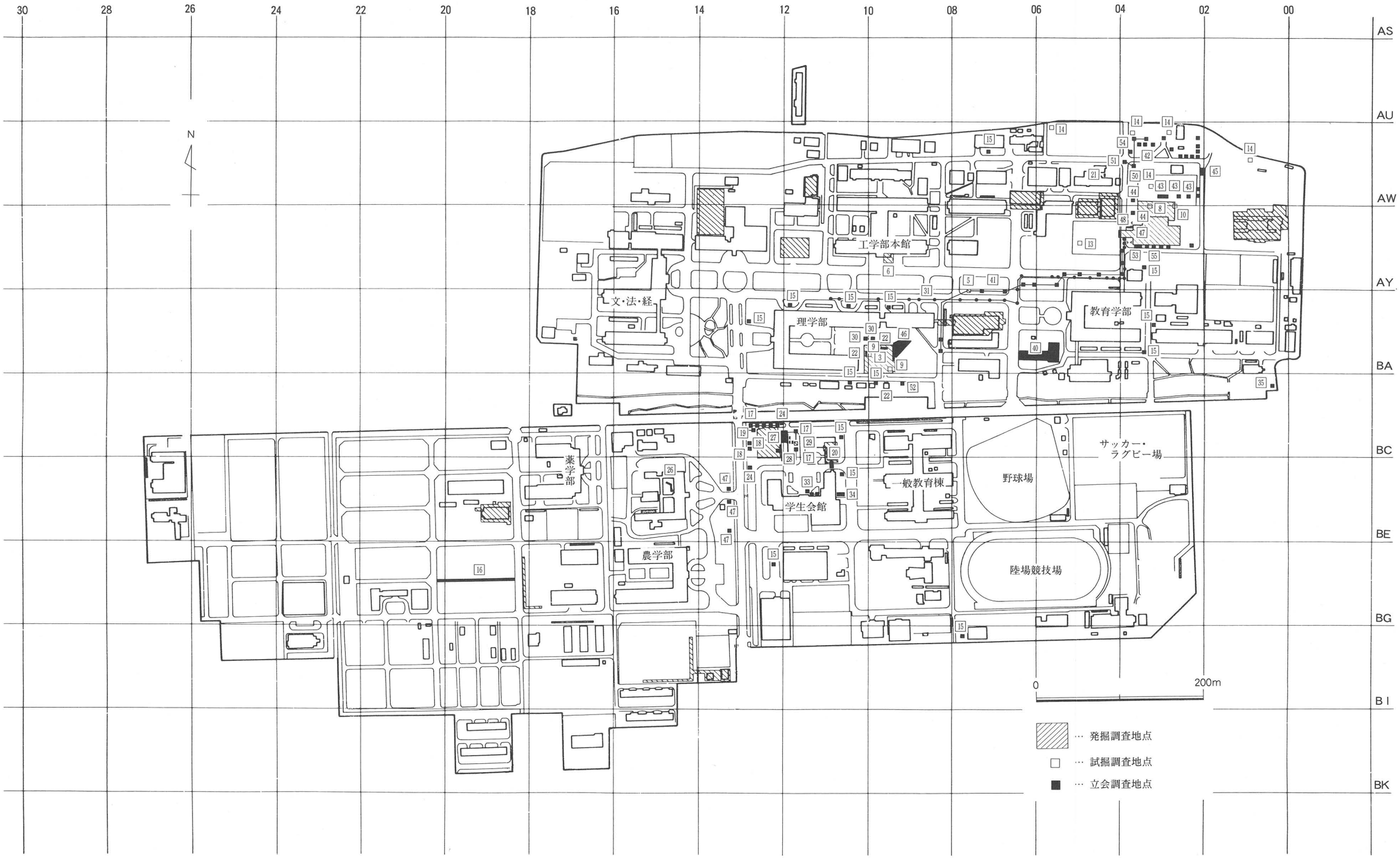


図38　今年度の調査〔1〕津島地区（縮尺1/7,500）

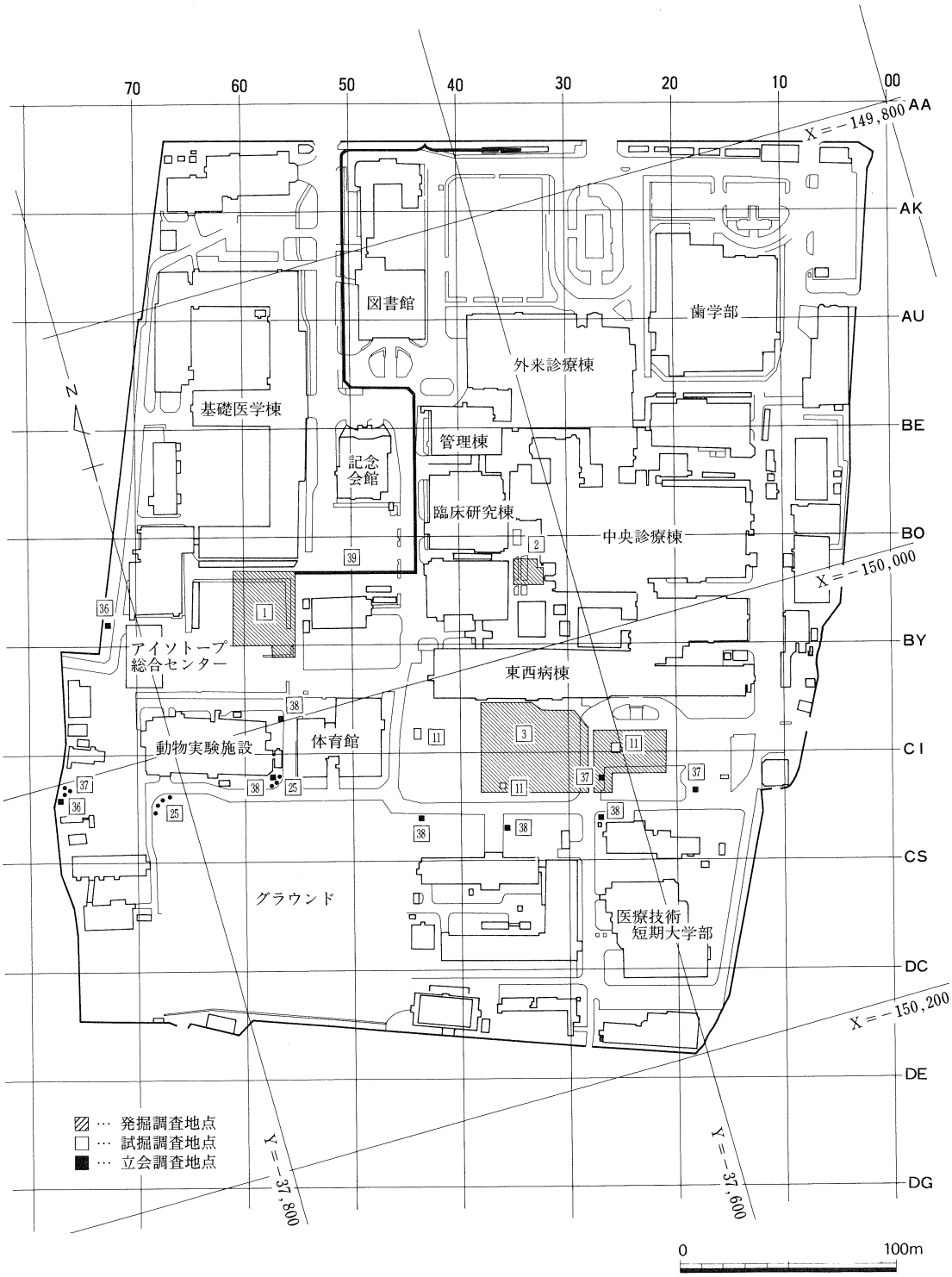


図39　今年度の調査〔2〕鹿田地区（縮尺1/3,000）

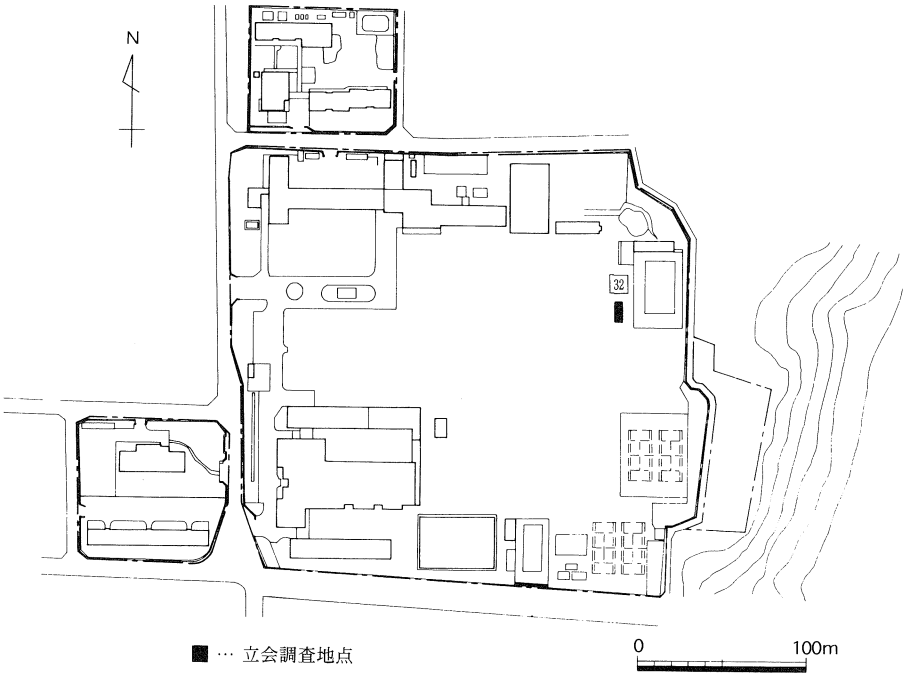


図40　今年度の調査〔3〕東山地区（縮尺1/4,500）　※数字は表1の番号と同じ

第2章　1998年度普及・研究・資料整理活動

1　資料整理

本年度は次の2件について発掘調査資料の整理を行った。

① 津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター）：遺構図整理，遺物の実測

② 三朝福呂遺跡（固体地球研究センター実験研究棟）：図面整理，遺物の実測

2　刊行物

刊行物については，以下の3冊を編集・発行した。

① 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第20号　1998年11月刊行

② 岡山大学構内遺跡調査研究年報　第15号　1999年2月刊行

③ 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第21号　1999年3月刊行

3　調査員の活動

資料収集活動

岩崎志保

中国新石器～周代文物の調査

小林青樹

縄文・弥生移行期における土器資料の調査（高知県・愛媛県・大分県・島根県の関係諸機関他）

豊島直博

古墳出土鉄製品の調査（福井県松岡町教育委員会）

山口県の前期古墳調査

野崎貴博

福呂遺跡関連文献調査（鳥取県埋蔵文化財センター）

鳥取県の前期古墳調査

学会・研究会参加等

岩崎志保

考古学研究会総会（4月）

小林青樹

考古学研究会総会（４月），日本考古学協会総会（５月）他

豊島直博

埋蔵文化財研究集会（８月）

野崎貴博

考古学研究会総会（４月），日本考古学協会総会（５月），埋蔵文化財研究集会（８月）

山本悦世

考古学研究会総会（４月），愛媛大学文京遺跡シンポジウム（７月），埋蔵文化財研究集会（３月）

横田美香

考古学研究会総会（４月），愛媛大学文京遺跡シンポジウム（７月）

研究発表他

小林青樹

「瀬戸内地域における弥生文化の成立」考古学研究会第３回例会シンポジウム（1999年１月）

横田美香

「岡山県の７世紀の須恵器」古代の土器研究会（1998年11月）

論文・資料報告

岩崎志保

「海外考古学の動向　中国」『日本考古学協会年報』50

小林青樹

『縄文・弥生移行期における東日本系土器』考古学資料集９（単著）　平成10年度文部省科学研究費補助金特定研究Ａ（１）『日本人および日本文化の起源に関する学際的研究』

「浮線文土器の西方展開」『古代吉備』20号

「第４章　考察　氷式土器の研究」『氷遺跡発掘調査資料図譜』（共著）第２分冊

「弥生文化成立期の西と東」『氷遺跡発掘調査資料図譜』第３分冊

「中四国の浮線文土器」『氷遺跡発掘調査資料図譜』第３分冊

「中部高地における氷式土器研究の現状」『氷遺跡発掘調査資料図譜』（共著）第３分冊

「付章　第１節　鏡片に付着する繊維製品について」『宗形神社古墳』岡山市教育委員会

横田美香

「高梁市（伝）佐内古墳出土陶棺について」『古代吉備』第20集

山本悦世

「地方史研究の現状　岡山県　二　考古学」『日本歴史』第605号　吉川弘文館

その他

岩崎志保

資料展示の実態調査（福岡市博物館）

山本悦世

大学における埋蔵文化財調査の実態調査（東北大学埋蔵文化財調査研究センター）

大学における資料展示の実態調査（東北大学理学部自然史標本館）

横田美香

大学における埋蔵文化財調査の実態調査（東北大学埋蔵文化財調査研究センター）

大学における資料展示の実態調査（東北大学理学部自然史標本館）

4　日誌抄

1997年

4月1日　第1回月例会議
4月3日　関　幸代技術補佐員・井口三智子臨時用務員着任
4月6日　津島岡大遺跡第18次調査開始（～10日）
4月23日　運営委員会開催
4月30日　第2回月例会議
5月18日　理学部コラボレーションセンター試掘調査（～19日）
5月25日　運営委員会開催
5月27日　管理委員会開催
第3回月例会議
6月1日　岩崎志保助手育児休業から復帰，豊島直博助手着任
6月23日　環境理工学部二期工事関連試掘調査開始（6月25日まで）
7月3日　第4回月例会議
7月25日　鹿田遺跡第7次調査現場説明会開催
7月27日　津島遺跡第19次調査（理学部コラボレーションセンター）開始
7月28日　鹿田遺跡第8次調査開始
8月6日　鹿田遺跡第7次調査終了
8月20日　博物館実習開始　受講生27名（8月28日まで）
9月1日　第5回月例会議
鹿田遺跡第8次調査終了
10月5日　医学部付属病院病棟関連試掘調査開始（10月14日まで）
第6回月例会議
10月12日　運営委員会開催
10月21日　津島岡大遺跡第20次調査開始（10月28日まで）
10月24日　管理委員会開催
10月26日　倉敷地区資源生物研究所バイオ実験棟試掘調査
11月2日　津島岡大遺跡第21次調査開始（11月21日まで）
11月4日　センター報20号納品
11月5日　工学部システム工学科関連試掘調査
第7回月例会議
11月27日　鹿田遺跡第9次調査開始
12月2日　第8回月例会議
12月17日　運営委員会開催
12月18日　センター正門に掲示板設置
12月22日　大掃除
12月28日　御用納め

1999年

1月4日　御用始め

1月14日　第9回月例会議
1月27日　津島キャンパス東北隅地域の試掘調査（3月16～18日にも行う）
管理委員会開催
1月30日　津島岡大遺跡第19次調査現地説明会
2月1日　津島岡大遺跡第19次調査現地説明会（理学部対象）
（一般対象）
2月1日　年報15号納品
2月2日　第10回月例会議
2月18日　津島岡大遺跡第19次調査終了
3月1日　津島岡大遺跡第22次調査開始
3月24日　センター報21号納品
3月30日　年報15号，センター報20・21号発送

5　1998年度までの遺物保管状況

1998年3月31日における本センターの遺物収蔵量は表2に掲げるとおりで，約30リットル収納のコンテナに換算すると2,271箱である。昨年度に比較して126.6箱の増加になった。発掘調査では，津島岡大遺跡第19次調査から21次調査，そして鹿田遺跡第7次調査と8次調査までで，あわせて129箱の遺物が出土した。また，試掘・立会調査での出土遺物は少なく，昨年度までの収蔵量と大差ない。

遺物保管状況については，鹿田地区をはじめとして発掘調査が続いており，箱数は増加することが見込まれる。これらは年々確実に増加し続けており，すでに用意している収蔵スペースの限界を超えている。早急な対応が求められる。

6　遺物の保存処理

本センターでは1992年度より構内遺跡から出土した木製品について，PEG（ポリエチレングリコール）含浸による保存を行っている。第1期保存処理は1992年7月から1993年11月まで，第2期保存処理は1994年6月から1996年8月まで行った。第3期保存処理は1996年12月から開始し，1996年度末までに PEG 濃度を25％まで上昇させた。そして1997年度は60％まで濃度上昇を行い，1998年度は最終的に90％に濃度が達し，次年度に継続することとなった。また，希少性が高く変形，もしくは崩壊を招きやすく，漆などの塗布がなされているものについて，既存の保存処理施設では対応できないため，保存処理の外部委託を行った。対象資料は「津島岡大遺跡第10次・12次調査出土木製品であり，合計14点を吉田生物研究所に依頼した。

表２　埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物一覧

所属	種類	地区 調査名称	箱数（１箱：約30ℓ） 総数	土器	石器	木器	その他	サンプル	備考 主要時期・特殊遺物	文献
医病	発掘	鹿田第１次調査（外来診療棟）	608	491	6	60	1 ガラス 鉄器 銅鏃他	50	弥生中期～中･近世，短甲状･櫂状木器等	⑦
〃	〃	鹿田第２次調査 （ＮＭＲ－ＣＴ室）	116	90	3	20		3	弥生後期～中世，田舟・木簡等	〃
医短	〃	鹿田第３次調査（校舎）	131	36		90		5	古代～中世	⑩
〃	〃	鹿田第４次調査（配管）	3	2				1	古代，鹿角製品	〃
医病	〃	鹿田第５次調査（管理棟）	119	79	1	20		19	弥生後期～中・近世	㉔
ア	〃	鹿田６次調査 （アイソトープ総合センター）	30	29.5	0.5				中世，青銅製椀	⑱
全	〃	津島岡大第１次調査（ＮＰ－１）	4			4			弥生中期～古代	③
農	〃	津島岡大第２次調査 合併処理槽 排水管	18	 7 6	1			4	縄文晩期～弥生前期	④
学生	〃	津島岡大第３次調査 （男子学生寮）	71	49	10	2		10	縄文後期～弥生，古代～近世 石製指輪，蛇頭状土器片石製指輪，蛇頭状土器片	⑲
〃	〃	津島岡大第４次調査 （屋内運動場）	1	1					縄文晩期～弥生前期〈試掘調査遺物を含む〉	⑥
大自	〃	津島岡大第５次調査 （大学院自然科学研究科棟）	89	55	2			32	縄文後期～弥生，古代～近世 耳栓・木製櫛（縄文）	㉗
工	〃	津島岡大第６次調査 （生物応用工学科棟）	63	30	1	22		10	縄文後期～近世　人形木器，アンペラ	⑪
〃	〃	津島岡大第７次調査 （情報工学科棟）	13	7	1			5	縄文後期～近世	〃
全	〃	津島岡大第８次調査 （遺伝子実験施設）	14	12.9	0.1			1	縄文後期～近世	㉜
工	〃	津島岡大第９次調査 （生体機能応用工学科）	258	35		3		220	縄文後期～近世	㉕
全	〃	津島岡大第10次調査 （保健管理センター）	55	40		5		10	弥生前期～近世	㉚
〃	〃	津島岡大第11次調査 （総合情報処理センター）	4	2		*		2	縄文後期～近世	〃
〃	〃	津島岡大第12次調査（図書館）	71	40	1	20		10	縄文後期～近世	㉝
〃	〃	津島岡大第13次調査 （福利厚生施設　北）	17	17					縄文後期・古墳前期・中世	㉝ ㊳
〃	〃	津島岡大第14次調査 （福利厚生施設　南）	16	15				1	弥生～古墳	㊳
〃	〃	津島岡大第15次調査 （サテライトベンチャービジネスラボラトリー）	355	25	10	20		300	縄文後期・晩期・弥生～中世 アンペラ	〃
農薬	発掘	津島岡大第16次調査 （動物実験棟）	0.3	0.3					縄文後期・弥生～中世	㊸
環	〃	津島岡大第17次調査 （環境理工学部）	60	50	1	1		8	縄文後期～近世	〃

所属	種類	地区 調査名称	箱数（1箱：約30ℓ） 総数	土器	石器	木器	その他	サンプル	備考 主要時期・特殊遺物	文献
固	発掘	固体地球研究センター （実験研究棟）	8	8				1	縄文早期・弥生中期・中世	㊽
固	〃	固体地球研究センター （実験研究棟　スロープ）	2.1	2			0.1		中世～近世	〃
全	〃	津島岡大遺跡第18次調査 （南福利ポンプ槽）	1						縄文後期～近世	
	〃	津島岡大遺跡第19次調査 （コラボレーションセンター）	40	20	1	4	1	14	縄文後期～近世	
環	〃	津島岡大遺跡第20次調査 （環境理工学部ポンプ槽）	1						縄文後期～近世	
工	〃	津島岡大遺跡第21次調査 （工学部エレベーター）	4	4					縄文中期～近世	
医	〃	鹿田遺跡第７次調査 （基礎医学棟）	77	62		10	1	4	弥生～近世	
〃	〃	鹿田遺跡第８次調査 （ＲＩ治療棟）	6	6					弥生～近世	
医病	試掘	鹿　田　駐車場	1	1					弥生～中世	⑤
学生	〃	津島北　男子学生寮	1	0.7	0.3				縄文後期～弥生前期	〃
教育	〃	〃　研究棟								
大自	〃	〃　自然科学研究科棟	1	1					縄文後期～弥生前期	⑥
事	〃	津　島　外国人宿舎（土生）	1	1					縄文～中世	⑧
理	〃	津島北　身障者用エレベーター	0.3	0.3					中・近世	〃
教養	〃	津島南　〃	0.7	0.7					縄文・中世	〃
工	〃	津島北　校舎	1	1					縄文～近世	⑪
農薬	〃	津島南　動物・遺伝子実験施設	0.7	0.7					縄文～弥生，中・近世	〃
事	〃	津島南　国際交流会館	0.3	0.3					中世	〃
大自	試掘	津島北　合併処理槽	0.2	0.2					中・近世	⑭
学生	〃	津島南　学生合宿所	0.4	0.2				0.2	中世	〃
教育	〃	津島北　身障者用エレベーター	0.3	0.3					縄文	〃
図	〃	〃　図書館	0.8	0.8					古墳～中世	〃
学生	〃	津島南　学生合宿所ポンプ槽	0.4	0.4					縄文～中世	⑱
資生	〃	倉　敷　資源生物科学研究所	0.1	0.1					近世	〃
ア	〃	鹿　田 アイソトープ総合センター	1	1					中世～近世	〃
事	〃	津島北　福利厚生施設	0.5	0.5					弥生？～中世	〃
農	〃	津島南　動物実験施設	0.1	0.1					縄文？～近世	㉝
環	〃	津島北　環境理工Ⅱ期	0.1	0.1						
工	〃	津島北　システム工学科棟	0.1	0.1						
全	立会	'83年度	2	2					分銅形土製品	①
〃	〃	'84年度	1	1						②
〃	〃	'85年度	1	1						⑤
〃	〃	'86年度	0.5	0.5						⑥

所属	種類	地区 調査名称	箱数（1箱：約30ℓ） 総数	土器	石器	木器	その他	サンプル	備考 主要時期・特殊遺物	文献
全	立会	'87年度	0.5	0.5						⑧
	分布	'89年度　三朝・本島	0.3	0.3						⑭
全	立会	'91年度　'92年度	0.3	0.3						㉑ ㉕
〃	〃	'93年度　'94年度　'95年度 '96年度　'97年度　'98年度	0.6	0.6						㉚ ㉝ ㊳ ㊸ ㊽
総箱数			2271.4	1237.2	38.9	281	1.1	710.2		

※文献番号は附表３・４に対応する。文献48は本年報15を指す。1998年度については，年度内に終了した事業のみを追加している。

第３章　岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

第１節　岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程

１　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程

（設　置）

第１条　岡山大学（以下「本学」という。）に岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）を置く。

（目　的）

第２条　センターは，本学の敷地内の埋蔵文化財について，次の各号に掲げる業務を行い，もって埋蔵文化財の保護をはかることを目的とする。

一　埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

二　発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。

三　埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に関すること。

四　その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

（自己評価）

第２条の２　センターは，岡山大学学則（昭和26年岡山大学規程第32号）第１条の２の定めるところにより，センターの係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行うものとする。

２　前項の自己評価を行うため，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。

３　自己評価委員会に関する規程は，別に定める。

附　則

この規程は，平成５年２月25日から施行する。

○岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの研究活動等についての点検及び評価を行うこととするため。

（センター長）

第３条　センターにはセンター長を置く。

２　センター長は，専門的知識を有する本学の教授の中から学長が命ずる。

３　センター長は，センターに関する業務を掌理する。

４　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。

（調査研究室）

第４条　センターにセンターの業務を処理するため調査研究室を置く。

２　調査研究室に室長，調査研究員及びその他必要な職員を置く。

３　室長は，専門的知識を有する本学の教官の内から学長が命ずる。

４　室長は，センター長の命を受け，センターの業務を処理する。

５　室長の任期は，２年とし，再任を妨げない。

６　調査研究員及びその他の職員は，上司の命を受け，センターの業務に従事する。

（調査研究専門委員）

第５条　センターに，センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るため，調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。

２　専門委員は，本学の教官の内から学長が命ずる。

3　専門委員の任期は，2年とし，再任を妨げない。

（管理委員会）

第6条　本学に，センターの管理運営の基本方針を審議するため，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

2　管理委員会に関する規程は，別に定める。

（運営委員会）

第7条　センターに，センターの運営に関する具体的な事項を審議するため，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2　運営委員会に関する規程は，別に定める。

（事　務）

第8条　センターの事務は，施設部企画課において処理する。

（雑　則）

第9条　この規程に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は，学長が別に定める。

附　則

1　この規程は，昭和62年11月26日から施行する。

2　この規程施行後最初に任命されるセンター長，室長及び専門委員の任期は，第3条第4項，第4条第5項及び第5条第3項の規定にかかわらず，昭和64年3月31日までとする。

○設定理由

岡山大学の敷地内の埋蔵文化財の発掘調査などの業務を行い，もって埋蔵文化財の保護を図るため，学内施設として，新たに岡山大学埋蔵文化財調査研究センターを設置すること及びその組織等必要な事項について定めるため。

2　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規程

（趣　旨）

第1条　この規程は，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規定第48号）第6条第2項の規定に基づき，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第2条　管理委員会は，岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針その他重要な事項を審議する。

（組　織）

第3条　管理委員会は，次の各号に掲げる委員で組織する。

一　学長

二　各学部及び教養部長

三　自然科学研究科長

四　資源生物研究所長

五　附属図書館長

六　各附属病院長

七　地球内部研究センター長

八　学生部長

九　医療技術短期大学部主事
十　事務局長
十一　埋蔵文化財調査研究センター長

（委員長）

第４条　管理委員会に委員長を置き，学長をもって充てる。

２　委員長は，管理委員会を召集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（委員以外の者の出席）

第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，その意見を聞くことができる。

（幹　事）

第６条　管理委員会に幹事を置き，庶務部長，経理部長及び施設部長をもって充てる。

（庶　務）

第７条　管理委員会の庶務は，施設部企画課において処理する。

附　則

この規程は，昭和62年11月26日から施行する。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針等を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会に関し，必要な事項を定めるため。

３　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程

（趣　旨）

第１条　この規程は，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規定第48号）第７条第２項に基づき，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第２条　運営委員会は，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する具体的な事項を審議する。

（組　織）

第３条　運営委員会は，次の号に掲げる委員で組織する。

一　埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）
二　本学の教授のうちから学長が命じた者若干名
三　センターの調査研究専門委員から学長が命じた者１人
四　センターの調査研究室長
五　施設部長

２　前項第２号の任期は，１年とし，再任を妨げない。

（委員長）

第４条　運営委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。

２　委員長は，運営委員会を召集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（委員以外の者の出席）

第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，その意見を聞くことができる。

（庶　務）

第６条　運営委員会の庶務は，施設部企画課において処理する。

附　則

１　この規程は，昭和62年11月26日から施行する。

２　この規程施行後最初に任命される第３条第１項第２号の委員の任期は，同条第２項の規定にかかわらず，昭和64年３月31日までとする。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの運営に関する具体的な事項を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会に関し，必要な事項を定めるため。

４　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程

（趣　旨）

第１条　この規程は，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規程第48号）第２条の２第３項の規定に基づき，岡山埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）に係る点検及び評価の実施に関し，必要な事項を審議する。

（組　織）

第３条　委員会は次の各号に掲げる者で組織する。

一　埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）

二　埋蔵文化財調査研究センター調査研究室長

三　センターに勤務する教官のうちから若干名

四　埋蔵文化財調査研究センター運営委員会委員のうちからセンター長が委嘱した者若干名

五　施設部長

２　前項に定める委員のほか，センター長が必要と認めた者を加えることができる。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。

（会　議）

第５条　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

２　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（庶　務）

第６条　委員会の庶務は，施設部企画課において処理する。

（雑　則）

第７条　この規程に定めるもののほか，委員会に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

この規程は，平成５年２月25日から施行する。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの研究活動等についての点検及び評価の実施に関する必要な事項を審議するために置く岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会について，必要な事項を定めるため。

第2節　1998年度埋蔵文化財調査研究センター組織

1　センター組織一覧

〈学　長〉小坂　二度見

管理委員会

〈埋蔵文化財調査研究センター長〉……（併・文学部教授）稲田　孝司

運営委員会

〈調査研究専門委員〉
千葉　蕎三（農学部教授）

〈調査研究室長〉……（併・文学部助教授）新納　　泉

〈調 査 研 究 員〉……（専・文学部助手）　岩崎　志保，小林　青樹
豊島　直博，野崎　貴博
山本　悦世，横田　美香
（技 術 補 佐 員）　関　　幸代

〈室 内 作 業 員〉……　井口三智子，片山　純子，
黒藪　美代子

2　管理委員会

委　員

学　　長	小坂二度見	文化科学研究科長	岩間　一雄
文学部長	成田　常雄	自然科学研究科長	岩見　基弘
教育学部長	松畑　熙一	資源生物科学研究所長	青山　　勲
法学部長	植松　秀雄	附属図書館長	神立　春樹
経済学部長	坂本　忠次	医学部附属病院長	大森　弘之
理学部長	佐藤　公行	歯学部附属病院長	村山　洋二
医学部長	産賀　敏彦	固体地球研究センター長	久城　育夫
歯学部長	松村　智弘	医療技術短期大学部長	遠藤　　浩
薬学部長	篠田　純男	学生部長　伊澤　秀而（1998年8月15日まで）	
工学部長	中島　利勝	松畑　熙一（1998年8月16日から）	
事務局長	藤井　　武（1998年6月30日まで）	諸橋　輝雄（1998年7月1日から）	
農学部長	内田　仙二	埋蔵文化財調査研究センター長	稲田　孝司
環境理工学部長	河野伊一郎		

幹　事

庶務部長　厚谷　彰雄　経理部長　黄楊川英了　施設部長　遠藤　久男（施設部長）

審議事項

1998年５月27日　平成９年度埋蔵文化財調査研究センター決算について
平成10年度埋蔵文化財調査研究センター予算について
平成10年度事業計画について

1998年10月24日　病棟整備計画に伴う事業計画の変更について
鹿田遺跡第７次・第８次埋蔵文化財発掘調査結果について
津島岡大遺跡第19次次埋蔵文化財発掘調査の現況について

1999年１月27日　助手の採用について
平成12年度概算要求事項について
埋蔵文化財調査研究センター人事について
岡山大学研究総合博物館（仮称）構想についての報告
平成10年度補正予算に伴う事業計画について

３　運営委員会

委　員

センター長	稲田　孝司	医学部教授	村上　宅郎
文学部教授	狩野　　久	農学部教授	千葉　喬三（調査研究専門委員）
理学部教授	柴田　次夫	事務局	遠藤　久男（施設部長）
経済学部教授	建部　和広	埋蔵文化財調査研究センター	新納　　泉（調査研究室長）

審議事項

1998年４月23日　平成９年度決算
平成10年度予算案
平成10度事業計画
助手の採用
調査の安全基準について

1998年10月12日　病棟整備計画に伴う事業計画の変更について
鹿田遺跡第７次・第８次調査の結果報告
津島岡大遺跡第19次調査の経過

1998年12月17日　助手の採用
平成12年度概算要求事項について
平成10年度補正予算に伴う事業計画について

第４章　1998年度活動のまとめ

本年度は稲田孝司センター長以下，年度当初は助手４名，技術補佐員１名の業務体制で構内遺跡の調査及び整理分析作業を行った。５月末に助手１名が特別休暇・育児休業から復帰し，さらに６月から助手１名を採用して助手６名，技術補佐員１名の体制となった。

今年度の発掘調査は，津島地区・鹿田地区ともに近年になく多い状況であった。まず津島地区では，第18次から第22次調査にわたる５度の調査が行われた。18次調査では，近世と古代の溝が検出され，隣接する10次と14次調査地点と合わせてこの付近での旧地形の状況が明らかになった。19次調査では，近世の道路跡や弥生時代の河道等を検出し，土地利用や旧地形のあらたな様相が明らかになった。20・21次の２箇所はいずれも小規模調査であったが，このうち21次調査において，津島地区ではじめて縄文中期後半に遡る良好な包含層と遺溝を検出した。低地部においても中期段階の遺跡が存在することを明らかにした点が重要な成果である。第22次調査は，第17次調査の北側に隣接した地点において行われ，1999年度にも継続している。本年度においては，近世の耕作関連遺溝などが検出されている。津島地区ではこのように，各調査地点において，これまでに予測されなかった時期の遺構や遺物などが検出されるなど，今後の調査研究に際しての重要なデータを得ることができた。

次に鹿田地区では，昨年度の1998年２月から調査を開始した鹿田遺跡第７次調査を，本年度も継続調査した。本調査では，隣接する第６次調査地点の状況と合わせて，中世の区画された屋敷地の全貌が明らかになった。また，中世の大溝からは，黒と赤の塗布の見られるサル形の木製品が出土しており注目される。鹿田地区では，その他，第７次調査の東側で第８次調査を行い，中世から古墳時代の溝を検出し，本調査地点が集落の縁辺に所在することが明らかになった。その後，病棟の新営に伴う大規模な第９次調査が11月から開始され，1999年度に継続された。これまでに，近世から中世までの大溝をはじめ，井戸・木棺墓など多数の遺構を検出しており，さらに木簡なども出土した。このように，鹿田地区では多数の調査が行われ鹿田遺跡の全貌が少しずつ明らかになりつつある。今後は，これまでの調査成果と併せて，遺跡の総合的な検討が進むに違いない。

試掘調査については，今年度は1999年度以降に予定されている事業に関する調査が多く行われた。このうち１件を除き，すべて1998年度中に調査が終了，または継続している。立会調査については，津島地区と鹿田地区を合わせて41件と多数行われた。各所において迅速に対応し，埋蔵文化財の状況について記録を行った。わずかな面積ではあるが，着実に構内各所の埋蔵文化財の情報が蓄積されつつある。

室内の整理作業は，調査の増加の影響により調査員による作業は昨年度に比べて厳しい状況であった。したがって，報告書の刊行がかなわず，報告書作成に向けた作業が中心であったが，少しずつではあるが着実に整理作業は進行している。刊行物では構内遺跡調査研究年報15号，センター報20・21号を刊行した。

遺物の保管については，センターにおける遺物の収蔵量の限度を超え，深刻な状況にある。近年，調査も増加の一途にあり，早急に収蔵場所について検討する必要がある。

本年度は，以上のように発掘調査が多数あり，調査員がすべて調査の業務に連続してかかるなど，室内業務の進行を考えると非常に厳しい時期であった。しかし，こうしたなかにあって，各調査において着実に考古学研究上重要な成果を積み上げており，また，そうした成果を学内外に公開するなど，積極的な姿勢は高く評価されるべきである。今後はよりいっそう学内外を問わず調査成果の公開など普及・啓蒙活動を続け，埋蔵文化財に対する更なる理解の深化をはかる必要がある。

（小林）

附　　表

附表１　1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）

年度	遺跡名 調査地区名	種類	所属	調　査　名　称	調査組織	調査面積(㎡)	文献	備　　考
1980	鹿田	立会	歯	同附属病院棟新営	岡山市教育委員会	8		
1981	津島南 BD26	〃	農	寄宿舎新営	〃			
	津島北	〃	文法	合併処理槽埋設	〃			
	津島北	〃	文法経	合併処理槽埋設	〃			
	津島南 BD09 BC09～11	〃		基幹整備（共同溝取付）	〃			
	津島南 BD～BE04～07	〃		陸上競技場改修 （配水管埋設）	〃			
	鹿田	〃	医病	高気圧治療室新営	〃			
	〃	〃	〃	動物実験施設新営	〃 岡山県教育委員会			試掘調査をせず破残存壁面等の調査
	〃	〃	〃	病理解剖体臓器処理保管庫新営	岡山市教育委員会			
	〃	〃	医	運動場改修	〃			
1982	津島 AV06・10 AW05・14 AX08,BD07 BE10	試掘		排水基幹整備	〃			津島AW14区で弥生時代包含層確認，協議
	小橋法目黒 津島北 AW14	発掘	法文	配水管集中槽(NP-1)埋設	岡山大学	24.0	③	〈津島岡大第１次調査〉
	津島南	試掘	学生	武道館新営	岡山市教育委員会	2.3		
	津島北 AY15・16	〃	法経	校舎新営	〃	7.0		
	鹿田	〃	医	標本保存庫新営	岡山県教育委員会	8.0		
	〃	〃	医病	外来診療棟新営	〃 岡山市教育委員会	4.0	2	
	〃	立会	医	動物実験施設関連排水管・ガス管埋設	岡山県教育委員会		1	
	鹿田 AE～AN22 AE22～26	〃	歯	電話ケーブル埋設	〃 岡山市教育委員会 岡山大学埋蔵文化財調査室			

※文献１　光永真一「岡山大学医学部附属病院動物実験施設新営工事に伴う排水管付設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13　1983　岡山県教育委員会

２　河本　清「岡山大学医学部附属病院外来診療棟改築に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13　1983　岡山県教育委員会

③　番号は附表３の番号に対応する。

附表２　1998年度以前の構内主要調査（1983～1998年度）

附表２－（１）発掘調査

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	調査期間	面積（㎡）	概要	文献
2	1983	9	鹿田	AU～BD28～40	医病	外来診療棟新営〈鹿田第１次調査〉	7.27～11.22 '84.1.9～3.31	2188	弥生時代中期後半～中・近世集落址	⑦
3	1983	10	鹿田	BG～BI18～21	医病	ＮＭＲ－ＣＴ室新営〈鹿田第２次調査〉	8.1～12.30	176	弥生時代後期～中世集落	⑦
10	1983	11	津島南	BE14・18 BF17・18 BG14 BH14・15	農	排水管埋設〈津島岡大第２次調査〉	'84.1.9～3.5	265	弥生時代早・前期集落址	④
10	1983	12	津島南	BH13	農	合併処理槽埋設〈津島岡大第２次調査〉	11.14～11.22 '84.1.9～3.5	276	弥生時代早・前期集落址	④
2	1984	3	鹿田	AU～BD28～40	医病	外来診療棟新営〈鹿田第１次調査〉	4.1～8.31	2188	弥生時代中期後半～中・近世集落址	⑦
31	1986	1	鹿田	CN～CU27・28 CT～CY19～27 CX～DD16～25 DD～DG22・23	医短	校舎新営〈鹿田第３次調査〉	6.2～11.29	2390	古代～中世の集落址	⑩
36	1986	2	津島北	AV00 AW00・01	学生	男子学生寮新営〈津島岡大第３次調査〉	12.1～ '87.3.31	1550	古代～近代の水田址	⑲
38	1986	3	津島南	BF・BG09	学生	屋内運動場新営〈津島岡大第４次調査〉	'87.1.19～1.22	70	弥生時代前期の溝，中世河道	⑥
36	1987	1	津島北	AV00 AW00・01	学生	男子学生寮新営〈津島岡大第３次調査〉	4.1～6.18	1550	弥生時代の集落址	⑲
36	1987	1	津島北	AV00 AW00・01	学生	男子学生寮新営〈津島岡大第３次調査〉	8.24～9.5	80	縄文時代後期～弥生時代早期の河道	⑲
52	1987	2	鹿田	BB～BH35～42	医病	管理棟新営〈鹿田第５次調査〉	10.6～ '88.3.2 '88.3.23～3.31	1192	弥生時代中期後半～中・近世の集落址	㉔
54	1987	3	鹿田	DD～DF25 DG～DI27・28	医短	校舎周辺の配管〈鹿田第４次調査〉	11.2～11.21	30	古代の河道	⑩
65	1988	1	津島北	AY06～08 AZ06・07	大自	自然科学研究科棟〈津島岡大第５次調査〉	6.27～ '89.3.19	1537	縄文時代後期・弥生時代早期の貯蔵穴と河道・弥生時代～近世の水田址	㉗
67	1988	2	津島北	AV・AW04・05	工	生物応用工学科棟〈津島岡大第６次調査〉	9.20～ '89.3.31	600	縄文時代後期・弥生時代早期の貯蔵穴と河道・弥生時代～近世の水田址	⑪
70	1988	3	津島北	AV・AW05・06	工	情報工学科校舎〈津島岡大第７次調査〉	10.12～ '89.3.31	800	縄文後期・弥生時代早期集落址，弥生時代～近世水田址	⑪
67	1989	1	津島北	AV・AW04・05	工	生物応用工学科棟〈津島岡大第６次調査〉	4.1～5.31	600	縄文時代後期・弥生時代早期の貯蔵穴と河道・弥生時代～近世の水田址	⑭
65	1990	1	津島北	AY・AZ08	大自	自然科学研究科棟〈津島岡大第５次調査〉	4.3～4.21	90	古墳時代後期の溝	⑱
92	1990	2	鹿田	BW～CC67～71	ア	アイソトープ総合センター〈鹿田第６次調査〉	11.20～ '91.3.31	690	鎌倉時代の溝・井戸・建物群	⑱
92	1991	1	鹿田	BW～CC67～71	ア	アイソトープ総合センター〈鹿田第６次調査〉	4.1～6.30	690	鎌倉時代の溝・建物群；土器ほか弥生～古墳時代の溝・土壙；土器	㉑
96	1991	2	津島南	BD18・19	農	遺伝子実験施設〈津島岡大第８次調査Ａ地点〉	7.23～12.25	650	弥生時代～近世の溝等，縄文時代の土壙・土器・石器他	㉜
96	1991	3	津島南	BH13	農	（合併処理槽）〈津島岡大第８次調査Ｂ地点〉	7.23～12.2	140	古代～近世水田　弥生土器・石器他	㉜

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調　査　名　称	調査期間	面積(㎡)	概　　要	文献
104	1992	1	津島北	AU～AW04	工	生体機能応用工学科棟〈津島岡大第９次調査〉	7.1～'93.1.29	650	縄文時代後期・弥生時代早期の貯蔵穴と河道・弥生時代～近世の水田址	㉕
108	1992	2	津島南	BB～BC10～11	保	保健管理センター〈津島岡大第10次調査〉	'93.2.1～3.31	400	近世耕地・野壺ほか，93年度に継続	㉕
108	1993	1	津島南	BB～BC10～11	保	保健管理センター〈津島岡大第10次調査〉	4.17～7.31	400	弥生時代後期土壙等；弥生～古墳時代井戸・土壙；古墳時代住居址ほか	㉚
115	1993	2	津島北	AV～AW11～12	情	総合情報処理センター〈津島岡大第11次調査〉	9.14～'94.1.11	640	縄文後期～弥生前期竪穴状遺構，弥生中期水田址，古墳時代水田址ほか	㉚
127	1993 1994	1	津島北	AV～AW13～14	図	図書館〈津島岡大第12次調査〉	'94.2.9～3.31 4.1～11.30	1472	縄文時代土坑，弥生時代～古墳時代溝水田畦畔，古代溝・畦畔，中世溝ほか	㉝
134	1994	2	津島北	AW～AX11～12	事	福利厚生施設北棟〈津島岡大第13次調査〉	10.6～11.30	816	近代耕作面，'95年度に継続	㉝
134	1995	1	津島北	AW～AX11・12	事	福利厚生施設北棟〈津島岡大第13次調査〉	7.10～10.4	816	弥生時代の水田，弥生～古墳時代の溝，縄文時代後期のピット群	㊶
144	1995	2	津島南	BB～BC12・13	事	福利厚生施設南棟〈津島岡大第14次調査〉	10.25～2.14	856	弥生時代の水田，弥生～古墳時代の溝，土坑	㉝
147	1995	3	津島北	AW00・01	サ	サテライトベンチャービジネスラボラトリー新営〈津島岡大遺跡第15次調査〉	96.1.16～4.24	1600	縄文後期の貯蔵穴・竪穴住居・炉・ピット・土坑・河道 弥生早期の貯蔵穴・河道 弥生時代の水田・溝	㊳
153	1996	2	津島南	BD19～20	農・薬	動物実験棟新営〈津島岡大遺跡第16次調査〉	96.5.7～15	30.3	A地点：縄文時代と古墳時代の土坑。B地点：中世の溝，古代の柱穴列，弥生時代の水田	㊹
154	1996	3	津島北	AW02～04	環	環境理工学部新営〈津島岡大遺跡第17次調査〉	96.5.21～1.9	1451	古代の水田，弥生時代の溝・水田，縄文時代後期の住居址・ピット群・土坑	㊹
173	1997	1	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事　本体工事部分〈福呂遺跡第１次調査〉	97.5.10～5.20	244	縄文時代早期・弥生時代中期・中近世包含層・遺構確認。	㊿
174		2	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事　渡り廊下基礎工事②	97.7.28	25	1.0mで中世層。2.0mで灰色粘土層。	
175	1997	3	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事スロープ部分調査〈福呂遺跡第２次調査〉	97.11.25～12.5	120	近世・中世・古代の包含層・遺構確認。	㊿
176	1997	4	鹿　田	BR55～BX61・BY56～57区	医	校舎新営〈鹿田遺跡第７次調査〉	98.2.27～8.6	829	近世の水田・溝，中世の溝・ピット群・井戸，古墳時代初頭の住居・掘立柱建物等を確認。サル形木製品出土。	㊿

附表２－（２）試掘調査

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調　査　名　称	掘削深度	造成土厚	概　　要	文献
4	1983	1	津島南	BH13	農	合併処理槽予定地	2.5		弥生時代前期土器片〈'83年度発掘〉	①
5	1983	2	津島南	BF17	農	排水管中間ポンプ槽予定地	3.5			①
8	1983	3	津島南	BE～BG14 BE・BH15 BE18 BF16～18	農	排水管埋設予定地	2.0		弥生時代前期土器片〈'83年度発掘〉	①

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調　査　名　称	掘削深度	造成土厚	概　　要	文献
11	1983	8	津島北	AW05	工	校舎新営予定地	3.0	1	土器片出土	①
12	1983	5	津島南	BC·BD15	事	大学事務局新営予定地	2.0～3.0	0.9	土器片出土	①
13	1983	6	津島南	BB10	保	保健管理センター新営予定地	2.0～3.0	0.8	溝検出	①
14	1983	4	津島南	BF22·23	農	農場畜舎新営予定地	2.0～3.0	0.6	土器片出土〈1987年度工事立会〉	①
15	1983	7	津島南	BI16	事	津島宿舎新営予定地	2.0	0.9	土器片出土〈1987年度工事立会〉	①
21	1984	1	鹿　田	BU30·31	医病	西病棟北側受水槽予定地	1.4	0.5～0.7	中世土器・包含層確認〈盛土保存〉	②
22	1984	2	鹿　田	CT·CU25 CZ19·20·23・24	医短	医療短期大学部校舎新営予定地	2.7	0.8～1.0	中世・古代の遺物出土〈1986年度発掘調査〉	②
23	1985	3	津島北	AV·AW99～01	学生	男子学生寮新営予定地	2.0～3.0	1	縄文時代～中世の遺構・遺物〈1986年度発掘調査〉	⑤
24	1985	2	津島北	AX02	教育	研究棟予定地	2.6～3.4	1.2	縄文～弥生時代土器出土	⑤
25	1985	1	津島南	BE08	教養	講義棟予定地	3.5	1.2	遺構・遺物未確認〈1986年度工事立会〉	⑤
29	1985	4	鹿　田	AJ33 AI40 AJ·AK26	医病	外来診療棟環境整備工事に先立つ範囲確認調査	2.2～3.0	0.9～1.4	弥生時代～中世の遺物	⑤
35	1986	3	津島南	BF·BG09	学生	屋内運動場新営予定地	2.4 1.2～1.7	1.1	弥生時代前期溝・中世河道検出〈1986年度発掘調査〉	⑥
37	1986	4	津島北	AY·AZ07	大自	自然科学研究科棟新営予定地〈1988年度発掘調査〉	1.6～3.2	0.6～0.8	縄文時代中期末～後期の遺構・遺物〈1988年度発掘調査〉	⑥
45	1987	4	土　生	AP02	事	外国人宿舎建設予定地	2.2～2.8		近世・弥生時代・縄文時代の遺構面確認	⑧
46	1987	5	津島北	AV11	情	総合情報処理センター新営予定地	2.0～3.0	2	黒色土を標高2.2m前後で確認〈1993年度発掘調査〉	⑧
48	1987	6	津島北	AY09	理	身体障害者用エレベーター建設予定地	3.0～3.5	約1.0	近世·中世の遺物　中世·古代の水田址〈継続して発掘調査に及ぶ〉	⑧
49	1987	7	津島南	BD09	教養	身体障害者用エレベーター建設予定地	2.5	0.7	縄文時代土壙群を確認　縄文・中世・近世土器出土〈継続して発掘調査に及ぶ〉	⑧
61	1988	17	津島北	AX04·06 AW04	工	校舎建設予定地	2.0～3.5		黒色土を標高3m弱で確認。溝状遺構・水田址検出　縄文～近世土器出土〈1988年〉	⑪
62	1988	19	津島南	BD18·19	農薬	動物実験飼育施設及び遺伝子実験施設	2.3	1.1～1.2	黒色土を標高約2.3mで確認　溝状遺構・縄文～中世遺物検出	⑪
63	1988	20	津島南	BC29	事	国際交流会館	2.5	1.2	近世・中世の遺物出土〈1988年度工事立会〉	⑪
77	1989	3	津島北	AZ17	大自	合併処理槽設置予定地	4.0	1.6～2.0	中世～明治の水田の畦畔・溝〈1989年度工事立会〉	⑭
78	1989	4	津島南	BD02	学生	学生合宿所予定地	2.0～3.2	1	弥生時代早・前期の畦畔〈1989年度工事立会〉	⑭
79	1989	2	津島南	AZ·BA05	教育	身体障害者用エレベーター	2.5	0.8	縄文時代後弥生時代早期の落込み，縄文時代後期～中世土器片〈小規模発掘，面積38.5㎡〉	⑭

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調　査　名　称	掘削深度	造成土厚	概　　要	文献
83	1989	5	津島北	AV･AW13	図	図書館新営予定地	3.0	1.4～1.6	古代水田，弥生～古代の溝〈1993～1994年度発掘調査〉	⑭
87	1990	3	津島南	BC02	学生	学生合宿所ポンプ槽予定地	2.5	1.1	弥生時代前期畦畔，中世土器片	⑱
89	1990	4	倉敷地区		資生	資源生物科学研究所遺跡確認調査	2.5	0.7	中世後半以降の土器片	⑱
90	1990	5	鹿　田	BY･BZ68	ア	アイソトープ総合センター予定地	2.3	1.2～1.3	中世土師質土器など〈1990・91年度発掘調査〉	⑱
91	1990	6	津島北	AW･AX11	事	福利厚生施設予定地	3.9	1.4～1.6	弥生～古墳時代の溝，中世土器小片	⑱
121	1993	3	津島南	BE～BF・22～23	農	農学部汎用耕地実験実習施設	1.5		中～近世耕土	㉚
136	1994	3	津島南	BD20	農薬	動物実験施設	2.0	0.9	GL-1.4mで黒色土，縄文土器一点出土	㉝
140	1995	4	津島南	BE26	事	国際交流会館新営予定地	4.1・2.4	1.6	造成土以下，明治･近世･中世と思われる土層確認。以下は湿地状。出土遺物なし。遺構は明治の畝のみ。	㊳
146	1995	5	津島北	AW02･03	環	環境理工学部新営	2.4	1.2	標高3.2mで黒色土上面。弥生時代の溝状遺構検出。	㊳
150	1995	6	津島南	BF07	学	ボクシング部ボックス移設	96.3.18	3	標高2.5mで黒色土確認。弥生～古墳時代の溝２条，古代溝１条確認。	㊳
177	1997	5	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事　渡り廊下基礎工事①	1.66	0.8	0.8で造成土。1.0でまさ土。1.4でシルト質の層。以下砂層がラミナ状に堆積。遺物なし。	㊿
178	1997	6	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事　スロープ部分工事③	2.1	1.0	黒色層２層確認。	㊿
179	1997	8	鹿　田	BT57	医	基礎医学棟　鹿田第７次調査関連	2.2	0.9	中世・弥生時代の包含層を確認。	㊿

附表２－（３）立会調査

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調　査　名　称	掘削深度	造成土厚	概　　要	文献
1	1983	13	東　山		教育	附属中学校新営	4.0～5.0		シルト層中	①
6	1983	23	鹿　田	A0～AW22	医病	外来診療棟蒸気配管埋設	1.3		弥生時代後期土器・分銅形土製品，貝集積	①
20	1984	20	津島南	B115～17	事	南宿舎合併処理槽関係配水管埋設	1.0～2.2	1.0	溝･土壙検出･弥生土器・須恵器	②
26	1985	6	鹿　田	AW～BH23 BH･B124	医病	外来診療棟関係屋外排水管埋設	1.3～1.7	0.7～1.3	中世・弥生の遺構・遺物を確認。	⑤
30	1985	12	鹿　田	AG31 AG24 AF23	医病	基幹環境整備緑化工事電気配線ハンドホール掘削	1.2～1.7	0.9～1.3	中世包含層・ピット。	⑤
33	1986	12	津島南	BE08･09	教養	校舎新営	2.3	1.3	中近世の溝・土器。	⑥
40	1986	21	津島南	BG08	学生	ハンドボールコート新設	0.2～2.0	0.8	黒色土確認	⑥
42	1986	24	鹿　田	CL～CR12 CR～CX13 CX～DA14	医短	護岸及び囲障工事	2	0.8～1.0	中世包含層	⑥
43	1986	26	津島南	BF07･08	教養	校舎新営に伴う電気配管	1.8	0.9	中世包含層	⑥
44	1987	8	鹿　田	BC37	医病	管理棟新営に伴う基礎杭確認	2.5		弥生時代包含層・遺構確認。	⑧
44	1987	8	鹿　田	BC37	医病	管理棟新営に伴う基礎杭	2.5		弥生時代包含層・遺構	⑧

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調　査　名　称	掘削深度	造成土厚	概　　要	文献
66	1988	17	津島南	BF・BG10・11	教養	テニスコート夜間照明施設	2.2；1.4～1.5	1.5	黒色土を表土下約２ｍで確認。西に向かう落ちを推定。	⑪
74	1989	8	津島北	AZ08	大自	自然科学研究科棟新営工事用道路	1.4		弥生時代後期水田・溝確認。	⑭
80	1989	46	鹿　田	CE30・37・44 CJ・CK45 CL28・29	医病	旧管理棟跡地環境整備外灯基礎掘削	1.2～1.5	0.7～1.0	中世層を確認。	⑭
85	1990	12・13	津島北	AV04～10		岡山市道本町津島東線拡幅に伴う補償工事Ⅰ　電柱移設	0.4～3.0	0.6～1.4	黒色土層，条里溝。〈1989年度試掘調査済〉	⑱
88	1990	20	津島北	BC02～04 BD03・04		岡山市道本町津島東線拡幅に伴う補償工事Ⅰ　学生合宿所給排水管設置	2.3	1.2	GL-2.3ｍで黒色土確認。	⑱
95	1991	9	津島南	BC18	遺	防火用水撤去	2.0	0.8	以下基盤層まで　遺物出土	㉑
99	1991	17	津島南	BB16	事	津島地区基幹整備(電気)ハンドホール・アース板	1.7～1.8	0.5	明治層～淡灰色粘土層	㉑
101	1991	19	津島北	BD15	事	津島地区基幹整備(電気)アース板埋設	1.7	1.0	GL-1.5ｍで黒色土上面	㉑
102	1991	40	津島南	BC・BE・BF12	事	南北道路街灯設置	1.5		GL-1.4ｍで古代層確認	㉑
105	1992	15	津島南	BD18・19	遺	遺伝子実験施設ハンドホール設置	0.7～1.5		GL-0.75ｍ～-1.1ｍで明治層上面　縄文後期層まで，溝２本検出	㉕
107	1992	28	鹿　田	BU65 BU-BC66 BC67-72 BW・CA71	ア	アイソトープセンター集水枡・ヒューム管設置	1.4～1.5		GL-0.9ｍで明治層上面，中世溝１	㉕
110	1992	34	津島北	AV12	事	附属図書館北側駐車場整備	3	1.7	造成土以下粘土層	㉕
113	1992	41	鹿　田	CI73	医	テニスコート脇電柱埋設	1.2	1.0	古代土器１点	㉕
118	1993	17	津島南	BB～BC・10～12	保	保健管理センター新営に伴う外構工事ほか　電気配線	1.8	0.6～0.7	明治層以下保健管理センター本調査と同じ層序，黒褐色土は-1.15～1.7ｍ，その直下に基盤層	㉚
119	1993	23	津島北	BA07	事	津島地区基幹整備　ＲＩ共同利用施設排水処理施設他設置	3.2		明治～中世層　暗褐色土層確認　古代溝？；縄文晩期？土器片	㉚
120	1993	28	津島南	BD～BE13	事	津島地区環境整備　南北道路沿水路ボックスカルバート敷設	1.5	1.0	明治層，中世～近世層を確認	㉚
122	1993	39	津島南	BB05～07 BC05 41	学生	野球場バックネット他改修	2.0～3.2	1.0	-1.2～2.0ｍ付近で黒色土を確認；以下は黄色砂～青灰色粘土	㉚
124	1993	33	津島南	BB～BG・12～13	事	津島地区環境整備　水銀灯設置	1.8	0.5～1.2	明治層，以下近世～中世層　一部で暗褐色土層を確認	㉚
125	1993	19	津島南	BB11	保	保健管理センター新営に伴う外構工事ほか　旧棟改修	1.1	0.8	明治層，確認　弥生土器片	㉚
126	1993	34	津島南	BD～BE12・13	事	津島地区環境整備信号機設置	1.6	1.0	明治層以下，近世から中世層，一部で暗褐色土層。	㉚
129	1994	5	鹿　田	DH60～62	医	護岸改修工事	1.5	0.8	造成土以下明治・近世？層各一層，以下はすべて遺構埋土の可能性あり。溝３条，ピット９確認。	㉝
131	1994	9	津島南	BD・BE・BF04～07	事	陸上競技場照明灯設置	2	0.96	照明ポール（径80cm―深さ10ｍ）オーガー掘削。GL-1.92～2.00ｍで黒色土確認。	㉝

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調　査　名　称	掘削深度	造成土厚	概　　要	文献
133	1994	13	津島北	AV10・AW10・AU11	情	総合情報処理センター新営電気工事	2.2	1.5	明治１面，近世２面，中世（近世か？）１面。近世溝確認。GL-1.7で黒色土確認。	㉝
137	1994	20	津島南	BD20	農	焼却場	2.2	1.5	GL-1.9mで黒色土確認。	㉝
141	1995	11	鹿　田	BF17・18	医病	鹿田地区基幹整備附属病院連絡通路新設 院連絡通路新設	1.5	1.0	造成土以下茶褐色土，青灰色粘質土層，遺物なし	㉝
145	1995	14	鹿　田	CD07・08	医病	鹿田地区基幹整備液酸タンク設置工事	2.3	1.0	中世遺構面２面確認。溝３条確認。中世基盤層がしっかりしている。溝内から中世・古代の土師器出土。	㊳
148	1995	17	鹿　田	CC・CD08～10	医病	鹿田地区基幹整備附属病院液酸タンクU字溝埋設工事	1.23	0.85	包含層確認。中世の土器細片採取。既設管，基礎などで遺存部分は区間全長の１／２程度	㊳
149	1995	23	鹿　田	DF56～67	医	防球ネット取設工事	3	0.8	径60cmを12箇所。４箇所で土器片，石器の採取あり。調査区西寄りは,GL-2m以下が旧河道か。	㊳
152	1996	4	津島南	BC18	農・薬	動物実験棟新営に伴う造成土取り	4.8・9	0.86	黒色土層付近まで掘削	㊹
155	1996	5	津島南	BD16～19	農・薬	動物実験棟新営に伴うハンドホール設置工事	1.3		造成土以下５層確認	㊹
160	1996	12	津島北	AV02，AV03，AV04，AV99，AW02，AW04，	サ	サテライトベンチャービジネスラボラトリー新営外灯設置工事	1.0～1.5	0.76～1.1	明治層２面,近世層２面，中世層？１面，弥生層？１面確認	㊹
161	1996	13	津島北	AV03～AW03，	サ	サテライトベンチャービジネスラボラトリー新営排・配管設置工事	2	0.95	弥生時代の層まで掘削。古墳時代前期の遺構・遺物確認	㊹
164	1996	18	津島北	AW03	環	環境理工学部新営予定地電柱移設工事	2		黒色土まで掘削	㊹
169	1996	25	津島北	AV13	図	附属図書館新営雨水桝・外構工事	1.3	1.0	造成土以下，青灰色粘質土，黄褐色粘質土，灰褐色粘質土を確認	㊹
180	1997	9	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事　擁壁部分	0.5		斜面部分にトレンチ３カ所。地山確認。	㊿
181	1997	10	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事　根伐工事部分	4.0	1.5	GL-1.5mで包含層確認。弥生土器片採集。	㊿
182	1997	11	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事　本体工事部分	2.0～2.5		工事範囲内未調査のうちに１／２掘削済。壁面で遺構確認。	㊿
183	1997	16	津島南	BB13～BH13	事	南北道路ガス管埋設工事			別紙参照	㊿
184	1997	18	三　朝		固	実験研究棟新営その他工事　電気埋設管路工事⑥西	1.0		1.0で中世層。包含層は東に向かい上面レベルが上昇。	㊿
185	1997	19	津島南		事	南北道路ガス管埋設工事	1.5		中世の粘土層検出。	㊿
188	1997	24	津島南	BC12	事	福利厚生施設新営に伴うその他工事　共同溝新設工事	2.0	0.8	GL-1.65。黒色土確認。近世・中世・古代，古代の溝確認。	㊿
191	1997	29	東　山		教	教育学部付属小・中学校他囲障改修工事	1.2	0.79	GL-1.1で水田確認。溝１条。	㊿
192	1997	37	津　島	津島地区全体	事	津島構内外灯設備工事	１～1.2	0.9～1.1	97年度は農学部から開始，薬学部他まで。	㊿

※発掘調査・試掘調査については全てを，立会調査については中世以前のもののみを対象としている。
　文献番号は附表３・４に対応する。

附表３　埋蔵文化財調査室刊行物

番号	名　　称	発行年月日
①	岡山大学構内遺跡調査研究年報１　1983年度	1985年２月28日
②	岡山大学構内遺跡調査研究年報２　1984年度	1985年３月30日
③	岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡（AW14区）の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第１集	1985年５月７日
④	岡山大学津島地区構内遺跡発掘調査報告Ⅱ（農学部構内BH13他） 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第2冊	1986年３月31日
⑤	岡山大学構内遺跡調査研究年報３　1985年度	1987年３月31日
⑥	岡山大学構内遺跡調査研究年報４　1986年度	1987年10月31日

附表４　埋蔵文化財調査研究センター刊行物

番号	名　　称	発行年月日
⑦	鹿田遺跡　Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第３冊	1988年３月31日
⑧	岡山大学構内遺跡調査研究年報５　1987年度	1988年10月31日
⑨	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第１号	1988年10月
⑩	鹿田遺跡　Ⅱ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第４冊	1990年３月31日
⑪	岡山大学構内遺跡調査研究年報６　1988年度	1989年10月14日
⑫	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第２号	1989年８月
⑬	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第３号	1990年２月
⑭	岡山大学構内遺跡調査研究年報７　1989年度	1990年11月20
⑮	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第４号	1990年７月
⑯	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第５号	1991年３月
⑰	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第６号	1991年８月
⑱	岡山大学構内遺跡調査研究年報８　1990年度	1991年12月10日
⑲	津島岡大遺跡３ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第５冊	1992年３月31日
⑳	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第７号	1992年３月
㉑	岡山大学構内遺跡調査研究年報９　1991年度	1992年12月21日
㉒	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第８号	1992年８月
㉓	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第９号	1993年３月
㉔	鹿田遺跡３ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第６冊	1993年３月31日
㉕	岡山大学構内遺跡調査研究年報10　1992年度	1993年12月20日

附　表

番号	名　　称	発行年月日
㉖	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第10号	1993年11月
㉗	津島岡大遺跡 4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第7冊	1994年 3 月31日
㉘	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第11号	1994年 3 月
㉙	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第12号	1994年10月
㉚	岡山人学構内遺跡調査研究年報11　1993年度	1995年 2 月28日
㉛	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第13号	1995年 3 月
㉜	津島岡大遺跡 5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第8冊	1995年 3 月31日
㉝	岡山大学構内遺跡調査研究年報12　1994年度	1995年12月28日
㉞	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第14号	1995年10月
㉟	津島岡大遺跡 6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第 9 冊	1995年12月30日
㊱	津島岡大遺跡 7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第10冊	1996年 2 月29日
㊲	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第15号	1996年 3 月
㊳	岡山大学構内遺跡調査研究年報13　1995年度	1996年10月22日
㊴	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第16号	1996年10月
㊵	鹿田遺跡 4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第11冊	1997年 3 月31日
㊶	津島岡大遺跡 8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第12冊	1997年 3 月31日
㊷	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第17号	1997年 3 月
㊸	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第18号	1997年 9 月
㊹	岡山大学構内遺跡調査研究年報14　1996年度	1997年11月30日
㊺	今，よみがえる古代　岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの10年	1997年11月 8 日
㊻	津島岡大遺跡 9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊	1997年12月20日
㊼	津島岡大遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊	1998年 3 月30日
㊽	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第19号	1998年 3 月
㊾	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第20号	1998年10月
㊿	岡山大学構内遺跡調査研究年報15　1997年度	1997年 1 月29日
51	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第21号	1999年 3 月

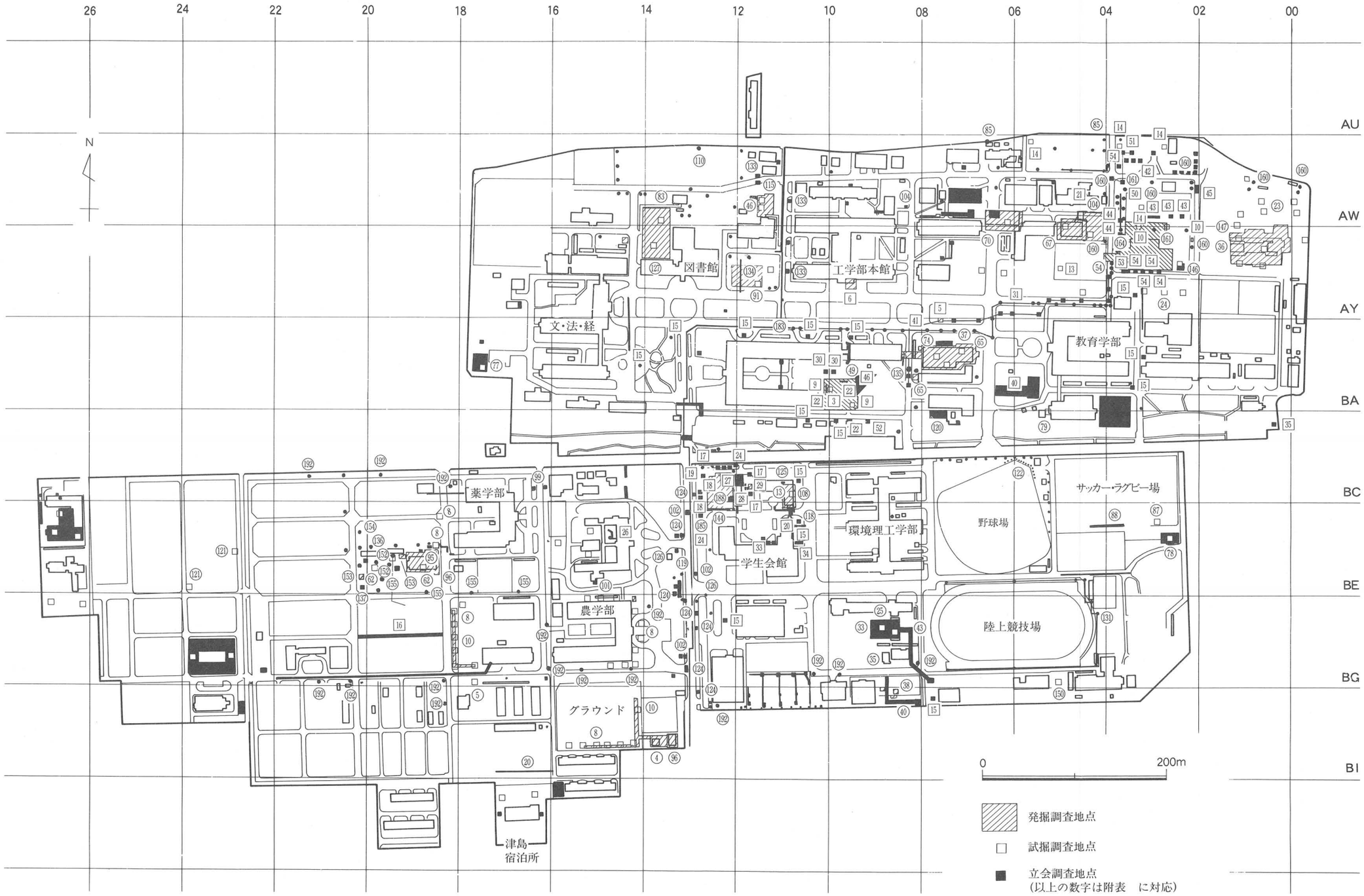


図41　1998年度までの調査地点〔1〕津島地区（縮尺1/7,500）

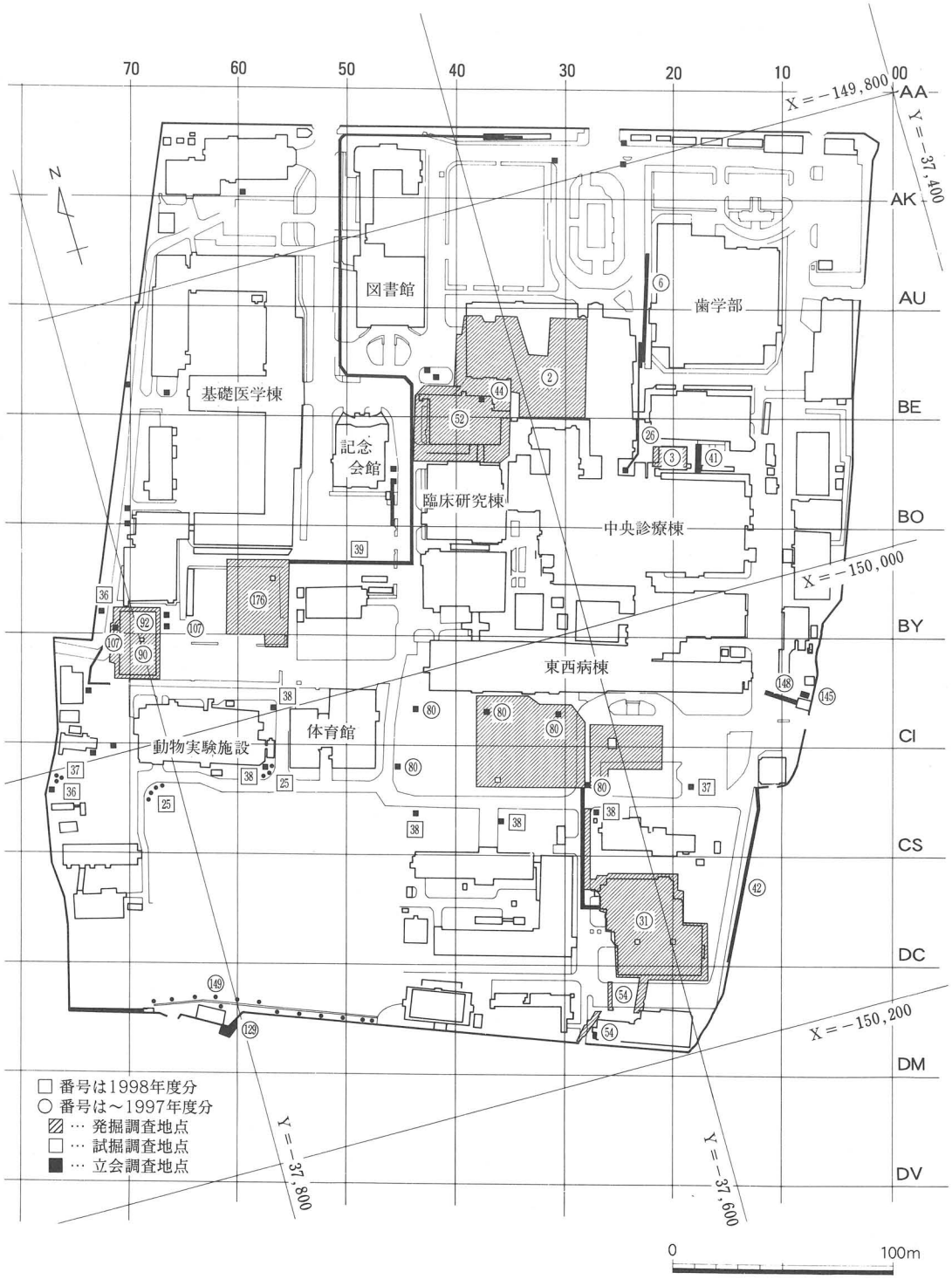


図42　1998年度までの調査地点〔2〕鹿田地区（縮尺1/5,000）

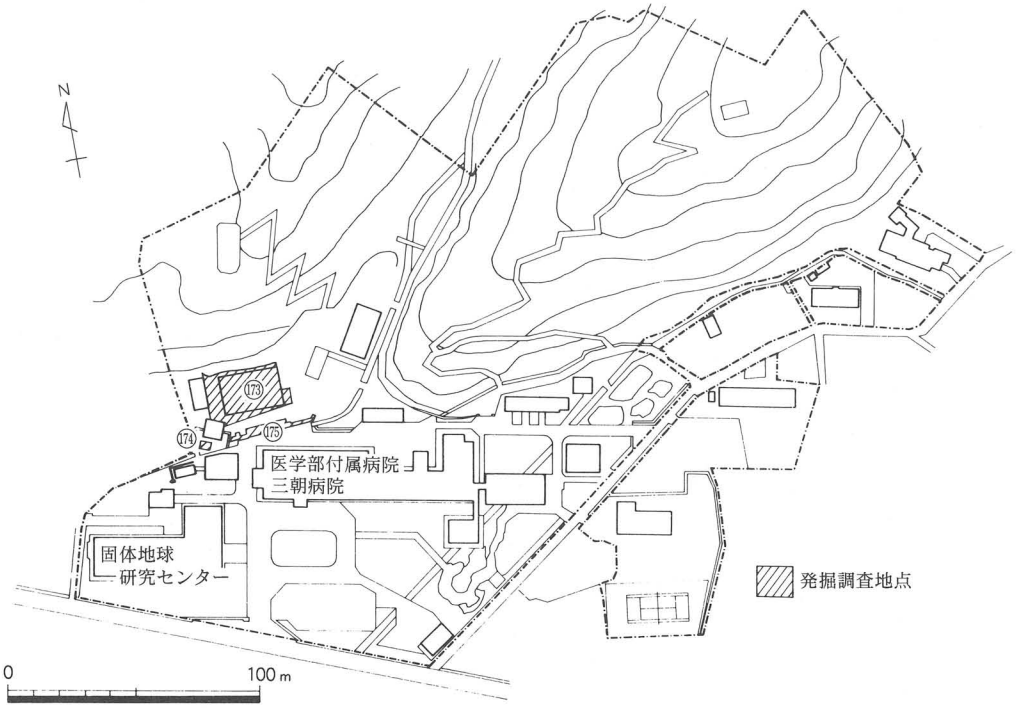


図43　1998年度までの調査地点〔3〕三朝地区（縮尺1/3,000）

2000年１月21日　印刷
2000年１月31日　発行

岡山大学構内遺跡調査研究年報16　1998年度

編集・発行　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山市津島中３丁目１番１号
(086)251-7290
印　　刷　西日本法規出版株式会社
岡山市高柳西町１―23
(086)255-2181(代)